

2020年度

現代福祉学部

履修の手引き

【2014-2017年度入学者用】



2020（令和2）年度 学年暦（市ヶ谷・多摩・小金井地区）

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
学年開始	4月1日(水)		
入学式	4月3日(金)		
春学期授業期間	4月7日(火)～7月17日(金)		
春学期補講日	授業期間内補講日：5月9日(土)、5月16日(土)、5月23日(土)、 6月27日(土)、7月4日(土)、7月11日(土) <small>(授業期間内補講日は、原則として、市ヶ谷地区については5時限目以降、多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)</small>		
春学期試験期間	7月18日(土)～7月28日(火) ※7月24日(金)除く		
夏季休業期間	7月29日(水)～9月17日(木)		
夏季集中特別授業期間	サマーセッション：7月29日(水)～8月4日(火) オータムセッション：9月11日(金)～9月17日(木)		
9月卒業学位記交付式	9月12日(土)		
秋学期授業期間 (補講日含む)	9月18日(金)～12月24日(木) 1月8日(金)～1月20日(水)		
秋学期補講日	授業期間内補講日： 10月17日(土)、10月24日(土)、 10月31日(土) 補講日： 11月4日(水)1～2限、 1月15日(金)1～2限、 1月19日(火)、20日(水)	授業期間内補講日： 10月24日(土)、11月7日(土) 補講日： 10月16日(金)1～2限、 11月5日(木)、1月15日(金)、 1月16日(土)、1月19日(火)、 1月20日(水)	授業期間内補講日： 10月17日(土)、10月24日(土)、 10月31日(土) 補講日： 1月15日(金)、1月16日(土)、 1月19日(火)、1月20日(水)
	<small>(授業期間内補講日は、原則として、市ヶ谷地区については5時限目以降、多摩地区については4時限目以降を補講時限とする)</small>		
冬季休業期間	12月25日(金)～1月7日(木)		
秋学期試験期間	1月21日(木)～2月2日(火)		
春季休業期間	2月3日(水)～3月31日(水)		
春季集中特別授業期間	スプリングセッション：3月9日(火)～3月22日(月)		
学位授与式	3月24日(水)		
学年終了	3月31日(水)		

〔市ヶ谷・多摩・小金井〕

- ・4月10日(金)創立記念日は5月1日(金)に振替
- ・4月30日(木)はレクリエーションデーにより休講
- ・5月1日(金)は創立記念日の振替により休講
- ・5月4日(月)みどりの日、5月6日(水)憲法記念日の振替休日、7月23日(木)海の日、9月21日(月)敬老の日、9月22日(火)秋分の日は授業等実施
- ・4月29日(水)昭和の日、5月5日(火)こどもの日、7月24日(金)スポーツの日、11月3日(火)文化の日、11月23日(月)勤労感謝の日、1月11日(月)成人の日は授業を実施しない
- ・10月16日(金)は法政祭(多摩地区)の準備日により3時限以降を休講、10月17日(土)は本祭開催により休講(多摩のみ)
- ・11月11日(水)は多摩スポーツフェスティバルのため休講(多摩のみ)
- ・1月15日(金)は大学入学共通テスト(旧大学入試センター試験)準備により3時限以降を休講、1月16日(土)は大学入学共通テスト(旧大学入試センター試験)実施により休講(市ヶ谷のみ)
- ・春季集中特別授業期間中の3月20日(土)春分の日は、特別授業実施日とする。

	市ヶ谷地区	多摩地区	小金井地区
春学期授業期間	15週3日		
秋学期授業期間	15週6日		
春学期試験期間	1週2日		
秋学期試験期間	1週6日		
夏季集中特別授業期間	2週0日		
春季集中特別授業期間	2週0日		
合計	38週1日		

※左表の授業期間は
ガイダンス期間・補講期間を含む

現代福祉学部がめざすもの

ゆりかごから墓場まで“From the Cradle to the Grave”といわれた20世紀の福祉国家が、いま大きな転換期を迎えています。これまでの国や公的部門が主導する福祉制度は国民の生活保障に大きく貢献してきました。しかし、国や公的部門による福祉だけではサービスが画一化してしまい、個人のニーズの多様化・複雑化に対して、血のかよったきめ細かな対応をすることができなくなってきました。また、日本ではだれもが文明の恩恵を享受できる時代になったのに、多くの人々が生活のゆとりを失い、あらゆる世代に心の渇きが広がっています。

こうした現状を打開し、すべての人が一生を通じて心豊かに、安心して暮らせるようになるには、新しい福祉社会を創出する必要があります。それは、生活者本位の社会であり、世代や性別、国籍を越えて、人びとが互いに連帯し、主体的に福祉コミュニティづくりに参加するなかで、はじめて可能となるものです。住民一人ひとりが、福祉の担い手であり、その恩恵をこうむる立場ともなり得るような社会の構築、すなわち「地域で共に生きる」という考え方が生活文化として根づくことによって、新しい福祉社会は具現化されることになるのです。

こうした認識にたって、法政大学で初めての臨床系の学部として、現代福祉学部は2000年4月に設立されました。いまあらためて福祉の原点に立ち戻り、福祉を「住民の生活の質の向上」（ヒューマン・サービスを核とする社会サービスの整備と充実）、「ウェルビーイング “Well-being”（健康で幸福な暮らし）の実現」と広義に理解することを立脚点としています。さらに、人間の尊厳と社会的連帯、および民主主義に基づいた複合的な福祉学の教育と研究を行い、新しい時代の福祉社会を築きあげ、世界の平和と人類の福祉に貢献することを目指します。

現代福祉学部で学ぶ

現代福祉学部長 水野 雅男

現代福祉学部では、教育理念として「ウェルビーイング “Well-being”（健康で幸福なくらし）の実現」を掲げています。そのような社会の実現に貢献できる人材となるためには、豊かさや幸せとは何かを探求し続ける姿勢と、社会で起きている様々な問題をしっかりと見極める観察眼を持つことが大切です。

現代の日本社会は、著しい経済的成長を遂げ、充実した社会基盤を築いてきた一方で、産業構造の急激な変化、少子高齢化、地方における過疎化、コミュニティの変容など、個々人の生活を支える経済的、社会的な状況は急速に変化しています。そういった社会構造の変容に直面した人々は、現在及び将来の生活に漠然とした不安を感じざるを得なくなっています。家庭崩壊、児童虐待、精神障害や自殺者の増加、孤独死などの問題が日常化してきていることも、このことと無関係ではありません。また地球規模において、環境問題や食糧問題、経済的格差の拡大など、我々の生活基盤を揺るがすような大きな問題が多発しています。

さらに近年、自然災害が頻発していることも、従来の社会のあり方や生活スタイルに疑問を抱かせています。特に、2011年3月未曾有の被害をもたらした東日本大震災と原発事故後に私たちが直面している様々な課題は、私たち自身の生き方を問うものであり、その生活を支える政治、経済、社会の制度や仕組みにも深く関わっています。経済的な成長と効率性を追求してきた社会は本当に豊かなのでしょうか、私たちに幸せをもたらしたのでしょうか。人口が減少に転じ、社会構造が大きく変わろうとしている今、個人や家族、地域社会の豊かさや幸せについて、しっかりと見つめ直す必要に迫られています。

現代福祉学部では、「社会福祉」「コミュニティマネジメント」「臨床心理」の三分野を基礎としており、分野相互の垣根を越えて総合的に学ぶことができます。しっかりとした基礎的素養の上に、幅広い専門性を獲得することにより、社会の実態をつぶさに観察し、その問題構造を解き明かし、新たな価値を生み出す対応策を導き出すことが可能となります。さらに、各分野の実習プログラムや海外・国内研修も用意されており、フィールドワークや臨床体験を通じて観察眼や聴取能力を養うことができます。また二年生以降では、少人数で構成される専門演習があり、ディスカッションを重ねながら研究活動やプロジェクト遂行に取り組むことで、探究心を磨き、企画力を身につけることができます。

本学部が有する幅広い専門性、多様な実習プログラムとフィールドワーク、少人数の専門演習という特性を積極的に習得・活用して、社会のすべての人々が豊かさや幸福感を感じられるように、「これからのウェルビーイング」を実現する意欲に満ちた人材として、羽ばたいてくださることを期待しています。

現代福祉学部のカリキュラムの特色

現代福祉学部教授会主任 保井 美樹

現代福祉学部は、ウェルビーイングの実現を目指す新しい社会を構築していくための研究・教育を展開することを基本理念として、社会福祉、コミュニティマネジメント、臨床心理の三本柱による特色あるカリキュラム編成によって2000年4月にそのスタートを切りました。2010年度からは、本学部の特性をいかに発揮するために、社会福祉・コミュニティマネジメントの専門科目を体系的に学ぶ「福祉コミュニティ学科」と、臨床心理学の専門科目を体系的に学ぶ「臨床心理学科」の二学科へと再編しました。

本学部のカリキュラムは、1年次を中心に学部全体に共通する学際的な知識を学習し、その上で、2年次から〈社会福祉／コミュニティマネジメント〉、〈臨床心理学〉における専門性の高い知識・技能を体系的に学ぶ編成となっています。カリキュラムの特色としては、次のような点をあげることができます。

第1に、本学部では、両学科にまたがる履修をできるだけ認めることにより、個々の関心に応じて複数の分野・領域にまたがって学ぶことができます。多様なカリキュラムを十二分に活かすためには、各人が学ぶ目的を明確にし、また将来の人生設計を視野に入れながら、しっかりと履修計画を立てていくことが大切です。

第2に、本学部は基礎演習、専門演習、英語演習といった演習科目に加えて、ソーシャルワーク実習、コミュニティスタディ実習、臨床心理実習といった実習科目を多く配置しているのが特徴です。これらの演習・実習は、実践を通して自分の専門性を高め、また仲間たちと切磋琢磨していくよい機会となります。ぜひ明確な目的を持って積極的に参加してください。

第3に、本学部のカリキュラムを樹にたとえるなら、総合教育科目は根に、専門基礎科目と専門基幹科目は幹に、専門展開科目は花や葉に、そして演習・実習科目は実に相当すると言えます。これらのどれもがしっかりと形作られないと、大きな樹は育ちません。本学部では、専門基礎科目と専門基幹科目の選択の仕方によって、その後どのように履修を進めていくのかが明確になるようにカリキュラムが編成されています。そこで特に1～2年次には、必修科目および選択必修科目を中心に、総合教育科目と専門基礎科目、専門基幹科目のしっかりとした履修をこころがけてください。

以上述べたような現代福祉学部のカリキュラムの特色を存分に活かして、充実した大学生生活を送ってほしいと思います。また皆さんがこのカリキュラムを、各自の人生設計のための有益な階梯として活用されることを心から期待します。

履修の手引き

■進級単位チェックシート（2020年度3年生用）

福祉コミュニケーション学科

〈2014～2016年度入学者用〉3年生から4年生へ進級できるかの確認に使ってください。

科目分類	科目/科目群	進級要件	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1～6)	
総合教育科目	基礎演習(I・II)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習(I・II)を修得していますか？(SSI生は除く)	
	スポーツ総合(I・II)	2単位				<input type="checkbox"/> CHECK 2 スポーツ総合(I・II)を修得していますか？	
	言語コミュニケーション科目 (基礎演習以外の) 学部共通科目 (スポーツ総合以外の) 視野形成科目 情報・調査系科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 3 言語コミュニケーション科目は8単位以上修得していますか？	
	小計				①		
	専門基礎科目	6単位				<input type="checkbox"/> CHECK 4 専門基礎科目を6単位以上修得していますか？	
	専門基幹科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 5 専門基幹科目を8単位以上修得していますか？	
	演習・実習科目						
	専門展開科目						
	専門教育科目	他学部公開科目			(8単位以内)	(8単位以内)	
		短期語学研修					
国際インターンシップ							
国際ボランティア							
グローバル・オープン科目							
成績優秀者他学部科目履修				(8単位以内)	(8単位以内)		
小計						②	
総合計 (①+②)	80単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 6 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて80単位以上修得していますか？	

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。

○1単位でも不足すると進級ができなくなります。(チェック項目1～6がすべてOKとならなければいけません。)

○転部、編入、同一学年に留まった場合は事務課で確認してください。

○進級について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

■進級単位チェックシート（2020年度3年次生用）

〈2014～2016年度入学者用〉3年生から4年生へ進級できるかの確認に使ってください。

臨床心理学科

科目分類	科目/科目群	進級要件	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1～8)	
総合教育科目	基礎演習(I・II)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習(I・II)を修得していますか？(SSI生は除く)	
	スポーツ総合(I・II)	2単位				<input type="checkbox"/> CHECK 2 スポーツ総合(I・II)を修得していますか？	
	言語コミュニケーション科目 (基礎演習(I・II)以外の) 学部共通科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 3 言語コミュニケーション科目を8単位以上修得していますか？	
	視野形成科目						
	心理データ解析I・II (心理データ解析I・II以外の) 情報・調査系科目	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 4 心理データ解析I・IIを修得していますか？	
	小計				①		
	専門演習I(A・B)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 5 専門演習I(A・B)を修得していますか？(SSI生は除く)	
	専門基礎科目	6単位				<input type="checkbox"/> CHECK 6 専門基礎科目を6単位以上修得していますか？	
	専門基幹科目 (専門演習I(A・B)以外の) 演習・実習科目	12単位				<input type="checkbox"/> CHECK 7 専門基幹科目を12単位以上修得していますか？	
	専門展開科目						
専門教育科目	他学部公開科目			(8単位以内)			
	短期語学研修						
	国際インターンシップ						
	国際ボランティア						
	グローバル・オープン科目						
	成績優秀者他学部科目履修			(8単位以内)			
	小計				②		
	総合計(①+②)		80単位以上				<input type="checkbox"/> CHECK 8 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて80単位以上修得していますか？

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。

○1単位でも不足すると進級ができなくなります。(チェック項目1～8がすべてOKとならなければいけません。)

○転部、編入、同一学年に留まった場合は事務課で確認してください。

○進級について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

■進級単位チェックシート（2020年度3年生用）

福祉コミュニケーション学科

（2017年度入学者用）3年生から4年生へ進級できるかの確認に使ってください。

科目/科目群	科目/科目群	進級要件	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1~6)
総合教育科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ(必修)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習Ⅰ・Ⅱを修得していますか？(SSI生は除く)
	言語コミュニケーション科目 (基礎演習Ⅰ・Ⅱ以外の) 学部共通科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 2 言語コミュニケーション科目は8単位以上修得していますか？
	視野形成科目					
	情報・調査系科目					
	小計				①	
	専門演習ⅠA・ⅠB(必修)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 3 専門演習ⅠA・ⅠBを修得していますか？(SSI生は除く)
	専門基礎科目	6単位				<input type="checkbox"/> CHECK 4 専門基礎科目を6単位以上修得していますか？
	専門基幹科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 5 専門基幹科目を8単位以上修得していますか？
	(専門演習ⅠA・ⅠB以外の) 演習・実習科目					
	専門展開科目					
専門教育科目	他学部公開科目			(8単位以内)	(8単位以内)	
	短期語学研修					
	国際インターンシップ					
	国際ボランティア					
	グローバル・オープン科目					
	成績優秀者他学部科目履修			(8単位以内)	(8単位以内)	
	小計				②	
	総合計(①+②)	80単位以上				<input type="checkbox"/> CHECK 6 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて80単位以上修得していますか？

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。

○1単位でも不足すると進級ができなくなります。(チェック項目1~6がすべてOKとならなければいけません。)

○転部、編入、同一学年に留まった場合は事務課で確認してください。

○進級について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

■進級単位チェックシート（2020年度3年次生用）

〈2017年度入学者用〉3年生から4年生へ進級できるかの確認に使ってください。

臨床心理学科

科目分類	科目/科目群	進級要件	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1~7)
総合教育科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ(必修)	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習Ⅰ・Ⅱを修得していますか？(SSI生は除く)
	言語コミュニケーション科目 (基礎演習Ⅰ・Ⅱ以外の) 学部共通科目	8単位				<input type="checkbox"/> CHECK 2 言語コミュニケーション科目を8単位以上修得していますか？
	視野形成科目					
	心理データ解析Ⅰ・Ⅱ (心理データ解析Ⅰ・Ⅱ以外の) 情報・調査系科目	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 3 心理データ解析Ⅰ・Ⅱを修得していますか？
	小計				①	
	専門演習ⅠA・ⅠB	4単位				<input type="checkbox"/> CHECK 4 専門演習ⅠA・ⅠBを修得していますか？(SSI生は除く)
	専門基礎科目	6単位				<input type="checkbox"/> CHECK 5 専門基礎科目を6単位以上修得していますか？
	専門基幹科目 (専門演習ⅠA・ⅠB以外の) 演習・実習科目	12単位				<input type="checkbox"/> CHECK 6 専門基幹科目を12単位以上修得していますか？
	専門展開科目					
	他学部公開科目					
専門教育科目	短期語学研修				(8単位以内)	
	国際インターシップ					
	国際ボランティア					
	グローバル・オープン科目					
	成績優秀者他学部科目履修				(8単位以内)	
	小計				②	
	総合計(①+②)	80単位以上				<input type="checkbox"/> CHECK 7 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて80単位以上修得していますか？

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。

○1単位でも不足すると進級ができなくなります。(チェック項目1~7がすべてOKとならなければいけません。)

○転部、編入、同一学年に留まった場合は事務課で確認してください。

○進級について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

卒業所要単位チェックシート（2020年度4年次生用）

福祉コミュニケーション学科

〈2014～2016年度入学者用〉4年次には最低でも4単位以上修得する必要があります。卒業できるかの確認に使ってください。

科目分類	科目/科目群	卒業要件	うち必修科目	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1～9)
総合教育科目	学部共通科目	6単位以上	基礎演習(I・II) <input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習(I・II)を修得していますか？
	視野形成科目		スポーツ総合(I・II) <input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/> CHECK 2 スポーツ総合(I・II)を修得していますか？
	情報・調査系科目						
	言語コミュニケーション科目	10単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 3 言語コミュニケーション科目は10単位以上修得していますか？
	小計	30単位以上				①	<input type="checkbox"/> CHECK 4 総合教育科目を合計30単位以上修得していますか？
	専門基礎科目	8単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 5 専門基礎科目は8単位以上修得していますか？
	専門基幹科目	10単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 6 専門基幹科目は10単位以上修得していますか？
	専門展開科目						
	演習・実習科目						
	専門教育科目	他学部公開科目				(8単位以内)	
短期語学研修							
国際インターンシップ		20単位以内					
国際ボランティア							
グローバル・オープン科目							
成績優秀者他学部科目履修							
小計		80単位以上				②	<input type="checkbox"/> CHECK 7 専門教育科目を合計80単位以上修得していますか？
総合計(①+②)		124単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 8 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて124単位以上修得していますか？
							<input type="checkbox"/> CHECK 9 4年次に4単位以上を修得していますか？

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。

○1単位でも不足すると卒業はできません。(チェック項目1～9がすべてOKとならなければいけません。)

○卒業について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

現代福祉学部

卒業所要単位チェックシート（2020年度4年生用）

臨床心理学科

〈2014～2016年度入学者用〉4年次には最低でも4単位以上修得する必要があります。卒業できるかの確認に使ってください。

科目分類	科目/科目群	卒業要件	うち必修科目	修得済単位(A)	今年度履修登録単位(B)	(A)+(B)	チェック項目(1～12)			
総合教育科目	学部共通科目	10単位必修	基礎演習(I・II)	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> CHECK 1 基礎演習(I・II)を修得していますか？			
	視野形成科目		スポーツ総合(I・II)	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> CHECK 2 スポーツ総合(I・II)を修得していますか？			
	情報・調査系科目		心理データ解析I	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> CHECK 3 心理データ解析I・IIを修得していますか？			
			心理データ解析II	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> CHECK 4 言語コミュニケーション科目を10単位以上修得していますか？			
	言語コミュニケーション科目	10単位以上					<input type="checkbox"/> CHECK 5 総合教育科目を合計30単位以上修得していますか？			
	小計	30単位以上				①				
	専門教育科目	専門基礎科目	8単位必修	心理学	<input type="checkbox"/>			<input type="checkbox"/> CHECK 6 必修科目4つを修得していますか？		
		専門基幹科目	8単位必修 16単位以上	心理学概論	<input type="checkbox"/>					<input type="checkbox"/> CHECK 7 必修科目4つを修得し、かつ合計16単位以上修得していますか？
				心理学基礎実験I	<input type="checkbox"/>					
				心理学基礎実験II	<input type="checkbox"/>					
専門展開科目		16単位必修	臨床心理学I	<input type="checkbox"/>						
			発達心理学	<input type="checkbox"/>						
			心理療法I	<input type="checkbox"/>						
演習・実習		16単位必修		心理検査法I	<input type="checkbox"/>					
				専門演習I(A・B)	<input type="checkbox"/>				<input type="checkbox"/> CHECK 8 専門演習I(A・B)～III(A・B)をすべて修得していますか？	
				専門演習II(A・B)	<input type="checkbox"/>					
	専門演習III(A・B)			<input type="checkbox"/>						
卒業論文	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/> CHECK 9 卒業論文は必修です。卒業論文を提出していますか？								
自由科目	他学部公開科目	20単位以内								
	短期語学研修									
	国際インターンシップ									
	国際ボランティア									
	グローバル・オープン科目									
成績優秀者他学部科目履修										
小計	80単位以上					②	<input type="checkbox"/> CHECK 10 専門教育科目を合計80単位以上修得していますか？			
総合計(①+②)	124単位以上						<input type="checkbox"/> CHECK 11 総合教育科目(①)と専門教育科目(②)を合わせて124単位以上修得していますか？			

CHECK 12 4年次に4単位以上を修得していますか？

○履修登録、単位修得は余裕をもって行ってください。
 ○1単位でも不足すると卒業できません。(チェック項目1～12がすべてOKとならなければいけません。)
 ○卒業について事務課に相談をする場合は「履修登録科目確認通知書」を持参してください。

現代福祉学部

目次

I 大学の授業

- 進級・卒業の要件 ●履修登録 ●授業
- 試験・成績評価 ●法政ポータルサイト(Hoppi)

II カリキュラム

<福祉コミュニティ学科>

- カリキュラム ●演習・実習科目 ●自由科目
- 各学年での履修

<臨床心理学科>

- カリキュラム ●演習・実習科目 ●自由科目
- 各学年での履修

III 資格取得

- 社会福祉士・精神保健福祉士 ●スクール(学校)ソーシャルワーク教育課程認定事業
- 認定心理士 ●公認心理師 ●社会福祉主事 ●教職・資格課程

IV 研修・海外留学・英語プログラム

- 現代福祉学部における特別制度 ●海外留学 ●英語力を磨くプログラムや相談窓口

V 卒業後の進路に向けて

- キャリアセンター ●高度会計人育成センター ●公務人材育成センター
- エクステンション・カレッジ ●大学院への進学

VI 学生生活・大学での諸手続き

- 現代福祉学部事務課 ●他の学生関連事務部局等

VII 付録

- 専任教員紹介 ●多摩キャンパスマップ



卒業までの流れ

時間割を組む

「時間割表」「シラバス（web）」を用意し、以下の順番で考えます。

1. 「必修科目」を調べる。
2. 「総合教育科目」を決める。
3. 自分の学科の「選択必修科目」「選択科目」を決める。
4. 専門展開、自由科目（他学部公開、短期語学、国際インターンシップ、グローバル・オープン科目など）



履修登録と履修確認

情報システムを利用してパソコンやスマートフォンで履修登録をします。

その後、「履修登録科目確認通知書」をプリントアウトし、履修確認もしっかり行ってください。



授業を受ける

大学の単位認定は、授業時間内の学修だけでなく、予習・復習も必要になります。

予習・復習方法をwebシラバスにて確認し、しっかりと授業に出席してください。

授業時間は以下の通りです。

- 1時限（9：20～11：00） 2時限（11：10～12：50） 3時限（13：40～15：20）
4時限（15：30～17：10） 5時限（17：20～19：00）

休講・補講については本誌の該当ページでご確認ください。

なお、授業に関する情報は常に最新の情報をご確認ください。



試験とレポートの提出

定期試験は、春学期および秋学期それぞれの学期末に行われます。

科目によっては授業内のテストやレポートを行う場合もあります。



単位を修得する

修得した単位数を4年間で、124単位以上にしなければなりません。単に124単位を修得するのではなく、すべての必修科目、必要となる選択必修科目の単位をしっかりと修得した上で、124単位以上となる必要があります。まず授業に出席するとともに履修登録、履修確認を行い、試験を受ける、レポートを提出するなどして、S・A・B・Cの評価がついた場合、合格となり単位を修得したことになります。

※1年間で履修できる単位の上限は決まっています。本誌の該当ページでご確認ください。



卒業

4カ年以上在籍し、所定の単位を修得したものは卒業資格を得て学士の学位が授与されます。

目次

I. 大学の授業

現代福祉学部の授業科目/単位制度について…………… 21

1. 進級・卒業の要件

- (1) 修業年限および在学年限について…………… 22
- (2) 進級要件・卒業要件について…………… 22
 - a. 2017 年度入学者
 - b. 2014～2016 年度入学者
- (3) 9 月卒業について…………… 27

2. 履修登録

- (1) 履修登録申請について～WEBでの申請～… 28
- (2) 科目登録上の注意…………… 29
- (3) 履修登録単位の上限…………… 29
- (4) 秋学期科目の履修登録変更…………… 30
- (5) 履修前提科目不合格に伴う秋学期科目履修削除…………… 32
- (6) 既修得単位の認定…………… 32

3. 授業

大学での授業/授業時間/授業への出席・欠席/授業教室の変更/授業の休講/補講/オフィスアワーについて…………… 33

4. 試験・成績評価

- 【試験】
- (1) 試験について…………… 36
- (2) 受験上の注意…………… 36
- (3) 試験等における不正行為について…………… 37
- (4) 追試験について…………… 39
- 【成績】
- (5) 成績発表・成績調査について…………… 40
- (6) 成績評価・GPA制度について…………… 40

5. 法政ポータルサイト (Hoppii)…………… 43

II. カリキュラム

<福祉コミュニティ学科>

1. カリキュラム

- 【基本構造】…………… 55
- (1) 総合教育科目
 - 総合教育科目一覧…………… 56
 - a. 学部共通科目…………… 58
 - b. 言語コミュニケーション科目…………… 59
 - 英語/中国語/国際コミュニケーション/インテンシブ・イングリッシュ/語学検定試験成績による言語コミュニケーション科目の認定について
 - c. 視野形成科目…………… 63
 - スポーツ総合/スポーツ種目
 - d. 情報・調査系科目…………… 64
- (2) 専門教育科目
 - 専門教育科目一覧…………… 65
 - a. 専門基礎科目…………… 67
 - b. 専門基幹科目…………… 67
 - c. 専門展開科目…………… 67

2. 演習・実習科目

- (1) 専門演習…………… 68
- (2) 卒業論文…………… 68
- (3) 英語専門演習…………… 70
- (4) 実習科目…………… 70
 - ①ソーシャルワーク実習…………… 71
 - ②コミュニティスタディ実習…………… 74
 - ③精神保健ソーシャルワーク実習…………… 75
 - ④スクールソーシャルワーク実習…………… 78
 - 実習指導室について…………… 79
- (5) 認定課外実習…………… 80
- (6) スタディ・アブロード…………… 80

3. 自由科目

- (1) 他学部公開科目について…………… 82
- (2) 短期語学研修…………… 82
- (3) 国際ボランティア、国際インターンシップ…………… 82
- (4) グローバル・オープン科目…………… 83
- (5) 成績優秀者科目履修…………… 83

4. 各学年での履修

- (1) 1 年次…………… 84
- (2) 2 年次…………… 85
- (3) 3 年次…………… 85
- (4) 4 年次…………… 86
- (5) 研究活動の不正行為について…………… 87

<臨床心理学科>

1. カリキュラム

- 【基本構造】…………… 91
- (1) 総合教育科目
 - 総合教育科目一覧…………… 92
 - a. 学部共通科目…………… 94
 - b. 言語コミュニケーション科目…………… 95
 - 英語/中国語/国際コミュニケーション/インテンシブ・イングリッシュ/語学検定試験成績による言語コミュニケーション科目の認定について
 - c. 視野形成科目…………… 99
 - スポーツ総合/心理学/スポーツ種目
 - d. 情報・調査系科目…………… 100
- (2) 専門教育科目
 - 専門教育科目一覧…………… 101
 - a. 専門基礎科目…………… 102
 - b. 専門基幹科目…………… 102
 - c. 専門展開科目…………… 103

2. 演習・実習科目

- (1) 専門演習…………… 104
- (2) 卒業論文…………… 104
- (3) 英語専門演習…………… 106
- (4) 臨床心理実習…………… 106
 - 実習指導室について…………… 109
- (5) 認定課外実習…………… 109
- (6) スタディ・アブロード…………… 110

3. 自由科目

- (1) 他学部公開科目について…………… 111
- (2) 短期語学研修…………… 111
- (3) 国際ボランティア、国際インターンシップ…………… 111
- (4) グローバル・オープン科目…………… 112
- (5) 成績優秀者科目履修…………… 112

4. 各学年での履修

- (1) 1年次…………… 113
- (2) 2年次…………… 114
- (3) 3年次…………… 114
- (4) 4年次…………… 115
- (5) 研究活動の不正行為について…………… 115

III. 資格取得

〈福祉コミュニティ学科のみ取得できる資格〉

- (1) 社会福祉士…………… 119
- (2) 精神保健福祉士…………… 121
 - ①国家試験受験のための手続…………… 121
 - ②国家試験対策講座…………… 122
- (3) スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業…………… 124

〈臨床心理学科のみ取得できる資格〉

- (4) 認定心理士…………… 125
- (5) 公認心理師…………… 127

〈両学科取得できる資格〉

- (6) 社会福祉主事…………… 127
- (7) 教職課程…………… 127
 - ①福祉コミュニティ学科…………… 127
 - 免許状の種類別に必要な単位数…………… 128
 - ②臨床心理学科…………… 129
 - 免許状の種類別に必要な単位数…………… 129
- (8) 図書館司書…………… 130
- (9) 学校図書館司書教諭…………… 130
- (10) 社会教育主事…………… 130
- (11) 博物館学芸員…………… 130

IV. 研修・海外留学・英語プログラム

1. 現代福祉学部における特別制度

- 海外研修／国内研修／課外講座…………… 133

2. 海外留学

- (1) 法政大学派遣留学制度…………… 134
- (2) 認定海外留学…………… 135

3. 英語力を磨くプログラムや相談窓口

- (1) 短期語学研修…………… 136
- (2) 国際ボランティア…………… 137
- (3) 国際インターンシップ…………… 137
- (4) 単位認定について…………… 138
- (5) 交換留学生受け入れプログラム（ESOP）の受講…………… 138
- (6) グローバル・オープン科目の概要…………… 138
- (7) グローバル・オープン科目の領域と修了証について…………… 140

- (8) ERP（英語強化プログラム）…………… 142
- (9) 多摩Gラウンジ…………… 144
- (10) 多摩事務部学務課グローバル担当…………… 144

V. 卒業後の進路に向けて

- (1) キャリアセンター…………… 147
- (2) 高度会計人育成センター…………… 148
- (3) 公務人材育成センター…………… 148
- (4) エクステンション・カレッジ…………… 149
- (5) 大学院への進学…………… 150
 - ①修士課程
 - ②博士後期課程

VI. 学生生活・大学での諸手続

1. 現代福祉学部事務課

主な取扱業務/受付時間/連絡事項のお知らせ方法
/保証人の方へのご連絡/個人情報の保護

- 学生証について…………… 154
- 学籍について/学籍の異動…………… 154
 - 休学/退学/復学/除籍/復籍
 - 学生の懲戒について
 - 改姓・改名、住所、電話番号、保証人などの変更
- 学費について…………… 158
- 転籍・転部・転科について…………… 159
- 証明書について…………… 160
 - 証明書の種類/健康診断証明書/郵送での申請
 - /各種証明書発行時の本人確認について
- 学生生活について…………… 161
 - 掲示板の利用/学生ラウンジの使用/教室の貸出
 - /パソコンの貸出/コピー機の利用
 - /キャンパス内禁煙について
- ゼミ合宿の補助について…………… 163
- 和ちゃん奨学金について…………… 163

2. 他の学生関連事務部局等

- 多摩図書館…………… 164
- 多摩学生生活課…………… 165
- 多摩情報センター…………… 168
- CALL支援室・フリーラボラーム…………… 168
- 多摩体育課…………… 169
- 保健課「多摩診療所」…………… 169
- 多摩学生相談室…………… 170
- 障がい学生支援室（多摩）…………… 170
- 多摩地域交流センター…………… 171
- ボランティアセンター…………… 172
- ハラスメント相談室…………… 173
- 総務課…………… 173

VII. 付録

- ~~専任教員紹介…………… 177~~
- 多摩キャンパスマップ…………… 193

福祉コミュニティ学科 2017 年度入学者用

専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB 卒業論文 英語専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 認定課外実習

(12単位必修)
演習・実習科目

コミュニティスタディ実習・実習指導Ⅰ・Ⅱ・演習
ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ・演習Ⅰ～Ⅴ
精神保健ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ・演習Ⅰ・Ⅱ
スクールソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ・Ⅱ・演習

専門展開科目

ソーシャルポリシー分野

社会福祉原理
医療政策論
保健医療サービス
社会保障論
公的扶助論
雇用政策論
都市住宅政策論
地域文化政策論
環境政策論
地方自治論
政策評価論
地方財政論
地域経済論
福祉行財政と福祉計画
司法福祉論
国際支援論
福祉の思想と歴史
Community Based Inclusive Development

コミュニティマネジメント分野

地域経営論
ソーシャルイノベーション論
ソーシャルマネジメント論
ソーシャルファイナンス論
NPO論
協同組合論
福祉サービスの組織と経営
居住福祉論
災害支援論
人権活動論
都市とコミュニティ
農山村とコミュニティ
コミュニティアート
コミュニティスポーツ
文化環境創造論
地域遺産マネジメント論
地域ツーリズム
住民参加の手法
精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ
精神保健学
地域リハビリテーション
Disability and Development in Asia

ヒューマンサポート分野

高齢者福祉論
介護福祉論
障害者福祉論
家族福祉論
児童福祉論
若者支援論
女性福祉論
権利擁護と成年後見
セルフヘルプグループ
老いの文化と福祉
スクールソーシャルワーク
コミュニティソーシャルワーク
多文化ソーシャルワーク
死生観とソーシャルワーク
精神保健ソーシャルワークⅠ・Ⅱ
精神科リハビリテーション学
精神医学
発達心理学
臨床心理学
家族心理学
教育心理学
学校心理学
障害者心理学
高齢者心理学
コミュニティ心理学
異文化心理学
芸術療法

(10単位選択必修) 専門基礎科目	福祉国家論 地域福祉論 社会的包摂論 地域計画論 コミュニティビジネス論	ボランティアアクション ソーシャルワークⅡ(理論) ソーシャルワークⅢ(方法) ケアマネジメント論 カウンセリング
(8単位選択必修) 専門基礎科目	地域問題入門 まちづくりの思想 地域の歴史と文化	社会問題論 社会福祉概論 ソーシャルワークⅠ(相談援助の基盤と専門職)
(4単位必修) 学部共通科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ	フィールドスタディ入門 キャリアデザイン論 多摩地域形成論
視野形成科目	<p><人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化 環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 心理学 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ</p> <p><社会系> 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学</p> <p><自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ</p>	
情報・調査科目	コンピュータ入門Ⅰ・Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル)	データの収集と分析Ⅰ・Ⅱ WEBデザイン 社会調査法Ⅰ・Ⅱ 統計学 社会福祉調査
(10単位必修) 言語コミュニケーション科目	英語1～5 英語6～10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B～5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B～3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B～3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1～4 インテンシヴ・イングリッシュ5～8	

福祉コミュニティ学科 2015年度・2016年度入学者用

カリキュラム構成図

演習・実習科目	専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB・ⅢA・ⅢB 卒業論文 英語専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 認定課外実習
	コミュニティスタディ実習・実習指導Ⅰ・Ⅱ・演習 ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ・演習Ⅰ～Ⅴ 精神保健ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ・演習Ⅰ・Ⅱ スクールソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ・Ⅱ・演習

専門展開科目

- | | | |
|-------------|----------------|-------------|
| ソーシャルポリシー分野 | コミュニティマネジメント分野 | ヒューマンサポート分野 |
|-------------|----------------|-------------|

社会福祉原理 医療政策論 保健医療サービス 社会保障論 公的扶助論 雇用政策論 都市住宅政策論 地域文化政策論 環境政策論 地方自治論 政策評価論 地方財政論 地域経済論 福祉行財政と福祉計画 司法福祉論 国際支援論 福祉の思想と歴史 Community Based Inclusive Development	地域経営論 ソーシャルイノベーション論 ソーシャルマネジメント論 ソーシャルファイナンス論 NPO論 協同組合論 福祉サービスの組織と経営 居住福祉論 災害支援論 人権活動論	都市とコミュニティ 農山村とコミュニティ コミュニティアート コミュニティスポーツ 文化環境創造論 地域遺産マネジメント論 地域ツーリズム 住民参加の手法 精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ 精神保健学 地域リハビリテーション Disability and Development in Asia	高齢者福祉論 介護福祉論 障害者福祉論 家族福祉論 児童福祉論 若者支援論 女性福祉論 権利擁護と成年後見 セルフヘルプグループ 老いの文化と福祉 スクールソーシャルワーク コミュニティソーシャルワーク 多文化ソーシャルワーク 死生観とソーシャルワーク 精神保健ソーシャルワークⅠ・Ⅱ 精神科リハビリテーション学 精神医学 発達心理学	臨床心理学 家族心理学 教育心理学 学校心理学 障害者心理学 高齢者心理学 コミュニティ心理学 異文化心理学 芸術療法
--	--	--	--	---

(10単位選択必修)	専門基礎科目	福祉国家論 地域福祉論 社会的包摂論 地域計画論 コミュニティビジネス論	ボランティアアクション ソーシャルワークⅡ(理論) ソーシャルワークⅢ(方法) ケアマネジメント論 カウンセリング
(8単位選択必修)	専門基礎科目	地域問題入門 まちづくりの思想 地域の歴史と文化	社会問題論 社会福祉概論 ソーシャルワークⅠ(相談援助の基盤と専門職)
(4単位必修)	学部共通	基礎演習Ⅰ・Ⅱ フィールドスタディ入門 キャリアデザイン論 多摩地域形成論	
(2単位必修)	視野形成科目	<人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化 環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 心理学 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ <社会系> 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学 <自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ	
情報系科目	調査	コンピュータ入門Ⅰ・Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル) データの収集と分析Ⅰ・Ⅱ WEBデザイン 社会調査法Ⅰ・Ⅱ 統計学 社会福祉調査	
(10単位必修)	言語コミュニケーション科目	英語1～5 英語6～10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B～5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B～3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B～3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1～4 インテンシヴ・イングリッシュ5～8	

福祉コミュニティ学科 2014 年度入学者用

カリキュラム構成図

演習・実習科目	専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	卒業論文	英語専門演習Ⅰ・Ⅱ	認定課外実習
	コミュニティスタディ実習・実習指導・演習 ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ・演習Ⅰ～Ⅴ 精神保健ソーシャルワーク実習・実習指導Ⅰ・Ⅱ・演習Ⅰ・Ⅱ スクールソーシャルワーク実習・実習指導・演習			

専門展開科目

ソーシャルポリシー分野

社会福祉原理
 医療政策論
 保健医療サービス
 社会保障論
 公的扶助論
 雇用政策論
 都市住宅政策論
 地域文化政策論
 環境政策論
 地方自治論
 政策評価論
 地方財政論
 地域経済論
 福祉行財政と福祉計画
 司法福祉論
 国際支援論
 福祉の思想と歴史
 Community Based Inclusive Development

コミュニティマネジメント分野

地域経営論
 ソーシャルイノベーション論
 ソーシャルマネジメント論
 ソーシャルファイナンス論
 NPO論
 協同組合論
 福祉サービスの組織と経営
 居住福祉論
 災害支援論
 人権活動論

都市とコミュニティ
 農山村とコミュニティ
 コミュニティアート
 コミュニティスポーツ
 文化環境創造論
 地域遺産マネジメント論
 地域ツーリズム
 住民参加の手法
 精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ
 精神保健学
 地域リハビリテーション
 Disability and Development in Asia

ヒューマンサポート分野

高齢者福祉論
 介護福祉論
 障害者福祉論
 家族福祉論
 児童福祉論
 若者支援論
 女性福祉論
 権利擁護と成年後見
 セルフヘルプグループ
 老いの文化と福祉
 スクールソーシャルワーク
 コミュニティソーシャルワーク
 多文化ソーシャルワーク
 死生観とソーシャルワーク
 精神保健ソーシャルワークⅠ・Ⅱ
 精神科リハビリテーション学
 精神医学
 発達心理学

臨床心理学
 家族心理学
 教育心理学
 学校心理学
 障害者心理学
 高齢者心理学
 コミュニティ心理学
 異文化心理学
 芸術療法

(10単位選択必修)	福祉国家論 地域福祉論 社会的包摂論 地域計画論 コミュニティビジネス論	ボランティアアクション ソーシャルワークⅡ(理論) ソーシャルワークⅢ(方法) ケアマネジメント論 カウンセリング
(8単位選択必修)	地域問題入門 まちづくりの思想 地域の歴史と文化	社会問題論 社会福祉概論 ソーシャルワークⅠ(相談援助の基盤と専門職)
(4単位必修)	基礎演習	フィールドスタディ入門
(2単位必修)	基礎演習	キャリアデザイン論 多摩地域形成論
(2単位必修)	<人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化 環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 心理学 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ <社会系> 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学 <自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合 スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ	
情報・調査	コンピュータ入門Ⅰ・Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル)	データの収集と分析Ⅰ・Ⅱ WEBデザイン
言語(10単位必修)	英語1～5 英語6～10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B～5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B～3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B～3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1～4 インテンシヴ・イングリッシュ5～8	

福祉コミュニティ学科 2014 年度入学者用
科目群と各科目の開講年次

科目区分		<2年次からの配当科目・単位>		<3年次からの配当科目・単位>		<4年次からの配当科目・単位>			
卒業所要単位 (124単位以上)	演習・実習科目	●※ソーシャルワーク演習 I	2	●※ソーシャルワーク演習 II	2	※精神保健ソーシャルワーク演習 I	2	専門演習 III	4
		コミュニティスタディ演習	2	●※ソーシャルワーク演習 III	2	※精神保健ソーシャルワーク演習 II	2	卒業論文	4
		●ソーシャルワーク実習指導 I	2	●※ソーシャルワーク演習 IV	2	スクールソーシャルワーク実習	2		
		専門演習 I	4	●※ソーシャルワーク演習 V	2	※精神保健ソーシャルワーク実習	4		
		英語専門演習 I	4	●ソーシャルワーク実習	4	スクールソーシャルワーク実習	2		
				●コミュニティスタディ実習	2	※精神保健ソーシャルワーク実習指導 II	2		
				●ソーシャルワーク実習指導 II	1	スクールソーシャルワーク実習指導	2		
				●ソーシャルワーク実習指導 III	1				
				●コミュニティスタディ実習指導	2				
				※精神保健ソーシャルワーク実習指導 I	1				
			専門演習 II	4					
			英語専門演習 II	4					
専門教育科目 (80単位以上)	ソーシャル分野	<1年次からの配当科目・単位>		<2年次からの配当科目・単位>		<3年次からの配当科目・単位>			
		社会福祉原理	2	地域文化政策論	2	●司法福祉論	2		
		医療政策論	2	環境政策論	2	国際支援論	2		
	コミュニティ分野	●※保健医療サービス	2	●※社会保障論	2	福祉の思想と歴史	2		
		●※公的扶助論	2	●※社会的扶助論	2	Community Based Inclusive Development	2		
		雇用政策論	2	●※地域経済論	2				
	サポーター分野	都市住宅政策論	2	●※福祉行政と福祉計画	2				
		地域経営論	2	災害支援論	2	地域ツーリズム	2		
		ソーシャルイノベーション論	2	人権活動論	2	住民参加の手法	2		
	専門展開科目 (10単位以上)	ソーシャルマネジメント論	2	都市とコミュニティ	2	※精神保健福祉論 I	2		
ソーシャルファイナンス論		2	農山村とコミュニティ	2	※精神保健福祉論 II	2			
NPO論		2	コミュニティアート	2	※精神保健学	2			
協同組合論		2	コミュニティスポーツ	2	地域リハビリテーション	2			
●福祉サービスの組織と経営		2	文化環境創造論	2	Disability and Development in Asia	2			
居住福祉論		2	地域遺産マネジメント論	2					
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	●※地域福祉論	2	●高年齢福祉論	2	※精神保健ソーシャルワーク I	2	家族福祉論	2
		社会的包摂論	2	●※障害者福祉論	2	※精神保健ソーシャルワーク II	2	若者支援論	2
		地域計画論	2	●児童福祉論	2	※精神科リハビリテーション学	2	●※権利擁護と成年後見	2
		コミュニティビジネス論	2	女性福祉論	2	※精神医学	2	発達心理学	2
	専門基礎科目 (8単位以上)	ボランティアアクション	2	セルフヘルプグループ	2	臨床心理学	2	家族心理学	2
		カウセリング	2	●※コミュニティソーシャルワーク	2	教育心理学	2	学校心理学	2
				多文化ソーシャルワーク	2	障害者心理学	2	高齢者心理学	2
				死生観とソーシャルワーク	2	●※コミュニティ心理学	2	異文化心理学	2
					芸術療法	2			
					介護福祉論	2			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	<1年次からの配当科目・単位>		<2年次からの配当科目・単位>		<3年次からの配当科目・単位>			
		基礎演習	4	基礎数学 I	2	英語 6	1	インテンシブ・イングリッシュ 5	1
		フィールドスタディ入門	2	基礎数学 II	2	英語 7	1	インテンシブ・イングリッシュ 6	1
		キャリアデザイン論	2	ヘルスプロモーション	2	英語 8	1	インテンシブ・イングリッシュ 7	1
	人文系	多摩地域形成論	2	☆ スポーツ総合	2	英語 9	1	インテンシブ・イングリッシュ 8	1
		文学	2			中国語 3 A	1		
		創作表現論	2			中国語 3 B	1		
		文化人類学	2			中国語 4 A	1		
	社会系	哲学 I	2			中国語 4 B	1		
		哲学 II	2			中国語 5 A	1		
法学		2			中国語 5 B	1			
日本国憲法		2			国際コミュニケーション (中国語 1 A)	1			
自然・スポーツ系	政治学	2			国際コミュニケーション (中国語 1 B)	1			
	経営学	2			国際コミュニケーション (英語 1 A)	1			
	●※社会学	2			国際コミュニケーション (英語 1 B)	1			
					国際コミュニケーション (英語 2 A)	1			
情報・調査系科目	●※社会学	2			国際コミュニケーション (英語 2 B)	1			
	社会学	2			国際コミュニケーション (英語 3 A)	1			
	社会学	2			国際コミュニケーション (英語 3 B)	1			
	社会学	2			インテンシブ・イングリッシュ 1	1			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	●※社会学	2			インテンシブ・イングリッシュ 2	1		
		社会学	2			インテンシブ・イングリッシュ 3	1		
		社会学	2			インテンシブ・イングリッシュ 4	1		
		社会学	2			中国語 1 A	1		
	人文系	社会学	2			中国語 1 B	1		
		社会学	2			中国語 2 A	1		
		社会学	2			中国語 2 B	1		
		社会学	2			中国語 2 C	1		
	社会系	社会学	2			中国語 3 A	1		
		社会学	2			中国語 3 B	1		
社会学		2			中国語 3 C	1			
社会学		2			中国語 3 D	1			
自然・スポーツ系	社会学	2			中国語 3 E	1			
	社会学	2			中国語 3 F	1			
	社会学	2			中国語 3 G	1			
	社会学	2			中国語 3 H	1			
情報・調査系科目	社会学	2			中国語 3 I	1			
	社会学	2			中国語 3 J	1			
	社会学	2			中国語 3 K	1			
	社会学	2			中国語 3 L	1			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	社会学	2			中国語 3 M	1		
		社会学	2			中国語 3 N	1		
		社会学	2			中国語 3 O	1		
		社会学	2			中国語 3 P	1		
	人文系	社会学	2			中国語 3 Q	1		
		社会学	2			中国語 3 R	1		
		社会学	2			中国語 3 S	1		
		社会学	2			中国語 3 T	1		
	社会系	社会学	2			中国語 3 U	1		
		社会学	2			中国語 3 V	1		
社会学		2			中国語 3 W	1			
社会学		2			中国語 3 X	1			
自然・スポーツ系	社会学	2			中国語 3 Y	1			
	社会学	2			中国語 3 Z	1			
	社会学	2			中国語 3 AA	1			
	社会学	2			中国語 3 AB	1			
情報・調査系科目	社会学	2			中国語 3 AC	1			
	社会学	2			中国語 3 AD	1			
	社会学	2			中国語 3 AE	1			
	社会学	2			中国語 3 AF	1			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	社会学	2			中国語 3 AG	1		
		社会学	2			中国語 3 AH	1		
		社会学	2			中国語 3 AI	1		
		社会学	2			中国語 3 AJ	1		
	人文系	社会学	2			中国語 3 AK	1		
		社会学	2			中国語 3 AL	1		
		社会学	2			中国語 3 AM	1		
		社会学	2			中国語 3 AN	1		
	社会系	社会学	2			中国語 3 AO	1		
		社会学	2			中国語 3 AP	1		
社会学		2			中国語 3 AQ	1			
社会学		2			中国語 3 AR	1			
自然・スポーツ系	社会学	2			中国語 3 AS	1			
	社会学	2			中国語 3 AT	1			
	社会学	2			中国語 3 AU	1			
	社会学	2			中国語 3 AV	1			
情報・調査系科目	社会学	2			中国語 3 AW	1			
	社会学	2			中国語 3 AX	1			
	社会学	2			中国語 3 AY	1			
	社会学	2			中国語 3 AZ	1			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	社会学	2			中国語 3 BA	1		
		社会学	2			中国語 3 BB	1		
		社会学	2			中国語 3 BC	1		
		社会学	2			中国語 3 BD	1		
	人文系	社会学	2			中国語 3 BE	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
	社会系	社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
社会学		2			中国語 3 BF	1			
社会学		2			中国語 3 BF	1			
自然・スポーツ系	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
情報・調査系科目	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
総合教育科目 (30単位以上)	学術共通	社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
	人文系	社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
	社会系	社会学	2			中国語 3 BF	1		
		社会学	2			中国語 3 BF	1		
社会学		2			中国語 3 BF	1			
社会学		2			中国語 3 BF	1			
自然・スポーツ系	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
情報・調査系科目	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			
	社会学	2			中国語 3 BF	1			

☆は必修科目 ●=社会福祉士の「指定科目」 ※=精神保健福祉士の「指定科目」

臨床心理学科 2017 年度入学者用

カリキュラム構成図

(16単位必修) 演習・実習	専門演習ⅠA・ⅠB 専門演習ⅡA・ⅡB 専門演習ⅢA・ⅢB 卒業論文 英語専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 認定課外実習
	臨床心理実習 臨床心理実習指導Ⅰ・Ⅱ

専門展開科目

臨床心理分野	教育・社会心理分野	精神保健・福祉分野
臨床心理学Ⅱ 人格心理学 コミュニティ心理学Ⅱ グループアプローチ 精神分析学 家族心理学 心理療法Ⅱ 芸術療法 児童精神医学 高齢者心理学 認知行動療法 障害者心理学 心理検査法Ⅱ 投影法特論	教育心理学 学校心理学 社会心理学Ⅰ 社会心理学Ⅱ 異文化心理学 認知・学習心理分野 心理測定法Ⅰ 認知心理学Ⅰ 心理測定法Ⅱ 認知心理学Ⅱ 精神生理学Ⅰ 学習心理学 精神生理学Ⅱ	ソーシャルワークⅡ ソーシャルワークⅢ セルフヘルプグループ スクールソーシャルワーク 精神科リハビリテーション学 精神保健学 精神保健ソーシャルワークⅠ 精神保健ソーシャルワークⅡ 精神保健福祉論Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ 若者支援論 児童福祉論 家族福祉論 高齢者福祉論 障害者福祉論 女性福祉論 死生観とソーシャルワーク

(16単位選択必修) うち、8単位必修 専門基礎科目	<必修科目> 発達心理学 臨床心理学Ⅰ 心理療法Ⅰ 心理検査法Ⅰ	<選択必修科目> コミュニティ心理学Ⅰ 精神医学 カウンセリング 地域問題入門 ソーシャルワークⅠ 社会問題論
(8単位必修) 専門基礎科目	心理学 心理学概論 心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ	
(4単位必修) 学部共通科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ フィールドスタディ入門 キャリアデザイン論 多摩地域形成論	
視野形成科目	<人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ <社会系> 社会福祉概論 地域福祉論 まちづくりの思想 ボランティアアクション 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学 Community Based Inclusive Development Disability and Development in Asia <自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ	
(4単位必修) 情報・調査科目	コンピュータ入門Ⅰ コンピュータ入門Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル) 心理データ解析Ⅰ 心理データ解析Ⅱ WEBデザイン 統計学	
(10単位必修) 言語コミュニケーション科目	英語1~5 英語6~10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B~5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B~3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B~3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1~4 インテンシヴ・イングリッシュ5~8	

臨床心理学科 2017 年度入学者用
科目群と各科目の開講年次

科目区分		<2年次からの配当科目・単位>		<3年次からの配当科目・単位>		<4年次からの配当科目・単位>						
卒業所要単位 (80単位以上)	専門教育科目 (80単位以上)	演習・実習 (16単位必修)	☆ 専門演習 I A	2	● 臨床心理実習 ● 臨床心理実習指導 I ● 臨床心理実習指導 II ☆ 専門演習 II A ● 専門演習 II B ● 英語専門演習 II A ● 英語専門演習 II B	☆ 専門演習 III A	2	☆ 専門演習 III B ☆ 卒業論文	2	4		
			☆ 専門演習 I B	2		2	2					
			☆ 英語専門演習 I A	2		2	2					
			☆ 英語専門演習 I B	2		2	2					
			☆ 精神保健分野			ソシヤルワーク II	2		精神保健ソシヤルワーク I	2	家族福祉論	2
臨床心理分野		ソシヤルワーク III	2	精神保健ソシヤルワーク II	2	高齢者福祉論	2					
教育・社会		セルフヘルプグループ	2	精神保健福祉論 I	2	障害者福祉論	2					
認知・学習		スクールソシヤルワーク	2	精神保健福祉論 II	2	女性福祉論	2					
専門基礎科目 (8単位必修)		● 精神保健学	2	● 精神科リハビリテーション学	2	若者支援論	2	死生観とソシヤルワーク	2			
卒業所要単位 (124単位以上)	総合教育科目 (30単位以上)	学部共通 (4単位必修)	☆ 発達心理学	2	● 臨床心理学 II ● コミュニティ心理学 II ● 精神分析学 ● 心理療法 II ● 児童精神医学 ● 認知行動療法 ● 心理検査法 II	● 投映法特論	2	● 人格心理学 ● グループアプローチ ● 家族心理学 ● 芸術療法 ● 高齢者心理学 ● 障害者心理学	2	2		
			☆ 臨床心理学 I	2		○ 教育心理学	2		● 心理測定法 I	2	● 精神生理学 I	2
			☆ 心理療法 I	2		● 学校心理学	2		○ 心理測定法 II	2	● 精神生理学 II	2
			○ コミュニティ心理学 I	2		● 社会心理学 I	2		○ 認知心理学 I	2	○ 学習心理学	2
			● 精神医学	2		● 社会心理学 II	2		● 認知心理学 II	2		
● カウンセリング	2	異文化心理学	2									
● 地域問題入門	2											
● ソシヤルワーク I	2											
● 社会問題論	2											
● 心理学	2											
● 心理学概論	2											
● 心理学基礎実験 I	2											
● 心理学基礎実験 II	2											
卒業所要単位 (124単位以上)	総合教育科目 (30単位以上)	学際系 (4単位必修)	☆ 基礎演習 I	2	<1年次からの配当科目・単位>	<2年次からの配当科目・単位>						
			☆ 基礎演習 II	2								
			フィールドスタディ入門	2								
			キャリアデザイン論	2								
			多摩地域形成論	2								
視野形成科目	人文系	文学	2	日本人の心理特性と文化	2	環境倫理	2					
		創作表現論	2	生命倫理	2	生涯学習論 I	2					
		文化人類学	2	ホスピタリティ論	2	生涯学習論 II	2					
		哲学 I	2	教育学	2							
		哲学 II	2									
社会系	社会福祉概論	2	経営学	2	民法 I	2	社会学理論	2				
	地域福祉論	2	経済学	2	民法 II	2	社会システム論	2				
	まちづくりの思想	2	社会学	2	行政法 I	2	コミュニケーション論 I	2				
	ボランティアアクション	2	社会思想史	2	行政法 II	2	職業社会論	2				
	法学	2	老年学	2	財政学 I	2	現代福祉特講	2				
日本国憲法	2	企業と労働	2	財政学 II	2	Community Based Inclusive Development	2					
政治学	2	女性学	2	社会学特講	2	Disability and Development in Asia	2					
スポーツ系	医学概論	2	基礎数学 I	2	スポーツ種目 I	1						
	リハビリテーション概論	2	基礎数学 II	2	スポーツ種目 II	1						
	生命の科学 I	2	ヘルスプロモーション	2								
	生命の科学 II	2	スポーツ総合 I	1								
	自然環境論 I	2	スポーツ総合 II	1								
自然環境論 II	2											
情報・調査	コンピュータ入門 I	2	コンピュータ応用(ビジネススキル)	2	☆ 心理データ解析 I	2						
	コンピュータ入門 II	2			☆ 心理データ解析 II	2						
	WEBデザイン	2										
	統計学	2										
言語コミュニケーション科目 (10単位必修)	英語 1	1	国際コミュニケーション(英語1A)	1	英語 6	1	インテンシヴ・イングリッシュ5	1				
	英語 2	1	国際コミュニケーション(英語1B)	1	英語 7	1	インテンシヴ・イングリッシュ6	1				
	英語 3	1	国際コミュニケーション(英語2A)	1	英語 8	1	インテンシヴ・イングリッシュ7	1				
	英語 4	1	国際コミュニケーション(英語2B)	1	英語 9	1	インテンシヴ・イングリッシュ8	1				
	英語 5	1	国際コミュニケーション(英語3A)	1	中国語 3 A	1						
	中国語 1 A	1	国際コミュニケーション(英語3B)	1	中国語 3 B	1						
	中国語 1 B	1	インテンシヴ・イングリッシュ1	1	中国語 4 A	1						
	中国語 2 A	1	インテンシヴ・イングリッシュ2	1	中国語 4 B	1						
	中国語 2 B	1	インテンシヴ・イングリッシュ3	1	中国語 5 A	1						
	日本語 1 A	1	インテンシヴ・イングリッシュ4	1	中国語 5 B	1						
日本語 1 B	1			国際コミュニケーション(中国語1A)	1							
日本語 2 A	1			国際コミュニケーション(中国語1B)	1							
日本語 2 B	1			日本語 3 A	1							
日本語 2 B	1			日本語 3 B	1							

☆は必修科目 ○=本学部が定める認定心理士取得のための必修科目 ●=認定心理士に関する科目

臨床心理学科 2015 年度・2016 年度入学者用

カリキュラム構成図

(16 単位必修) 演習・実習	専門演習ⅠA・ⅠB 専門演習ⅡA・ⅡB 専門演習ⅢA・ⅢB 卒業論文 英語専門演習ⅠA・ⅠB・ⅡA・ⅡB 認定課外実習
	臨床心理実習 臨床心理実習指導Ⅰ・Ⅱ

専門展開科目

臨床心理分野	教育・社会心理分野	精神保健・福祉分野
臨床心理学Ⅱ 人格心理学 コミュニティ心理学Ⅱ グループアプローチ 精神分析学 家族心理学 心理療法Ⅱ 芸術療法 児童精神医学 高齢者心理学 認知行動療法 障害者心理学 心理検査法Ⅱ 投影法特論	教育心理学 学校心理学 社会心理学Ⅰ 社会心理学Ⅱ 異文化心理学 認知・学習心理分野 心理測定法Ⅰ 認知心理学Ⅰ 心理測定法Ⅱ 認知心理学Ⅱ 精神生理学Ⅰ 学習心理学 精神生理学Ⅱ	ソーシャルワークⅡ ソーシャルワークⅢ セルフヘルプグループ スクールソーシャルワーク 精神科リハビリテーション学 精神保健学 精神保健ソーシャルワークⅠ 精神保健ソーシャルワークⅡ 精神保健福祉論Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ 若者支援論 児童福祉論 家族福祉論 高齢者福祉論 障害者福祉論 女性福祉論 死生観とソーシャルワーク

(16 単位選択必修) うち、8 単位必修 専門基礎科目	<必修科目> 発達心理学 臨床心理学Ⅰ 心理療法Ⅰ 心理検査法Ⅰ	<選択必修科目> コミュニティ心理学Ⅰ 精神医学 カウンセリング 地域問題入門 ソーシャルワークⅠ 社会問題論
(8 単位必修) 専門基礎科目	心理学 心理学概論 心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ	
(4 単位必修) 学部共通科目	基礎演習Ⅰ・Ⅱ フィールドスタディ入門 キャリアデザイン論 多摩地域形成論	
(2 単位必修) 視野形成科目	<人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ <社会系> 社会福祉概論 地域福祉論 まちづくりの思想 ボランティアアクション 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学 Community Based Inclusive Development Disability and Development in Asia <自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ	
(4 単位必修) 情報・調査科目	コンピュータ入門Ⅰ コンピュータ入門Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル) 心理データ解析Ⅰ 心理データ解析Ⅱ WEBデザイン 統計学	
(10 単位必修) 言語コミュニケーション科目	英語1~5 英語6~10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B~5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B~3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B~3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1~4 インテンシヴ・イングリッシュ5~8	

臨床心理学科 2015 年度・2016 年度入学者用
科目群と各科目の開講年次

科目区分		<2年次からの配当科目・単位>		<3年次からの配当科目・単位>		<4年次からの配当科目・単位>																
卒業所要単位 (80 単位以上)	演習・実習 (16 単位必修) 福祉分野 臨床心理分野 教育・社会 心理分野 認知・学習 心理分野 専門基礎科目 (8 単位必修) 専門基礎科目 (8 単位必修)	☆ 専門演習 I A 2 ☆ 専門演習 I B 2 ● 英語専門演習 I A 2 ● 英語専門演習 I B 2	● 臨床心理実習 2 ● 臨床心理実習指導 I 1 ● 臨床心理実習指導 II 1 ☆ 専門演習 II A 2 ● 専門演習 II B 2 ● 英語専門演習 II A 2 ● 英語専門演習 II B 2	☆ 専門演習 III A 2 ☆ 専門演習 III B 2 ☆ 卒業論文 4																		
卒業所要単位 (124 単位以上)	学部共通 (4 単位必修) 人文系 社会系 スポーツ系 情報・調査 科目 言語コミュニケーション科目 (10 単位必修)																					

☆は必修科目 ○=本学部が定める認定心理士取得のための必修科目 ●=認定心理士に関する科目

臨床心理学科 2014 年度入学者用

カリキュラム構成図

(16単位必修) 演習・実習	専門演習Ⅰ	専門演習Ⅱ	専門演習Ⅲ	卒業論文	英語専門演習Ⅰ・Ⅱ	認定課外実習
	臨床心理実習		臨床心理実習指導			

専門展開科目

臨床心理分野	教育・社会心理分野	精神保健・福祉分野
臨床心理学Ⅱ コミュニティ心理学Ⅱ 精神分析学 心理療法Ⅱ 児童精神医学 認知行動療法 心理検査法Ⅱ 投影法特論	教育心理学 学校心理学 社会心理学Ⅰ 社会心理学Ⅱ 異文化心理学	ソーシャルワークⅡ ソーシャルワークⅢ セルフヘルプグループ スクールソーシャルワーク 精神科リハビリテーション学 精神保健学 精神保健ソーシャルワークⅠ 精神保健ソーシャルワークⅡ 精神保健福祉論Ⅰ 精神保健福祉論Ⅱ 若者支援論 児童福祉論 家族福祉論 高齢者福祉論 障害者福祉論 女性福祉論 死生観とソーシャルワーク
	認知・学習心理分野	
	心理測定法Ⅰ 認知心理学Ⅰ 心理測定法Ⅱ 認知心理学Ⅱ 精神生理学Ⅰ 学習心理学 精神生理学Ⅱ	

(16単位必修) うち、8単位必修 専門基礎科目	<必修科目> 発達心理学 臨床心理学Ⅰ 心理療法Ⅰ 心理検査法Ⅰ	<選択必修科目> コミュニティ心理学Ⅰ 精神医学 カウンセリング 地域問題入門 ソーシャルワークⅠ 社会問題論
(8単位必修) 専門基礎科目	心理学 心理学概論 心理学基礎実験Ⅰ 心理学基礎実験Ⅱ	
(4単位必修) 学部共通科目	基礎演習 フィールドスタディ入門 キャリアデザイン論 多摩地域形成論	
(2単位必修) 視野形成科目	<人文系> 文学 創作表現論 文化人類学 哲学Ⅰ・Ⅱ 日本人の心理特性と文化環境倫理 生命倫理 ホスピタリティ論 教育学 生涯学習論Ⅰ・Ⅱ <社会系> 社会福祉概論 地域福祉論 まちづくりの思想 ボランティアアクション 法学 日本国憲法 民法Ⅰ・Ⅱ 行政法Ⅰ・Ⅱ 政治学 経営学 経済学 財政学Ⅰ・Ⅱ 社会学 社会学特講 社会学理論 社会思想史 社会システム論 コミュニケーション論Ⅰ 老年学 職業社会論 企業と労働 現代福祉特講 女性学 Community Based Inclusive Development Disability and Development in Asia <自然・スポーツ系> 医学概論 リハビリテーション概論 生命の科学Ⅰ・Ⅱ 自然環境論Ⅰ・Ⅱ 基礎数学Ⅰ・Ⅱ ヘルスプロモーション スポーツ総合 スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ	
(4単位必修) 情報・調査科目	コンピュータ入門Ⅰ コンピュータ入門Ⅱ コンピュータ応用(ビジネススキル) 心理データ解析Ⅰ 心理データ解析Ⅱ WEBデザイン 統計学	
(10単位必修) 言語コミュニケーション科目	英語1~5 英語6~10 中国語1A・1B・2A・2B 中国語3A・3B~5A・5B 日本語1A・1B・2A・2B・3A・3B 国際コミュニケーション(英語1A・1B~3A・3B) 国際コミュニケーション(中国語1A・1B~3A・3B) インテンシヴ・イングリッシュ1~4 インテンシヴ・イングリッシュ5~8	

他学部主催科目一覧（公開科目を除く）

主催学部	科目群(2004年度～)	科目名称
社会学部	視野形成科目	環境倫理
		文学
		創作表現論 [創作表現論Ⅰ]
		哲学Ⅰ
		哲学Ⅱ
		民法Ⅰ [民法(総則)]
		民法Ⅱ [民法(家族法)]
		職業社会論
		財政学Ⅰ
		財政学Ⅱ
		生涯学習論Ⅰ [社会教育概論Ⅰ]
		生涯学習論Ⅱ [社会教育概論Ⅱ]
		コミュニケーション論Ⅰ [メディアコンテンツ論]
		社会システム論 [社会学理論BⅠ]
		社会学理論 [社会学理論BⅡ]
		行政法Ⅰ
		行政法Ⅱ
		生命の科学Ⅰ [生命の科学]
		生命の科学Ⅱ [環境生態学]
		自然環境論Ⅰ [地球と自然Ⅰ]
		自然環境論Ⅱ [地球と自然Ⅱ]
		スポーツ種目Ⅰ、スポーツ種目Ⅱ [スポーツ総合2-Ⅰ、2-Ⅱ]
	基礎数学Ⅰ	
	基礎数学Ⅱ	
	情報・調査系科目	社会調査法Ⅰ [社会調査Ⅰ](※福祉コミュニティ学科のみ)
		社会調査法Ⅱ [社会調査Ⅱ](※福祉コミュニティ学科のみ)
	専門展開科目	社会心理学Ⅰ (※臨床心理学科のみ)
		社会心理学Ⅱ (※臨床心理学科のみ)
		地方財政論 (※福祉コミュニティ学科のみ)
	言語コミュニケーション科目	日本語1A、日本語1B、日本語2A、日本語2B、日本語3A、日本語3B [日本語1-Ⅰ、日本語1-Ⅱ、日本語2-Ⅰ、日本語2-Ⅱ、日本語3-Ⅰ、日本語3-Ⅱ]
		国際コミュニケーション(中国語1A、中国語1B) [中国語中級3、6]
		国際コミュニケーション(中国語2A、中国語2B) [中国語上級A2、A5]
		国際コミュニケーション(中国語3A、中国語3B) [中国語上級A3、A6]
経済学部	視野形成科目	スポーツ種目Ⅰ、スポーツ種目Ⅱ [スポーツ種目A・B]
キャリアセンター	学部共通科目	キャリアデザイン論
多摩地域交流センター	学部共通科目	多摩地域形成論

※社会学部、経済学部主催科目の授業に関するお知らせは各主催学部掲示板に掲示されますので、各自確認してください。

※主催学部と科目名が異なる場合は主催学部での科目を [] で表示しています。

I. 大学の授業

■進級・卒業の要件P.	2 2
■履修登録P.	2 8
■授業P.	3 3
■試験・成績評価P.	3 6
■法政ポータルサイト (Hoppii)P.	4 3

現代福祉学部の授業科目

現代福祉学部が開講している授業科目は、4年間の学習を系統的に行うため各年次に配置し、次のように構成しています。

総合教育科目 a) 学部共通科目 b) 視野形成科目 c) 情報・調査系科目 d) 言語コミュニケーション科目 専門教育科目 a) 専門基礎科目 b) 専門基幹科目 c) 専門展開科目 d) 演習・実習科目
--

また、教育職員免許状・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員などの資格取得志望者ならびに社会教育主事志望者には、「教職科目」や「資格科目」が設置されています。

単位制度について

本学における教育課程はすべて単位制度を採用しています。

各授業科目に対する単位数はつぎの基準によります。単位制度とは、授業科目を履修して、出席状況、試験、レポート、論文等による成績評価の結果、合格した場合に、それぞれ定められた単位が認定される制度です。

単位の計算方法は、学則第23条に基づき、教室内および教室外の学習時間を合わせて45時間で1単位として、現代福祉学部では次の基準で換算します。

- ①講義・演習の授業科目は、15時間の授業時間をもって1単位とし、毎週1回、年間28週の授業で4単位とする。(半期授業は14週の授業で2単位とする。)
- ②言語コミュニケーション科目および「スポーツ総合(I・II)」については、30時間の授業時間をもって1単位とし、毎週1回、年間28週の授業で2単位とする。
- ③実習に関わる科目は45時間の実習をもって1単位とし、「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習(I~III)」は4週間180時間の配属実習で4単位とする。

1. 進級・卒業の要件

(1) 修業年限および在学年限について

本学には、学則で修業年限が定められています。この年限を超えて在学することはできません。

修業年限は4カ年です。学生は休学期間を除き、8カ年を超えて在学することはできません。春学期在学し、秋学期に休学、退学及び除籍になった場合の在学期間は0.5年とします。

また、2年次転・編入者の修業年限は3カ年で、本学に6カ年を超えて在学することはできません。

(2) 進級要件・卒業要件について

卒業して学位（福祉コミュニティ学科は「学士（社会福祉学）」、臨床心理学科は「学士（臨床心理学）」）を得るためには、4年以上（最高8年）在学し、下記の授業科目所定の単位を修得する必要があります。

学士の学位取得に必要な単位数およびその内容に関する規程は、きわめて厳格なもので、1単位でも不足したり、間違いがあると卒業できません。

なお、入学年度により卒業要件・進級要件・進級に関する規程が異なるため、必ず入学年度に注意して確認してください。

2017年度入学者の進級要件（進級に関する規程）・卒業要件

■進級要件

進級については次の「進級に関する規程（現代福祉学部）」により行われます。

〈2学科共通〉【1年次から2年次への進級要件】

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

〈2学科共通〉【2年次から3年次への進級要件】

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

【3年次から4年次への進級要件（福祉コミュニティ学科）】

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、**80単位以上**を修得していなければならない。ただし、SSI所属の学生については、各項第2号及び第3号を修了要件としないものとする。

2 福祉コミュニティ学科の第3年次修了要件

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8単位 |
| (2) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ | 4単位 |
| (3) 専門演習ⅠA・ⅠB | 4単位 |
| (4) 専門基礎科目 | 6単位 |
| (5) 専門基幹科目 | 8単位 |

★休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となります。ただし、進級時期は学年度始め（4月）に限るとします。

【3年次から4年次への進級要件（臨床心理学科）】

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、**80単位以上**を修得していなければならない。ただし、SSI所属の学生については、各項第2号及び第3号を修了要件としないものとする。

3 臨床心理学科の第3年次修了要件

- | | |
|-------------------|------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8単位 |
| (2) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ | 4単位 |
| (3) 専門演習ⅠA・ⅠB | 4単位 |
| (4) 心理データ解析Ⅰ・Ⅱ | 4単位 |
| (5) 専門基礎科目 | 6単位 |
| (6) 専門基幹科目 | 12単位 |

★休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となります。ただし、進級時期は学年度始め（4月）に限るとします。

■卒業要件＜2学科共通＞

第4条 第4年次においては、**4単位以上**を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

★第4年次においては、4単位以上修得することが必要です。この「4単位以上」は、次の2つの条件をともに満たす科目に限られます。

- ①履修登録をする科目 ②学部の卒業所要単位となる科目

なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位はこの「4単位以上」に含まれません。

＜福祉コミュニティ学科 卒業所要単位数（2017年度入学者）＞

科目分類	科目群	単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	4単位以上 ※1	30単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	10単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	8単位以上	80単位以上
	専門基幹科目	10単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目※2	12単位必修	
	自由科目 ※3	20単位以内	
卒業に必要な単位数			124単位以上

※1 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は必修

※2 「専門演習ⅠA・B」「専門演習ⅡA・B」「専門演習ⅢA・B」は必修

※3 「自由科目」（20単位以内）にて認定する科目は以下のとおりです。各科目の詳細についてはP82を参照してください。

①他学部公開科目、②短期語学研修、③国際インターンシップ、④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目、⑥成績優秀者他学部科目履修、⑦ERP、⑧課題解決型フィールドワーク for SDGs

＜臨床心理学科 卒業所要単位数（2017年度入学者）＞

科目分類	科目群	単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	8単位必修 ※1	30単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	10単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	8単位必修	80単位以上
	専門基幹科目	8単位必修 ※2 16単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目 ※3	16単位必修	
	自由科目 ※4	20単位以内	
卒業に必要な単位数			124単位以上

※1 「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「心理データ解析Ⅰ」「心理データ解析Ⅱ」は必修

※2 「臨床心理学Ⅰ」「心理検査法Ⅰ」「発達心理学」「心理療法Ⅰ」は必修

※3 「専門演習ⅠA・B」「専門演習ⅡA・B」「専門演習ⅢA・B」「卒業論文」は必修

※4 「自由科目」（20単位以内）にて認定する科目は以下のとおりです。各科目の詳細についてはP111を参照してください。

①他学部公開科目、②短期語学研修、③国際インターンシップ、④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目、⑥成績優秀者他学部科目履修、⑦ERP、⑧課題解決型フィールドワーク for SDGs

＜2学科共通＞【同一学年に留まった（留級、卒業保留）の場合の進級・卒業要件】

※4カ年以上在籍し、卒業所要単位を修得見込みの者で9月卒業を希望する場合は、年度始めに申請が必要となるので必ず掲示を参照してください。

※春学期に休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、卒業要件を満たしていれば年度末に卒業となります。

2014～2016 年度入学者の進級要件(進級に関する規程)・卒業要件

■進級要件

進級については次の「進級に関する規程(現代福祉学部)」により行われます。

〈2学科共通〉【1年次から2年次への進級要件】

第1条 第1年次から第2年次へ進級する者は、第1年次修了までに20単位以上を修得していなければならない。ただし、入学前に他大学等で修得した単位を卒業所要単位として教授会に認定された場合は、認定単位の他に本学において4単位以上修得したうえで前記要件を満たしていなければならない。

〈2学科共通〉【2年次から3年次への進級要件】

第2条 第2年次から第3年次へ進級する者は、第2年次修了までに40単位以上を修得していなければならない。

【3年次から4年次への進級要件(福祉コミュニティ学科)】

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。

2 福祉コミュニティ学科の第3年次修了要件

- | | |
|-------------------|-----|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8単位 |
| (2) スポーツ総合(I・II) | 2単位 |
| (3) 基礎演習(I・II) | 4単位 |
| (4) 専門基礎科目 | 6単位 |
| (5) 専門基幹科目 | 8単位 |

ただし、SSI所属の学生については、第3号を修了要件としないものとする。

【3年次から4年次への進級要件(臨床心理学科)】

第3条 第3年次から第4年次へ進級する者は、第3年次修了までに第2項又は第3項に規定する各学科の修了要件を満たしたうえで、80単位以上を修得していなければならない。

3 臨床心理学科の第3年次修了要件

- | | |
|-------------------|------|
| (1) 言語コミュニケーション科目 | 8単位 |
| (2) スポーツ総合(I・II) | 2単位 |
| (3) 基礎演習(I・II) | 4単位 |
| (4) 専門演習I(A・B) | 4単位 |
| (5) 心理データ解析I・II | 4単位 |
| (6) 専門基礎科目 | 6単位 |
| (7) 専門基幹科目 | 12単位 |

ただし、SSI所属の学生については、第3号及び第4号を修了要件としないものとする。

★休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、進級要件を満たしていれば進級となります。ただし、進級時期は学年度始め(4月)に限るとします。

■卒業要件＜2学科共通＞

第4年次においては、**4単位以上**を修得しなければならない。また、第3年次修了までに卒業所要単位を満たしている場合も同じ扱いとする。

★第4年次においては、4単位以上修得することが必要です。この「4単位以上」は、次の2つの条件をともに満たす科目に限られます。

①履修登録をする科目 ②学部の卒業所要単位となる科目

なお、教職・資格科目、認定課外実習認定単位、スタディ・アブロード認定単位、外国語試験認定単位はこの「4単位以上」に含まれません。

＜福祉コミュニティ学科 卒業所要単位数（2014～2016年度入学者）＞

科目分類	科目群	単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	6単位以上 ※1	30単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	10単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	8単位以上	80単位以上
	専門基幹科目	10単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目	規定せず	
	自由科目 ※2	20単位以内	
卒業に必要な単位数			124単位以上

※1 「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」は必修

※2 「自由科目」（20単位以内）にて認定する科目は以下のとおりです。各科目の詳細についてはP82を参照してください。

①他学部公開科目、②短期語学研修、③国際インターンシップ、④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目、⑥成績優秀者他学部科目履修、⑦ERP、⑧課題解決型フィールドワーク for SDGs

＜臨床心理学科 卒業所要単位数（2014～2016年度入学者）＞

科目分類	科目群	単位規定	
総合教育科目	学部共通科目	10単位必修 ※1	30単位以上
	視野形成科目		
	情報・調査系科目		
	言語コミュニケーション科目	10単位以上	
専門教育科目	専門基礎科目	8単位必修	80単位以上
	専門基幹科目	8単位必修 ※2 16単位以上	
	専門展開科目	規定せず	
	演習・実習科目 ※3	16単位必修	
	自由科目 ※4	20単位以内	
卒業に必要な単位数			124単位以上

※1 「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」「心理データ解析Ⅰ」「心理データ解析Ⅱ」は必修

※2 「臨床心理学Ⅰ」「発達心理学」「心理療法Ⅰ」「心理検査法Ⅰ」は必修

※3 「専門演習Ⅰ（A・B）」「専門演習Ⅱ（A・B）」「専門演習Ⅲ（A・B）」「卒業論文」は必修

※4 「自由科目」（20単位以内）にて認定する科目は以下のとおりです。各科目の詳細についてはP111を参照してください。

①他学部公開科目、②短期語学研修、③国際インターンシップ、④国際ボランティア、⑤グローバル・オープン科目、⑥成績優秀者他学部科目履修、⑦ERP、⑧課題解決型フィールドワーク for SDGs

＜2学科共通＞【同一学年に留まった（留級、卒業保留）場合の進級・卒業要件】

※4カ年以上在籍し、卒業所要単位を修得見込みの者で9月卒業を希望する場合は、年度始めに申請が必要となるので必ず掲示を参照してください。

※春学期に休学した場合においても、各年次で通算して1年以上在学し、卒業要件を満たしていれば年度末に卒業となります。

（3）9月卒業について（春学期末卒業）

入学年度に関わらず、卒業は学年末が基本ですが、学則第49条に基づき、4カ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者は、春学期末に卒業することができ、これを「9月卒業」といいます。

（学位の授与）

第49条 総長は、4カ年以上在学し、卒業所要単位を修得した者には、学士の学位を与え学位記を授与する。

2 前項の卒業の要件を充たした者の学位記授与は学年末に行う。但し、本人の申請により春学期末に行うことができる。

（中略）

6 前五項における卒業の確定日は、学年末は3月24日とし、春学期末は9月15日とする。

※9月卒業の申請について

当該年度の4月現在、在学年数が3.5年以上の4年生で9月卒業を希望する者は、現代福祉学部事務課に申し出て、4月下旬（詳しい日程は掲示板を参照してください）までに申請手続きを行ってください。期限を過ぎての申請は受け付けられませんので注意してください。また、申請後の申請取り下げはできませんのでよく検討したうえで申請してください。

9月卒業申請期間	卒業が認められた場合の卒業日
4月1日から4月下旬	9月15日

※9月卒業を希望する場合の履修登録について

9月卒業を申請する場合、万一9月に卒業ができなかった場合に備え、春学期の履修登録期間に秋学期分も合わせて**1年分の履修登録**をしてください。

2. 履修登録

授業科目を履修し、単位を修得するためには、年度のはじめの指定した期日までに、履修登録申請を行い、大学に希望する科目の履修意志を明確に示す必要があります。

事前に、ガイダンスに出席し、『履修の手引き』のカリキュラムページや各科目の講義概要（シラバス）、時間割表をよく読んで把握し、1年間の履修計画をたて、履修登録をしてください。

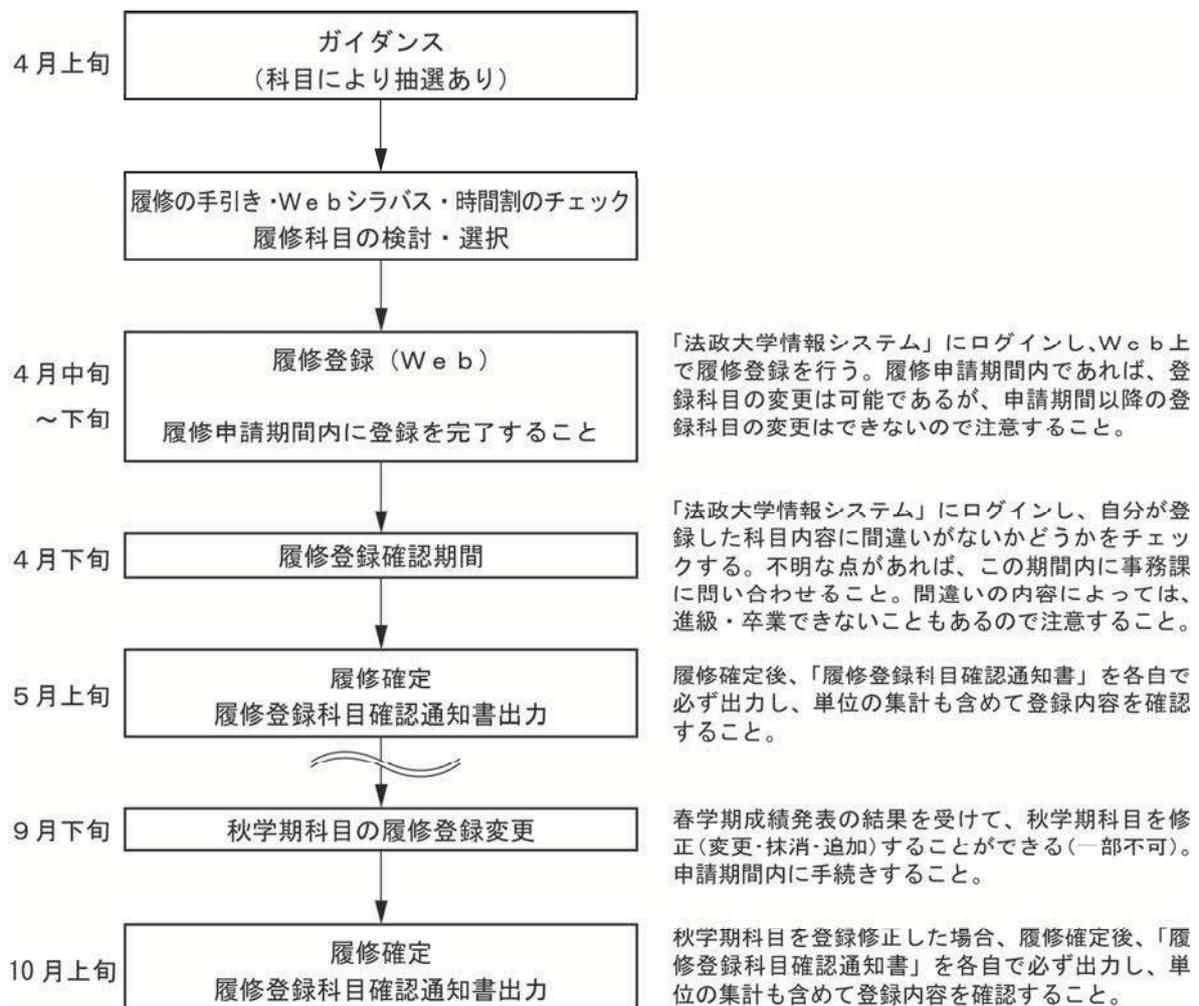
(1) 履修登録申請について～Webでの申請～

「法政大学情報システム」の「履修申請」機能を用いたWebによる履修登録申請です。指定された申請期間に学内外のPCから履修登録申請を行ってください（詳細は、学部ホームページに掲載している「履修登録申請」操作ガイドを参照してください。）

履修登録が正しく済まされていないと、理由のいかんに関わらず、単位は修得できなくなるので、注意してください。

「履修登録科目確認通知書」は、間違いを見逃ごして、単位を修得できないことがないように、**必ず各自でプリントアウトし確認をしましょう。**プリントアウトをして確認したら登録は完了です。

////////// 履 修 登 録 の 流 れ //////////



(2) 科目登録上の注意

科目登録をする際には、時間割表等の注意書きをよく読んで誤りがないよう注意してください。以下に示す科目の履修登録は特に注意してください。

①クラス指定科目

以下の科目はクラスを指定しているので必ず指定された授業を登録してください。

「英語1」「英語3」「中国語」「基礎演習（I・II）」「心理学基礎実験I・II※」「心理データ解析I・II※」「心理検査法I・II※」 ※は臨床心理学科のみ

②受講者制限科目

受講定員が設けられている科目は4月に抽選を行うので必ず参加してください。なお、当選した際には削除ができませんので、注意してください。

Webによる抽選科目：「スポーツ総合（I・II）*」「英語7・8・10」「国際コミュニケーション英語1A～3B」「コンピュータ入門I・II」「WEBデザイン」「芸術療法」「心理測定法I・II※」「基礎数学I・II」「投映法特論※」など

*は2017年度入学者のみ ※は臨床心理学科のみ

- ・春学期・秋学期それぞれ初回の授業には必ず出席し、担当教員の指示に従ってください。
- ・同一時限に2科目以上の登録はできません。また、一度履修し単位を修得した科目を次年度以降重複して登録することはできません。
- ・市ヶ谷および小金井キャンパス開講科目と多摩キャンパス開講科目を、同じ曜日に連続した時限で履修することはできません（ただし、資格科目を除く）。

(3) 履修登録単位の上限

1年間に履修できる単位は学科ごと、学年別に定められています。また、カリキュラムが異なることから、入学年度別の定めがあるので注意しましょう。

<2学科共通> 4年間の基本の上限

科目		学年			
		1年	2年	3年	4年
総合教育科目	年間制限	48	48	48	48
専門教育科目		再履修	+1	+1	+1
自由科目	未履修	+1	+1	+1	+1
SSI科目（SSI生のみ）		インテンシヴ・イングリッシュ受講者	+4	+4	
教職・資格課程科目（※）		+10	+24	+24	制限なし

（※）卒業所要単位には含まれません。

資格課程は図書館司書、学校図書館司書教諭、社会教育主事、博物館学芸員課程を指します。

「再履修」…不合格となった単位分について不足単位数を補うために履修すること

「未履修」…履修できる単位数の上限まで達しなかったため、余った単位分について不足単位数を補うために履修すること

履修計画上の注意点

【福祉コミュニティ学科2年次】

- ・年度初めの履修登録申請時の年間制限単位数は、秋学期開講の実習科目3単位分を除いた**46単位に一律設定**します。
- ・2年次秋学期履修の「ソーシャルワーク演習Ⅰ（2単位）」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1単位）」の登録は、6～7月の実習希望仮登録を確認した上で事務課にて秋学期開始時に追加登録作業を行います。
- ・2年次秋学期に「ソーシャルワーク演習Ⅰ」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」を履修しない場合は、その代替に秋学期開始後の定められた期間内において履修登録科目の追加が**2単位分**できます。ただし、秋学期開講科目に限ります。なお、追加登録できる科目には制限があるので詳細は掲示を確認すること。

【福祉コミュニティ学科3年次】

- ・3年次秋学期履修の「精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（1単位）」の登録は、6～7月の実習希望仮登録を確認した上で事務課にて秋学期開始時に追加登録作業を行います。

【同一学年に留まった（留級・卒業保留）場合の履修上限】

- ・留まった学年の履修上限と同様です。

（４）秋学期科目の履修登録変更

履修登録は、年度当初の履修登録期間中に当該年度全ての科目（通年科目、春学期科目、秋学期科目）を登録することとなっていますが、秋学期科目については、秋学期の所定期間内に登録を変更（新規追加、削除）することができます。ただし、春学期に不合格となった単位分を追加して登録できるということではないので注意してください。

なお、秋学期科目の履修登録変更では、進級及び卒業要件に関わる科目のほか、変更ができない科目があります。詳細は以下を参照してください。

①変更方法について

秋学期科目の履修登録変更は春学期の履修登録時同様「法政大学情報システム」（Web履修登録申請）を利用し、所定の期間内に行ってください。（期間は掲示を確認すること。）

②変更（新規追加、削除）不可科目

- a. 通年科目、春学期科目、オータムセッション集中授業科目
- b. 抽選科目（春学期の履修登録前に当選した科目）
- c. 言語コミュニケーション科目 ※「英語補講」「中国語補講」は可とする。
- d. クラス指定科目
- e. 受講許可科目
- f. 資格科目（図書館司書、社会教育主事、博物館学芸員課程）※教職科目は可とする。
- g. 進級不可、卒業不可となるような科目の削除は不可

③追加登録の単位数について

春学期に行う履修登録において、秋学期の履修登録単位数および年間合計（春学期+秋学期+通年科目）の履修登録単位数が「履修登録単位の上限」に達していない場合に限り、その上限まで秋学期科目を追加することができます。（春学期に不合格となった単位数分を追加登録できるということではありません。）

以下、秋学期科目を追加できるケースを示すので参照してください。

【例1】秋学期科目の追加ができる場合

履修登録単位の上限		年度当初の履修登録単位		秋学期履修登録科目追加後の単位
年間制限合計 48 単位 ※再・未履修者は 49 単位	-	年間合計 46 単位		年間合計 48 単位
		通 年	春学期	秋学期
		4	20	22
		4	20	24

追加登録単位 = 2 単位

年間履修登録上限単位 - 年度当初の履修登録単位 = 秋学期追加登録可能単位

48 単位 - 46 単位 = 2 単位

春学期に登録した秋学期 22 単位分の削除・変更に加えて、2 単位分の追加ができます。

【例2】秋学期科目の追加ができない場合

履修登録単位の上限		年度当初の履修登録単位		秋学期履修登録科目追加後の単位
年間制限合計 48 単位 ※再・未履修者は 49 単位	-	年間合計 48 単位		年間合計 48 単位
		通 年	春学期	秋学期
		4	20	24
		4	20	24

追加登録単位 = 0 単位

年間履修登録上限単位 - 年度当初の履修登録単位 = 秋学期追加登録可能単位

48 単位 - 48 単位 = 0 単位

春学期に単位を落としたとしても、その分を追加登録できるわけではありません。

(5) 履修前提科目不合格に伴う秋学期科目履修削除

下記の秋学期科目に関し、前提となる春学期科目が不合格または未受験の場合、秋学期開始時に履修科目から削除されます。この削除に伴う追加登録は秋学期所定期間に Web 履修登録申請で行うことができます。

履修前提対象科目	
秋学期科目 (右記の履修前提科目不合格の場合履修不可)	春学期科目 (左記の秋学期を履修するために修得を要する)
民法Ⅱ [民法(家族法)]	民法Ⅰ [民法(総則)]

(6) 既修得単位の認定

現代福祉学部に入學する前に大学、短期大学等において修得した単位について、教育上有益とされる場合、現代福祉学部教授会の議を経て、現代福祉学部における授業科目の履修により修得したものと見なし、入學後の海外留學時に修得した単位などと合わせて60単位を限度に認定できます。入學前に大学、短期大学等において修得した単位がある場合は、入學年度の初めの所定の期間内に現代福祉学部事務課に申し出てください。ただし、この制度で単位を認定された場合でも、4年間の在學年数や納入する學費の額に変更はありません。

3. 授業

(1) 大学での授業

大学では一年間を春学期・秋学期の2学期制であり、春学期・秋学期・通年（一年間）の開講期で授業・試験を行っています。

(2) 授業時間

現代福祉学部（多摩キャンパス）の授業時間は次のとおりです。

時 限	多摩キャンパス	市ヶ谷キャンパス
第1時限	9：20～11：00	8：50～10：30
第2時限	11：10～12：50	10：40～12：20
第3時限	13：40～15：20	13：00～14：40
第4時限	15：30～17：10	15：00～16：40
第5時限	17：20～19：00	16：50～18：30
第6時限	—	18：35～20：15
第7時限	—	20：20～22：00

※定期試験の時間割は上記と異なるので注意すること。

<参考：定期試験時間割（多摩キャンパス）>

時 限	定期試験時間割
1時限	9：30～10：30
2時限	11：00～12：00
3時限	13：00～14：00
4時限	14：30～15：30
5時限	16：00～17：00
6時限	17：30～18：30

※市ヶ谷・小金井キャンパスの定期試験時間割は、科目主催学部で確認すること。

(3) 授業への出席・欠席

履修登録した科目の単位を修得するためには、授業に出席して、講義を受講しなければなりません。各科目の授業教室や授業時間帯は各年度のガイダンスで配付する時間割を参照してください。

なお、個人的理由（忌引きを含む）によりやむを得ず授業を欠席する際には、特に事務手続きを行う必要はありません。大学への「欠席届」はないので、必要な場合は各自担当教員へ申し出てください。

現代福祉学部の各種実習や教育実習等により、他の授業を欠席せざるを得ない場合についての届出方法は、別途、ガイダンスまたは掲示でお知らせします。

(4) 授業教室の変更

授業教室を変更する場合は掲示にて連絡しますので、掲示板には注意をしておいてください。

特に春・秋学期の授業開始時は教室の変更が多数行われます。必ず各自で掲示を確認してください。

なお、公開科目については、それぞれの主催学部掲示板で教室変更のお知らせをしています。現代福祉学部の掲示板には掲示されないこともありますので注意してください。授業科目の主催学部については講義概要他学部公開科目一覧を参照してください。

(5) 授業の休講

担当教員の急病・学会出席・公用などやむを得ない事情で授業を行わない場合は、「休講掲示」、「法政大情報ポータルサイトホームページ (<https://www.as.hosei.ac.jp>)」を通じて連絡します。授業当日に連絡のあった休講情報はポータルサイト上に反映されない場合もありますので、登校したら、必ず掲示板で確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

〈大学ホームページで休講情報を入手するための注意事項〉

◇ポータルサイトにアクセスするためには net2010 統合認証システムの ID とパスワードが必要です。

◇休講情報は、教員の連絡に基づき表示されます。Web版と携帯版では情報の更新に時間差があります (Web版は即時更新、携帯版は15分間隔での更新)。

◇Web版および携帯版の「My時間割」で自分の履修登録した科目の休講情報を参照できます。携帯版の「休講情報」では全ての休講情報を参照できます。なお携帯版の表示期間は、いずれもアクセスした日を含め、1週間分です。

◇授業開始時間から30分経過しても担当教員が出講しない場合は休講とします。ただし、教室を変更して授業を実施している可能性もありますので、教室変更なども確認してください。

そのほか、以下のように特別の休講措置をとる場合があります。

①台風等自然災害の場合

法政大学では授業実施期間中に、台風や大雪等により公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは学生の通学に危険が生じると判断した場合は、以下の通り授業を休講することがあります。

- (1) 天候悪化等により首都圏の公共交通機関に大きな乱れが生じることが予想される場合、あるいは暴風警報の発令等により通学に危険が生じると考えられる場合、大学は当日の授業の実施について協議し、その結果を以下の通り周知します。
 - a 1・2時限の授業について、当日6:00までに「法政大学広報課公式ツイッター」に休講措置の有無を掲載します。
 - b 3～5時限の授業について、当日10:00までに「法政大学広報課公式ツイッター」に休講措置の有無を掲載します。
 - c 6・7時限の授業について、当日15:00までに「法政大学広報課公式ツイッター」に休講措置の有無を掲載します。
- (2) 事前に台風上陸等により公共交通機関の大きな乱れが生じることが予想される場合は、前日17:00までに上記周知の方法を「法政大学広報課公式ツイッター」に掲載し、学生・教職員に周知します。
- (3) 上記によらず、前日において翌日の授業実施に大きな影響があると判断される場合は、前日17:00までに翌日の休講措置の有無を決定し、「法政大学広報課公式ツイッター」に掲載することがあります。
- (4) 上記の内容は必要に応じて大学公式ホームページにも掲載いたします。

②大規模地震の発生が予想されるとき

東海地方を中心とする大規模な地震の発生が予想されるときに、気象庁所管の「地震防災対策強化地域判定会」が召集され、状況によって「警戒宣言」が発令される。

本学では、大規模地震の発生が予知されるときには、前記「判定会」が召集された段階で、次のような措置をとることにしているため、心得ておくこと。

1. 「地震防災対策強化地域判定会」が召集されたことを確認できた時点で（テレビ、ラジオ等によって）休校とする。したがって次のように行動すること。
 - (1) 在宅中のときは、そこにとどまる。
 - (2) 通学途中、または帰宅途中のときは、直ちに帰宅する。
 - (3) 在校中のときは、大学からの連絡、指示により直ちに帰宅する。
2. 警戒宣言が解除されたとき、または判定会が解散されたときは、休校を解いて平常授業に復する。授業再開については、交通ストの場合に準ずる。
この措置は、地震発生の際の被害を極力減らすためのものであり、協力を望む。

③交通機関のストライキがあるとき

1. JRのストライキによりJRが運行されないときは、原則として次により授業を休講する。
 1. 午前6時までにストライキが解除されないとき、1・2時限の授業を休講する。
 2. 午前10時までにストライキが解除されないとき、1～5時限の授業を休講する。
 3. 正午までにストライキが解除されないとき、すべての授業を休講する。
2. 上記のほか、京王線・京王バス・神奈中バスの全部またはいずれかのストライキにより、全部またはいずれかが運行されない（バスは、法政大学発着の路線が運行されない）ときは、原則として次により授業を休講する。
 1. 午前6時までに（バスは8時までに）ストライキが解除されないとき、多摩キャンパスにおける1・2時限の授業を休講する。
 2. 午前10時までに（バスは正午までに）ストライキが解除されないとき、多摩キャンパスにおけるすべての授業を休講する。

（6）補講

休講その他により実施できなかった授業を補うために春学期・秋学期の期間に補講を行うことがあります。その場合は掲示でお知らせするので注意してください。

なお、補講期間は、表紙裏の「学年暦」で確認してください。

（7）オフィスアワーについて

教員が研究室に待機し、学生が授業や学生生活について自由に質問や相談をすることができる時間帯です。現代福祉学部の専任教員のオフィスアワーについては巻末「Ⅶ. 専任教員紹介」のページに、各教員のオフィスアワーが記載されています。各自で教員と連絡をとって、積極的に利用してください。また、兼任教員（非常勤講師）については、初回の授業時に質問等の対応時間や方法について確認してください。

4. 試験・成績評価

【試験】

(1) 試験について

履修登録した科目の単位を修得するためには、授業に出席して、受講するとともに、試験を受験して合格しなければなりません。担当教員が授業時間内に実施する「授業内試験」と、春学期・秋学期の定期試験期間に行う「定期試験」とがあります。試験の代わりに平常点や小テスト、レポートで評価する科目もあります。

定期試験期間の2～3週間前に掲示で全授業科目の試験実施方法を発表します。試験は、通常の時間割と曜日・時限・教室が異なる場合がありますので注意してください。

〈レポートについて〉

科目により平常授業中や試験期にレポート提出が求められます。レポートも通常の試験と同じ扱いですので、決められた提出期限、提出時間、提出場所を厳守してください。

レポートには表紙をつけ、表紙には、①科目名 ②担当教員名 ③論題 ④学部・学科・クラス・学生証番号 ⑤氏名を明記し、用紙の大きさや縦書き、横書き、ワープロ使用の可否等については、事前に担当教員によく確認してください。また、鉛筆など消えやすい筆記用具の使用は避け、ホッチキス等でページを留めてください。なお、現代福祉学部事務課ではレポートを受領しません。

(2) 受験上の注意

試験を受験する際には、以下の注意をよく読んで間違いがないようにしてください。

- 受験科目は登録した授業科目に限ります。未登録の授業科目を受験しても単位修得はできません。
- 受験者は必ず指定された時間、会場で受験してください。
- 試験場では試験監督の指示に従ってください。
- 受験には学生証の提示が必要です。受験者は必ず学生証を机上に置き、受験してください。学生証を忘れてしまった場合は、現代福祉学部事務課で仮受験許可証の交付を受けてください。
- 試験開始後30分までの遅刻は受験を認めず。また、試験開始後30分間は退出できません。
- 答案には必ず、学部、学科、学年、クラス、学生証番号、氏名を記入してください。これらが不明な場合は評価できません。また、答案用紙の持ち帰りは不正行為とみなします。
- 参照が許可されている場合、許可されている資料の内容（教科書、ノート、参考書、コピーの可否、書き込みの可否など）をよく確認し、必ず持参した資料を使用してください。

〈定期試験時間割（多摩キャンパス）〉

時 限	定期試験時間割
1時限	9：30～10：30
2時限	11：00～12：00
3時限	13：00～14：00
4時限	14：30～15：30
5時限	16：00～17：00
6時限	17：30～18：30

※市ヶ谷・小金井キャンパスの定期試験時間割は、科目主催学部で確認すること。

(3) 試験等における不正行為について

試験時の不正行為は、学問を学ぶ態度に反するものであるとともに、他の受験生に対する重大なマナー違反です。不正行為に対しては厳正に対処しますので、十分に留意して受験に臨んでください。

不正行為に対しては厳正に対処します。(現代福祉学部教授会)

■ 処分基準

(1) 定期試験（それに相当する授業内試験を含む）における不正行為

不正行為様態	処分内容
①計画性の弱い、または偶発的な不正行為 例： a. 他人の答案の覗き見 b. 問題・答案用紙配布後の話し合い c. 参照可の資料等の貸借 d. 不審な挙動を注意した監督者の指示に従わない e. 答案の持ち帰り	○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学 ○当該科目は無効（E評価）
②計画性が強い、または意図的な不正行為 例： a. 参照不可の試験でカンニングペーパー使用 b. " 机上への書き込み c. " テキスト・ノート等の閲覧 d. 参照可の試験で許可されたもの以外の参照・使用 e. 許可されていない機器（携帯電話・スマートフォン等）の持ち込み、使用 f. 答案用紙の交換（行為の態様により③の受験依頼に該当） g. 組織的なカンニング行為	○停学1カ月以上3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）に加え、原則として当該学期全履修科目の受験を無効（E評価）
③受験依頼（いわゆる替え玉受験） 例： a. 依頼された他人が本人になりすまして受験（本人の学生証使用） b. 答案提出直前に依頼した学生の氏名に書き換えて提出	○停学3カ月以上6カ月未満または無期停学 ○当該学期全履修科目の受験を無効（E評価）

※上記③に関し、依頼を受けて受験行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

(2) 論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為

不正行為様態	処分内容
<p>①剽窃（ひょうせつ）行為 例： a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに限定的に流用した</p>	○厳重注意または譴責
<p>②悪質な剽窃（ひょうせつ）行為 例： a. 他人の論文、出版物、ウェブサイト、作品等から、適切な引用処理を行わずに流用した b. 他人と示し合わせ、他人とほぼ同一の内容で課題を作成し提出した c. 他人が作成した論文等を、自己の氏名に書き換えて提出した d. 指導にも関わらず繰り返し剽窃行為を行った</p>	○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）
<p>③代筆依頼 例： a. 論文・レポート等の作成を代行する企業・個人等の他者に作成を請け負わせ、納品物を自己が作成したものとして提出した</p>	○停学3カ月以上6カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）
<p>④その他不正行為 例： a. データの捏造（ねつぞう）、改竄（かいざん）。</p>	○停学3カ月未満 ○当該科目は無効（E評価）

※上記③に関し、依頼を受けて代筆行為を行った者も学則上の処分の対象となりうる。

(3) 授業・試験等の出席に関わる不正行為

不正行為様態	処分内容
<p>①代返行為・虚偽申告 例： a. 他人に依頼し自己の出席報告を行わせた b. 他人から依頼を受け他人の出席報告を行った c. 出席報告書（出席カード等）の偽造により提出した d. 欠席理由に係る証明書類（診断書等）を偽造または虚偽の内容により提出した。 ※出席報告には、口頭によるもの、出席カード等紙面によるもの、学生証の情報を読み取るもの、各種システムを介して行うもの、いずれも含む。</p>	○厳重注意、譴責または1カ月未満の停学

(4) 不正行為を複数回行った場合

過去、不正行為により処分を受けたことがある者が、在学中に再び前記(1)～(3)のいずれかの不正行為を行った場合には、処分を加重し、基準より重い処分を行うことがある。

2 懲戒処分の発効日

原則として当該学期の定期試験期間最終日の翌日とする。

(4) 追試験について

やむを得ない事情で期末の試験を欠席してしまった場合、追試験を実施することがあります。

①申請資格・期間

理由	必要書類	備考	受付期間
電車遅延	遅延証明書	以下の場合は認めない。 ・通学区外外の経路を利用して遅刻した場合 ・遅れた時間以上の遅延証明書がない場合 (例：試験開始から40分遅れたが、15分の遅延証明しかない場合等) ・試験開始時刻以降の入室を想定した場合	試験実施日当日のみ
病気・怪我	診断書 または 治癒証明書 (コピー不可・試験当日に登校が不可能である旨がわかる記載が必要)	本人の病気・怪我のみ	試験日の翌々日の事務課閉室まで
忌引き	会葬礼状	親族二親等(両親・兄弟姉妹・祖父母)の通夜・告別式のみ	
就職活動	氏名・日程等が記載された通知等	採用選考日のみ 説明会は不可	
公務員・教員・資格試験	受験票等のコピー	試験日・訪問日のみ 資格試験については、指定試験合格者奨励金、L・Uキャリアアップ奨励金の該当資格のみ	
体育会	保健体育センター発行の「競技参加による欠席願」		
国体・国家代表等	対象学生の名前が記載されている大会の競技日程等		
教育実習、介護実習、資格課程科目の実習参加日程と重複	実習参加証明書	機関名・実習期間・学生所属・氏名が記載されたもの	

②申請手続

上記表の必要書類を持参し、現代福祉学部事務課にお越しください。

③追試日程ほか詳細

試験時間割発表と同時期に掲示でお知らせします。

【成績】

(5) 成績発表・成績調査について

成績発表は春学期末（9月中旬）、学年末（3月上旬）の年2回行います。詳細な日付は掲示しますので掲示板をきちんと確認してください。

①発表内容

- ・春学期末（9月中旬）：春学期科目の成績
- ・学年末（3月上旬）：卒業・進級判定結果、秋学期科目・通年科目の成績

②発表方法

成績および卒業・進級は「法政大学情報システム」上で発表するので、各自Web上で確認をしてください（日程等の詳細は、掲示でお知らせします）。成績通知書は新年度の履修登録の参考資料となるので、必ず各自でプリントアウトし大切に保管してください。**なお、成績に関する電話での問い合わせには一切応じません。**

③成績調査について

D（不合格）評価に対し疑問のある場合、また受験したにもかかわらず成績評価がE（未受験）の授業科目については成績調査を願い出ることができます。希望者は期間内に成績調査願を提出してください。成績調査受付期間については掲示でお知らせします。なお、以下のいずれかに該当する申し出は一切受けつけないので注意すること。

- ・成績評価に関する嘆願を含む申請
- ・所定の申請期間を過ぎた申請
- ・「S」～「C-」評価に関する成績調査の申請

(6) 成績評価・GPA制度について

■成績評価（2019年度より適用）

成績評価は、出席状況や試験・レポートの結果などから総合的に行われます。科目ごとの評価方法については各科目のシラバスで確認してください。

成績評価の定義は下記のとおりです。ただし、英語のように同じ科目を複数の教員が担当している科目では、クラス間の成績の偏りが無いよう、担当者間で基準を調整する場合があります。

2018年度以前の基準については成績通知書にて確認してください。

成績評価の定義は下記のとおりです。

- S：学習目標を満了し卓越した成績をあげた
- A：学習目標を満了し優秀な成績をあげた
- B：おおむね学習目標を満了した
- C：最低限の学習目標を満了したが、不十分な点も見られる
- D：学習目標を満了していない
- E：未受験、採点不能

各グレード内で特に留意すべき加点・減点がある場合、+-を付加します。ただし、SとDに関しては+-を使用しません。

■ GPA 制度

a. GP(Grade Point)について (2019 年度より適用)

下記の成績評価 S、A+、A、A-、B+、B、B-、C+、C、C-、D の 11 段階と未受験・その他の場合の評価 E に、それぞれグレードポイント (Grade Point) がつきます。11 段階の成績評価と評価基準とグレードポイントの関係は次のとおりです。

	合格 (単位修得)					
成績評価	S	A+	A	A-	B+	B
評価基準	100 - 90 点	89 - 87 点	86 - 83 点	82 - 80 点	79 - 77 点	76 - 73 点
GP	4.0	3.3	3.0	2.7	2.3	2.0

	合格 (単位修得)				不合格	
成績評価	B-	C+	C	C-	D	E
評価基準	72 - 70 点	69 - 67 点	66 - 63 点	62 - 60 点	59 - 0 点	未受験・他
GP	1.7	1.3	1.0	0.7	0.0	0.0

b. GPA (Grade Point Average) について

履修した科目の成績評価としてSからDまでの 11 段階評価がつきますが、11 段階評価を 4.0～0.0 までのポイントに置き換え、履修した単位数を掛けます。これがその科目のポイント数になります。さらに履修したすべての科目のポイント数を合計し、履修単位総数で割って平均点を算出します。これが GPA (Grade Point Average) です。GPAの算出方法については次のとおりです。計算値は小数点以下第3位を四捨五入して表記します。

$$\text{GPA} = \frac{\text{履修登録した各科目の GP} \times \text{その科目の単位数} \text{の総和}}{\text{履修登録した全科目の総単位数}}$$

c. GPAを表示する書類について

・成績通知書

- ① GPA (春学期・秋学期) : 各学期・セメスターのGPA
- ② 累積GPA : 直近の学期・セメスターまでを通算したGPA
- ③ GPA (年度内) : 各年度内のGPA
- ④ 同じ学年・所属で上位25%、50%に位置する学生のGPA

・成績証明書

累積GPA : 直近の学期・セメスターまでの在学期間を通算したGPA

d. 履修取消について

未受験その他による E 評価の科目は、GPA 計算式において、GP を 0 点として分子に算入し、単位数を分母に算入しますので、E 評価が多いほど GPA が低下します。シラバスを読み、履修したい科目を慎重に決め、科目登録をしてください。一度登録した科目は責任をもって履修してください。ただし、一定期間内に手続きすれば、登録を取り消すことができます。履修取消の期限については、履修登録の際に必ず確認してください。

e. 不合格 (D、E評価) になった科目の再履修

不合格 (D、E評価) になった科目も再履修してS~C-評価を修得した場合は、それ以前の評価の代わりに、最後の成績評価のみをGPAに参入します。結果としてGPAは上昇します。

f. 活用方法

GPAは成績を数値化し、客観的にみるための手段です。学期ごとと通算の二つのデータが出されるので、1年次と2年次、あるいは3年次、4年次の成績を比較したり、推移を確認したりすることで学習効果を自分で確認することができます。GPAが上がっていれば、さらなる学習の展望が拓けます。また、下がっていれば、なぜ下がったのかを分析し、成績向上につなげられます。GPA制度を活用し、自分の学習管理に役立ててください。本学では奨学金の選考基準の一つとして、GPAを活用しています。

g. GPAに算入されない科目について

教職科目や資格科目など、卒業所要単位以外で履修する科目はGPAには算入されません。RS評価 (留学による外国大学の修得単位認定)、RR評価 (他大学などの単位認定) のような単位認定による評価も算入されません。

この他にもグレード評価には馴染まないと各学部・学科等が判断した科目については「P・F評価」(Pass (合格) /Fail (不合格)) という形で成績評価をすることがあります。このP・F評価指定科目についてもGPAには算入されません。

5. 法政ポータルサイト (Hoppii)

1 法政ポータルサイト (Hoppii) とは

大学には履修や成績、シラバスなど、学生が利用する様々なシステムやサイトがあります。

それら全てのリンク先をひとまとめにしたポータルサイトが「法政ポータルサイトHoppii (Hosei portal to pick up information)」です。今後、授業や成績、大学からの情報を確認したい場合には、まず「Hoppii」にアクセスしてみましょう。

トップページには各種システムやサイトのリンク先が掲載されており、キャンパス毎のお知らせ（災害等による休講等の重要なお知らせも含む）も確認できます。

ぜひ、自分のパソコン・スマートフォン等にブックマークしておいてください。なお、パソコンとスマートフォンでは、利用できる機能が異なりますのでご注意ください。

URL : <https://hoppii.hosei.ac.jp>



- ① 大学全体に関連するお知らせが掲載されます。
- ② 大学内の各種システムやサイトのリンクが表示されています。
- ③ 学習支援システムやWeb掲示板など主として学生向けのシステムやサイトへのリンクが表示されています。

2 法政ポータルサイト (Hoppii) からアクセスできる主なシステム及びサイトについて

- (1) 情報システム … 履修科目の登録や成績確認などができます。
- (2) 学習支援システム … 授業教材、レポートや小テスト実施、授業に関する連絡を確認できます。
- (3) Web掲示板 … 所属学部・研究科からのお知らせや大学からのお知らせが掲示されます。
- (4) Webシラバス … 各授業の内容をWeb上で公開しています。
- (5) オンデマンドシステム … オンデマンドでの授業やガイダンス等の動画を視聴できます。
- (6) 授業改善アンケート … 履修科目に関するアンケートに回答できます (毎学期末に実施)。
- (7) Webメール … 法政大学専用Gmailを利用できます。

3 各システムについて

- (1) 情報システム (PC版・スマートフォン版)

◆ 推奨環境

ネットワークを介した学生サービスの一つとして、法政大学情報システムが利用できます。情報システムには「Web版」・「スマートフォン版 (スマートフォンサービス)」の2つのサービスがあります。推奨環境は以下の通りです。

Web版	
OS	Windows 7, 8.1, 10
ブラウザ	Internet Explorer 11, Microsoft Edge

スマートフォン版	
OS	iOS 9, 10, 11,12
ブラウザ	Safari

※スマートフォン版では、お使いの機種により機種依存文字が正しく表示されず、文字の一部が「?」などと表示されることがあります。文字化けしているお知らせや休講情報はWeb版から確認してください。

◆ 主な機能

- ① お知らせ—大学からの個人／大学全体／学部・学科宛のお知らせを情報ポータル画面上で確認できるほか、お知らせを指定のアドレスで受信することができます。
- ② 授業時間割・試験照会—自分が履修登録した授業の時間割や定期試験日程を確認できます。
- ③ 休講・補講状況照会—自分が履修登録した授業の休講・補講情報を確認できます。
- ④ 抽選授業履修申請—抽選対象科目の申請および結果の確認ができます。
- ⑤ 履修申請—履修科目の登録ができます。
- ⑥ 履修取消—履修申請による科目登録が一旦確定した後、科目の取消ができます。
- ⑦ 成績通知書印刷—自分の成績通知書を出力できます。
- ⑧ キャリア就職—各種支援行事への参加申請や、企業検索などができます。
- ⑨ 奨学金申請—各種奨学金の出願申請や、採用結果の確認ができます。
- ⑩ メール配信設定—①お知らせのメール配信設定・変更ができます。

※②③は学部事務担当による履修登録処理後、利用できます。

※②の定期試験日程照会機能・⑥履修取消機能は学部や科目により利用しない場合があります。

※PC版で利用できる機能は①～⑨です。

※スマートフォン版で利用できる機能は①～③、⑤、⑥、⑩です。

◆ メール配信設定機能について（スマートフォン版）

大学からの各種お知らせや履修している授業の休講情報を希望のメールアドレスに配信されるよう設定することができます。初期設定では大学付与のメールアドレス（xxx@stu.hosei.ac.jp）宛に配信されますが、以下の手順で希望する別アドレスに変更することができます。

<登録手順>

- ① 以下のQRコードを読み取るか登録用メールアドレスを直接入力し、空メールを送信。

QRコード： 登録用メールアドレス：info_entry@hosei.ac.jp

- ② 数分以内に「【法政大学】メール配信設定仮登録のお知らせ」メールが送られてきますので、本文中に記載されているURLより登録ページにアクセスし、画面の指示に従って登録してください。

- 情報システムの詳しい利用方法は「情報システムユーザーサポートサイト」を参照してください。

URL：<https://assupport.ws.hosei.ac.jp/as/student/intro/function.html>

QR：

(2) 学習支援システム（2020年度より授業支援システムから名称を変更しました）

本学では、授業を補助するツールとして「学習支援システム」を導入しています。教材の配布、レポートや小テストの実施、授業に関するお知らせ等を行うシステムです。

◆ トップページ

The screenshot shows the 'My Workspace' page with the following components:

- 1**: Left sidebar menu containing 'プロフィール', '授業一覧', '教材', 'お知らせ', '画面設定', 'アカウント', and various system links like '情報システム(成績・履修)', 'eラーニング(PC)', 'eラーニング(SP)', 'Webシラバス', 'Webメール', and '授業改善アンケート'.
- 2**: 'お知らせ' (Notice) section with the text '現在のお知らせはありません。' (No current notices).
- 3**: '時間割' (Timetable) section showing a grid with '1' and '2' in the first column.
- 4**: '課題' (Task) section with the text 'この場所には課題が現在ありません。' (No tasks currently in this location).
- 5**: 'オプション' (Option) section with the text '現在のお知らせはありません。' (No current notices).

- ① 各種機能および関連システムへのリンク（システムにより統合認証アカウントによるログインが必要です。）が掲載されています。
- ② 学習支援システム上で仮登録または履修登録した授業に関するお知らせ（担当教員からのお知らせや休講連絡、教室変更、補講情報等）が表示されます。
- ③ 学習支援システム上で仮登録した授業（4月下旬頃まで）または本登録した授業（5月上旬頃～）が表示されます。
- ④ 授業ごとに学習支援システム上で課された課題・レポート等のタスクが表示されます。
- ⑤ 学習支援システムに関するお知らせ（システムメンテナンス等）が表示されます。

◆ 各授業ページ



- ① 授業教材のダウンロード、与えられた課題の提出や小テスト、アンケートの回答などができます。
- ② 授業の概要等が記載されています。
- ③ 当該授業に関するお知らせ（教員からのお知らせや休講・教室変更・補講情報等）が表示されます。

◆ 必ず確認してください！！

① メールアドレスの登録

登録されているメールアドレスに本システムやWeb掲示板からお知らせ等が配信される場合があります。初期設定は大学から付与されたメールアドレス（〇〇〇@stu.hosei.ac.jp）になっています。自身の他のアドレスを使用したい場合は、設定を変更することもできます。

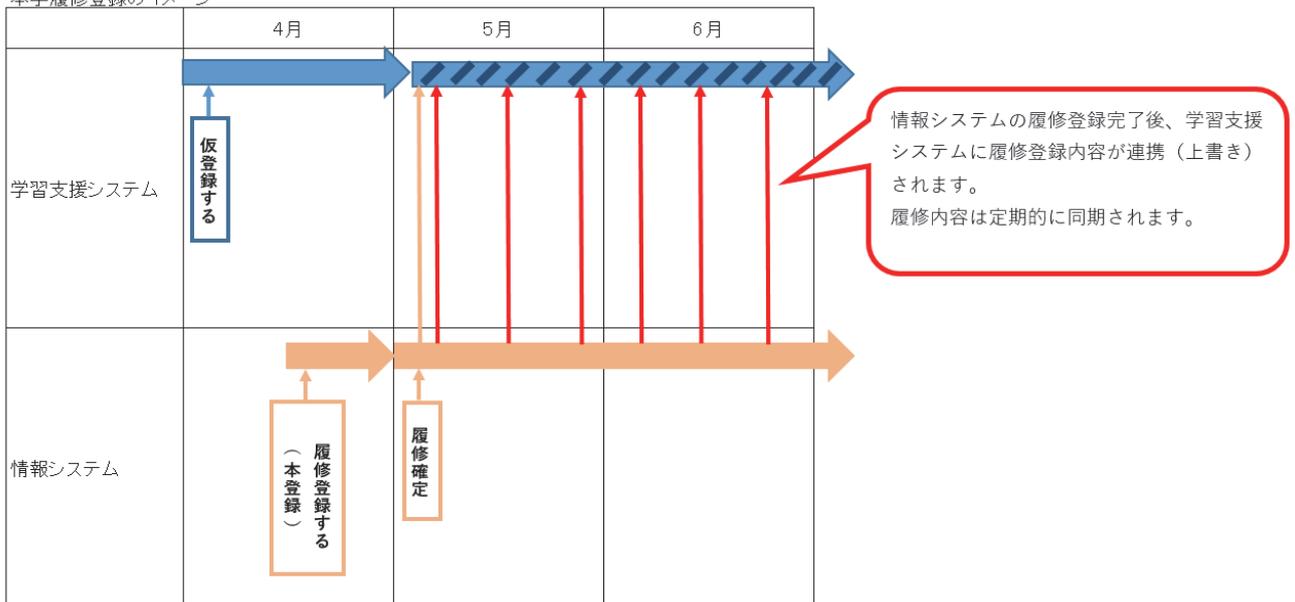
【メールアドレスの変更方法】

トップページ左側の「プロフィール」ページにアクセスし「連絡情報」よりメールアドレスを変更することができます。 ※変更する場合は入力間違いにご注意ください。

② 4月中の仮登録・履修登録（本登録）について

履修科目を大学に登録（履修登録）をする情報システムと、個々の授業をサポートする学習支援システムは、別々のシステムです。各システムは履修登録（本登録）期間後（例年5月上旬頃）に連携処理され、最終的には同じ授業登録となりますが、連携処理されるまでの間は学習支援システムに授業科目を「仮登録」しておく必要があります。仮登録することで、履修登録（本登録）前に授業教材のダウンロード、与えられた課題や小テストの実施、授業に関するお知らせ等を受け取ることが可能です。学部での履修登録期間に情報システムで履修登録（本登録）することで、正式に履修登録（本登録）が完了となり、成績評価が受けられるようになります。学習支援システムへの仮登録は授業の履修登録（本登録）と異なりますのでご注意ください。

本学履修登録のイメージ



※あくまでも一例です。具体的なスケジュールは所属学部を確認してください。

(3) Web掲示板

2020年度より、大学からのお知らせは、全てWeb掲示板に掲載されます（構内設置の掲示板は原則として廃止されます）。Web掲示板には所属学部・研究科からのお知らせや、大学の様々な部局からのお知らせが掲載されます。所属学部・研究科からのお知らせは特に重要な情報ですので、こまめにチェックしてください。

(例)

学部・研究科からのお知らせ

- ・2020年度春学期成績発表・成績調査について
- ・2020年度秋学期の定期試験について

その他のお知らせ

- ・〇〇大学（福岡市）への交流学生募集について
- ・△△学部シンポジウムの開催について
- ・□□センター「留学説明会」の開催について

(注) 上記はあくまでも一例です。

(4) Webシラバス

各授業の内容をWeb上で公開しています。授業の到達目標・テーマ、授業計画、テキスト・参考書、成績評価基準等、授業を選ぶ際の参考となる情報を閲覧できます。曜日時限や授業名、ナンバリング等での検索も可能です。

(5) オンデマンドシステム

オンデマンド授業やオンデマンドガイダンス等の動画を視聴することができます。

(6) 授業改善アンケート

学生の声を教員にフィードバックするために「授業改善アンケート」を実施しています。アンケートは学期毎・授業毎に実施しており、実施時期になると教員から案内されます。学生の皆さんの声を大学の授業改善に生かすため、必ず回答するようにしてください。

(7) Webメール

Google社が提供している一般向けGmailと同じ機能を法政大学専用環境で実現しているメールサービス（法政大学専用Gmail）を利用できます。

統合認証IDでログインすることで利用できます。メールアドレスは“○○○@stu.hosei.ac.jp”です（○○○は各自異なる）。

(8) その他

上記の他にも本学HPのリンクなど、大学生活に欠かせない様々なシステムやサイトのリンク先が掲載されています。

4 特に重要なポイント

① まずはHoppiiにアクセス！！

大学に関することを調べたい時はまずHoppiiにアクセスしてください。

② Web掲示板をこまめにチェック！！

掲示板がWeb化され、いつでも、どこでも確認できる等利便性が向上します。重要なお知らせはメールでも届きますが、Web掲示板をこまめにチェックしてください。

③ 学習支援システムもこまめにチェック！！

授業に関するお知らせは学習支援システムに掲載されます。重要なお知らせはメールでも届きますが、学習支援システムをこまめにチェックしてください。

④ 仮登録を忘れずに！！

履修登録完了までの期間は学習支援システムでの仮登録を忘れずに行ってください。

⑤ 本登録も忘れずに！！

仮登録だけでは履修登録は完了していません。必ずHoppiiから情報システムにアクセスし、本登録も行ってください。本登録を行わない場合、成績評価が受けられません。

Ⅱ. カリキュラム

福祉コミュニティ学科

■カリキュラム	……………P.	5 5
■演習・実習科目	……………P.	6 8
■自由科目	……………P.	8 2
■各学年での履修	……………P.	8 4

臨床心理学科

■カリキュラム	……………P.	9 1
■演習・実習科目	……………P.	1 0 4
■自由科目	……………P.	1 1 1
■各学年での履修	……………P.	1 1 3

福祉コミュニティ学科

※SS I（スポーツ・サイエンス・インスティテュート）コースの学生は、SS Iコースの学生向けの手引き（学務部学部事務課SS I担当（市ヶ谷）発行）も併せて参照してください。

1. カリキュラム

新しい福祉社会（ウェルビーイング・コミュニティ）では、①個人と家族の自助、②地域社会と民間非営利組織、企業などの共助、③国・地方自治体の公助を密に連携・協働させる地域包括ケアシステムを構築することが最も重要な課題になります。新しい福祉社会を支える専門家には、こうした自助、共助、公助のネットワークづくりの要としての役割が期待されています。こうした期待に応えるためには、福祉社会にかかわる組織や制度をマネジメント（経営・調整）、プランニング（企画・立案）する知識と対人的援助にかかわる幅広い臨床的スキルが欠かせません。

現代福祉学部では社会福祉・臨床心理・地域づくりをキーコンセプトに、政策科学と臨床科学を統合したフィールドワーク重視のカリキュラムを構成しました。知識に裏付けられた実践を積み重ねることによって、本学で学んだみなさんが、21世紀の新しい福祉社会を担う専門家として、地域社会や国際社会で活躍できるように配慮しました。

【基本構造】

カリキュラムは、大別すると総合教育科目と専門教育科目という2つの部分から構成されています。1年次から専門教育科目の段階的な履修が可能であると同時に、4年間を通して総合教育科目の履修が可能で、教養的関心の成長に柔軟に対応できるようになっています。選択必修である専門基礎科目と専門基幹科目は、社会福祉や地域づくりの制度や政策、組織運営に関連した基本的科目と社会福祉・心理の臨床系の基本的科目から構成されています。どのような分野に進むにせよ、まずこれらの専門基礎・専門基幹科目を幅広く学ぶ必要があります。みなさんの興味関心を発見する手助けとして、学外の専門家を招聘して、毎回リレー式で講義してもらう「フィールドスタディ入門」が用意されています。

専門の基礎・基幹科目を履修した上で、より専門的な専門展開科目を学習します。福祉コミュニティ学科では、幅広い興味関心に基づいてソーシャルポリシー分野・コミュニティマネジメント分野・ヒューマンサポート分野の3分野の専門展開科目を選択履修することで、幅広い分野にわたる福祉や地域づくりを系統的・総合的に学べるようになっています。また学生の興味関心に応じて臨床心理学の専門展開科目も履修できるよう配慮しています。

専門科目に対応する形で「ソーシャルワーク実習」「コミュニティスタディ実習」といった基礎的な実習を3年次に履修し、フィールド体験を深めることで学習を一層効果的にします。

さらには、「ソーシャルワーク実習」の履修を前提として、「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」を4年次に履修することも可能です。

（1）総合教育科目

総合教育科目は、専門領域を超えて人間的・社会的・文化的な諸価値を学んで人間性の涵養を図るとともに、将来、社会の中で生きていくために必要な基礎的な学力や体力、技能の修得をめざします。

総合教育科目は学部共通科目、言語コミュニケーション科目、視野形成科目、情報・調査系科目に分かれています。学部共通科目の「基礎演習（I・II）」4単位、言語コミュニケーション科目から1カ国語を選択して10単位以上が必修であり、合計30単位を卒業までに総合教育科目から修得する必要があります。（2016年度以前の入学者は「スポーツ総合（I・II）」も必修科目です。）

総合教育科目一覧

分類	授業科目の名称	配当年次	単位数	備考
学部共通科目 (4単位必修)	基礎演習	1	4	必修(2014年度入学者)
	基礎演習Ⅰ	1	2	必修(2015年度以降入学者)
	基礎演習Ⅱ	1	2	必修(2015年度以降入学者)
	フィールドスタディ入門	1	2	
	キャリアデザイン論	1・2・3・4	2	
	多摩地域形成論	1・2・3・4	2	
言語コミュニケーション科目 (10単位必修)	英語 1	1	1	休講 休講 休講 休講 外国人留学生のみ対象
	英語 2	1	1	
	英語 3	1	1	
	英語 4	1	1	
	英語 5	1	1	
	英語 6	2	1	
	英語 7	2	1	
	英語 8	2	1	
	英語 9	2	1	
	英語 10	3	1	
	中国語 1A	1	1	
	中国語 1B	1	1	
	中国語 2A	1	1	
	中国語 2B	1	1	
	中国語 3A	2	1	
	中国語 3B	2	1	
	中国語 4A	2	1	
	中国語 4B	2	1	
	中国語 5A	2	1	
	中国語 5B	2	1	
	日本語 1A	1	1	
	日本語 1B	1	1	
	日本語 2A	1	1	
	日本語 2B	1	1	
	日本語 3A	2	1	
	日本語 3B	2	1	
	国際コミュニケーション(英語 1A)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(英語 1B)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(英語 2A)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(英語 2B)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(英語 3A)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(英語 3B)	1・2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 1A)	2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 1B)	2・3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 2A)	3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 2B)	3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 3A)	3・4	1	
	国際コミュニケーション(中国語 3B)	3・4	1	
	インテンシヴ・イングリッシュ1	1	1	
	インテンシヴ・イングリッシュ2	1	1	
インテンシヴ・イングリッシュ3	1	1		
インテンシヴ・イングリッシュ4	1	1		
インテンシヴ・イングリッシュ5	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ6	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ7	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ8	2	1		

分類	授業科目の名称	配当年次	単位数	備考	
視野形成科目	人文系	文学	1・2・3・4	2	
		創作表現論	1・2・3・4	2	
		文化人類学	1・2・3・4	2	
		哲学Ⅰ	1・2・3・4	2	
		哲学Ⅱ	1・2・3・4	2	
		日本人の心理特性と文化	1・2・3・4	2	
		環境倫理	2・3・4	2	
		生命倫理	1・2・3・4	2	
		ホスピタリティ論	1・2・3・4	2	
		心理学	1・2・3・4	2	
		教育学	1・2・3・4	2	
		生涯学習論Ⅰ	2・3・4	2	
	生涯学習論Ⅱ	2・3・4	2		
	社会系	法学	1・2・3・4	2	
		日本国憲法	1・2・3・4	2	
		民法Ⅰ	2・3・4	2	
		民法Ⅱ	2・3・4	2	
		行政法Ⅰ	2・3・4	2	
		行政法Ⅱ	2・3・4	2	
		政治学	1・2・3・4	2	
		経営学	1・2・3・4	2	
		経済学	1・2・3・4	2	
		財政学Ⅰ	2・3・4	2	
		財政学Ⅱ	2・3・4	2	
		社会学	1・2・3・4	2	
		社会学特講	2・3・4	2	
		社会学理論	2・3・4	2	
		社会思想史	1・2・3・4	2	
		社会システム論	2・3・4	2	
		コミュニケーション論Ⅰ	2・3・4	2	
		老年学	1・2・3・4	2	
	職業社会論	2・3・4	2		
	企業と労働	1・2・3・4	2		
現代福祉特講（国際地域開発）	2・3・4	2			
女性学	1・2・3・4	2			
自然・スポーツ系（2単位必修）	医学概論	1・2・3・4	2		
	リハビリテーション概論	1・2・3・4	2		
	生命の科学Ⅰ	1・2・3・4	2		
	生命の科学Ⅱ	1・2・3・4	2		
	自然環境論Ⅰ	1・2・3・4	2		
	自然環境論Ⅱ	1・2・3・4	2		
	基礎数学Ⅰ	1・2・3・4	2		
	基礎数学Ⅱ	1・2・3・4	2		
	ヘルスプロモーション	1・2・3・4	2		
	スポーツ総合	1	2	必修(2014年度入学者)	
	スポーツ総合Ⅰ	1	1	必修(2015～2016年度入学者)	
	スポーツ総合Ⅱ	1	1	必修(2015～2016年度入学者)	
	スポーツ種目Ⅰ	2・3・4	1		
スポーツ種目Ⅱ	2・3・4	1			
情報・調査系科目	コンピュータ入門Ⅰ	1・2・3・4	2		
	コンピュータ入門Ⅱ	1・2・3・4	2		
	コンピュータ応用（ビジネススキル）	1・2・3・4	2		
	データの収集と分析Ⅰ	1・2・3・4	2		
	データの収集と分析Ⅱ	1・2・3・4	2		
	WEBデザイン	1・2・3・4	2		
	社会調査法Ⅰ	2・3・4	2		
	社会調査法Ⅱ	2・3・4	2		
	統計学	1・2・3・4	2		
	社会福祉調査	1・2・3・4	2		

a. 学部共通科目

■基礎演習

「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」は少人数の演習形式で行われ、学部の3領域の概要について学ぶとともに、大学における学習の方法や技術を習得するための授業で、卒業に必要な必修科目です。また、3年次に各種実習を履修するための先行履修科目でもあり、さらには、4年間の大学生活を送るために重要な人間関係づくりの基礎ともなる科目ですので、1年次に必ず履修し、積極的に取り組んでもらいたい科目です。

■フィールドスタディ入門

「フィールドスタディ入門」は、各実習の先行履修科目です。この講義では、「福祉」「地域づくり」「臨床心理」の現場で活躍している専門家をたくさん招いて、講演していただきます。みなさんの進路選択を考える際に参考になる講義なので、必修科目ではありませんが、1年次に積極的に履修してほしい科目です。

■キャリアデザイン論

多摩キャンパスでは、「学問」の学び方や、社会とどう関わり、どんな視点で就職を考えるかといった、キャリアをデザインするための科目「キャリアデザイン論」が4学部共通科目として設置されています。

大学生活、そして将来を自分らしくデザインしていくためにも、是非1～2年次に履修することをお奨めします。

b. 言語コミュニケーション科目

外国語に関する言語教育にはいくつかの目的と役割がありますが、とくに次の点に力を入れた外国語教育を行います。①文章を正確に読解する力を高め、それを通して異文化に対する理解を深める。②相手の言っていることを理解し、言語による意思伝達能力を向上させ、国際的なコミュニケーションをはかることができる能力を習得する。③国際的なインターネット時代の到来のなかで、様々な情報を受信・発信する能力を習得する。

現代福祉学部では、英語・中国語のいずれかを選択し、卒業までに10単位以上を修得する必要があります。

<外国人留学生>

外国人留学生入試入学者は、日本語6単位+英語4単位の計10単位を修得する必要があります。以下の表に従って、言語コミュニケーション科目を履修してください。

1年次	2年次
日本語4科目(1A・1B・2A・2B) 及び 英語2科目(「英語1・3」または「英語2・4」)	日本語2科目(3A・3B) 及び 英語2科目(「英語7・8」)
計 6単位	計 4単位

※外国語の履修方法については、別途「留学生ガイダンス」での指示に従うこと。

※「英語1・3」「2・4」はいずれかを選択し、指定されたクラスで授業を受けること。

※「英語7・8」は、「Web抽選」に必ず申請すること。

①英語

「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」「英語5」は、1年次配当の科目で、指定されたクラスで受講します。「英語6」「英語7」「英語8」「英語9」は、2年次配当科目です。「英語10」は3年次配当科目です。

全て半期授業で1単位となります。学習内容のⅠよりもⅡ、ⅡよりもⅢのほうが高度な内容のものを勉強することになります。

「英語2」「英語4」「英語5」「英語6」「英語9」は習熟度別クラス編成になっています。

「英語7」「英語8」のスキル強化英語は、学生が自分の希望で選べるクラスです。「英語10」は内容別選択英語で、各自が興味のある内容を選択します。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

1年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 1	1 (クラス指定)	読解 I
英語 2	1 (クラス指定)	コミュニケーション・イングリッシュ I
英語 3	1 (クラス指定)	読解 II
英語 4	1 (クラス指定)	コミュニケーション・イングリッシュ II
英語 5	1 (クラス指定)	ライティング・グラマー I

「英語 2」「英語 4」「英語 5」は、4月のガイダンス期間に行う TOEIC®L&R 試験のスコアによりクラス編成が行われます。習熟度別クラス編成は「上級」「中級」「基礎」の3段階になっており、それぞれのクラスは4月初めに発表され、習熟度別に指定されたクラスで受講します。「上級」「中級」「基礎」の A 及び S 評価の割合は異なっています。自分の能力に合わせたクラスで勉学に励むようにしてください。

2年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 6	2 (クラス指定)	リスニング・コンプリヘンション II
英語 7	2 (クラス選択) (抽選を行う)	スキル強化英語 I、リーディング (読解)、 リスニング (聞きとり)、ライティング (作文)、 スピーキング (会話・口頭表現)
英語 8	2 (クラス選択) (抽選を行う)	スキル強化英語 II、リーディング (読解)、 リスニング (聞きとり)、ライティング (作文)、 スピーキング (会話・口頭表現)
英語 9	2 (クラス指定)	読解 III

「英語 6」に関しては、1年次の秋学期に全員が受ける TOEIC®L&R 試験のスコアでクラス編成が行われます。

「英語 7」「英語 8」は「スキル強化英語」として2年次に配当されている科目で、スキル (技能) 別クラス編成を採用しています。①リーディング (読解)、②リスニング (聞きとり)、③ライティング (作文)、④スピーキング (会話・口頭表現) のスキルについて、各クラスで学習します。特定のスキルを特化する学習を通じて、各自の得意なスキルを伸ばしたり、弱点を補強することができます。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つのスキルのうちから、特に強化したいスキルや興味のあるスキルを各自が選択するクラスです。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

「英語 9」は、「英語 1」「英語 3」の成績と、1年次の秋学期に全員が受ける TOEIC®L&R 試験のスコアを配慮してクラスを編成することになっています。

3年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 10	3 (クラス選択) (抽選を行う)	内容別選択英語

「英語 10」は、勉強する内容がクラスによって異なりますので、内容別に学生が選択する授業です。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

なお、留学生入試入学者は、1年次に英語 2 単位を、「英語 1 と 3」もしくは「英語 2 と 4」のいずれかを選択して履修します。併せて、2年次には「英語 7 と 8」を履修します。

②中国語

中国語は、多くの受講生にとって初めて学ぶ言語のほうです。1年次には初級文法と発音を中心とした勉強を行い、やさしい会話も習得します。2年次には、読解力と簡単な聞き取り能力を身に付けることに力を入れ、中級から応用の学習に移行します。

「中国語1A」「中国語1B」「中国語2A」「中国語2B」は1年次配当の科目で、「中国語3A」「中国語3B」「中国語4A」「中国語4B」「中国語5A」「中国語5B」は2年次配当の科目です。半期授業で各1単位となります。Aは春学期授業、Bは秋学期授業のことで、秋学期授業は、春学期授業より高度な勉強をすることになります。

科目名称	配当年次	学習内容
中国語 1A・1B	1	入門（発音と会話）
中国語 2A・2B	1	入門（基本文法、発音と会話）
中国語 3A・3B	2	講読
中国語 4A・4B	2	会話と作文
中国語 5A・5B	2	聞き取りと自己表現

③国際コミュニケーション

国際コミュニケーションは1A・B～3A・Bネイティブスピーカーが担当するクラスです。

言語コミュニケーション科目として選択した「国際コミュニケーション」を履修する場合、言語コミュニケーション科目として6単位まで卒業所要単位に算入されます。

「国際コミュニケーション」は受講者数に制限が設けられています。第1回目の授業には必ず出席して担当教員の指示に従ってください。

英語の「国際コミュニケーション」は全てTOEICの勉強で、「国際コミュニケーション1A」「国際コミュニケーション1B」「国際コミュニケーション2A」「国際コミュニケーション2B」「国際コミュニケーション3A」「国際コミュニケーション3B」があり、半期授業で各1単位です。春学期授業と秋学期授業は、なるべく同じ担当教員の「国際コミュニケーション」を履修したほうが、勉強の継続性があります。

国際コミュニケーションに付された「1」「2」「3」は難易度を示すもので「基礎」「中級」「上級」のことです。

中国語による国際コミュニケーションに付された「1」「2」「3」は難易度を示すものであり、「1」から順に履修することが望まれます。「1」は中級、「2」「3」は上級です。また、同じ科目のAとBは、それぞれ同一年度にセットで履修するようにしてください。

(例)「国際コミュニケーション(中国語1A)」と「国際コミュニケーション(中国語1B)」は同一年度に履修する。

また、「国際コミュニケーション(中国語1B)」は「国際コミュニケーション(中国語1A)」を履修した後で履修してください。もし「国際コミュニケーション(中国語1A)」を修得できなかった場合は、「国際コミュニケーション(中国語1B)」を履修することができません。その場合、秋学期に履修登録していた科目は削除されますが、期間内に所定の手続きをすれば、秋学期に開講している不合格科目と同名の科目に限り、履修することができます(履修登録の変更)。詳細は秋学期開始時の掲示を

確認してください。

いずれの外国語を選んだ場合にも、積極的に外国文化を吸収するように努力することが大切です。キャンパス内にある CALL 教室や図書館などを活用して言語や文化を吸収するように心がけてください。

国際コミュニケーション英語

内 容	目安とするTOEIC®L&R スコア
国際コミュニケーション英1 A・1 B	スコア目安 ～395
国際コミュニケーション英2 A・2 B	スコア目安 400～545
国際コミュニケーション英3 A・3 B	スコア目安 550～

④インテンシヴ・イングリッシュ

「インテンシヴ・イングリッシュ」は、大学卒業後、国連の機関への就職や国際的な仕事を行う職業につくことを目指す学生を対象とした授業です。授業の短期的な目標としては、留学するために必要な IELTS 試験の点数をアップし、IELTS (Academic module) band 6.0 以上を目指し、数値で学習効果をはっきり分かるようにする授業です。

受講方法

①1年次

授業の目的が「留学できる英語能力の習得」ということですので、誰でも受講できる授業ではありません。新入生全員が受験する4月の TOEIC®L&R 試験において、上位20名程度で1クラスを編成することになります。

②2年次以上で希望する場合

2020年度にインテンシヴ・イングリッシュの履修を希望する2年次以上の学生は、4月のガイダンス時に新入生に対して実施する TOEIC®L&R 試験を受験してください。試験のスコアにより、履修の可否を決定します。

授業は総合教育科目の言語コミュニケーション科目群に組み入れられており、100分半期授業で各1単位です。言語コミュニケーション科目の卒業所要単位となります。

講義

1年次と2年次で100分授業をそれぞれ週2回行います。ただし、1年次の授業（インテンシヴ・イングリッシュ1～4）は100分を2回に分け、1回50分授業を週2回行いますので、一週間に50分授業を4回行うこととなります。2年次の授業（インテンシヴ・イングリッシュ5～8）は100分授業です。

なお、

インテンシヴ・イングリッシュ1と2（春学期）、インテンシヴ・イングリッシュ3と4（秋学期）
インテンシヴ・イングリッシュ5と6（春学期）、インテンシヴ・イングリッシュ7と8（秋学期）
は、それぞれセットで同時に履修する必要があります。

インテンシヴ・イングリッシュ受講者の年間履修制限単位数については29頁で確認してください。

⑤語学検定試験成績による言語コミュニケーション科目の認定について

現代福祉学部では、実用英語技能検定試験（英検）、TOEFL®（公開テスト）、TOEIC®（公開テスト）、中国語検定のいずれかを受験し一定の成績を取得した学生について、下記のとおり言語コミュニケーション科目の単位認定を行い、卒業所要単位に算入します（申請時点で2年以上経過している成績では申請できません）。

<認定基準>

1. 英検1級、TOEFL® iBT 100点以上、TOEIC®（公開テスト）850点以上のいずれかを取得した者
→ 英語の卒業所要単位として、8単位を認定する。
2. 英検準1級、TOEFL® iBT 79点以上、TOEIC®（公開テスト）730点以上のいずれかを取得した者
→ 英語の卒業所要単位として、4単位を認定する。
3. 中国語検定（日本中国語検定協会）2級・3級取得者
→ 中国語の卒業所要単位として、2級取得者は8単位を認定する。
3級取得者は4単位を認定する。

注意 1. ここで認定された単位は、進級要件並びに卒業要件第4条で定められている「第4年次においては、4単位以上修得しなければならない」の4単位には含まれません。

2. 単位認定申請をする外国語の種類は、入学時に決定した各自の外国語の種類と一致していなければなりません。

3. 複数の級やスコアを取得し、各認定基準にそれぞれ申請した場合でも、言語コミュニケーション科目の卒業所要単位としての認定の上限は8単位です。

4. 各認定基準で申請できる回数は1回のみです。（複数のテストを受験しても1回しか申請できません。）

5. TOEFL® ITP や TOEIC® IP などの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。

<手続きの方法>

学期初めの所定の期間内（掲示で連絡）に、該当するテストの証明書を添えて現代福祉学部事務課まで申請してください。

c. 視野形成科目

視野形成科目は、現代社会に生きる大学生に必要な高度な教養と、専門領域を越える広い視野や見識を養うことを目的としています。視野形成科目には文化的な事柄にかかわる科目、社会的な事柄にかかわる科目、身体・心・自然にかかわる科目などが含まれています。いずれの科目も、より教養的なものから、専門領域への導入的な意味を持つものまで様々なものがあります。

①スポーツ総合

この系列に分類されている「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」は、スポーツ実践の総合的な学習を通じて、基礎体力の維持・向上、身体文化への関心の喚起を図ることを主な目的としています。2016年度以前入学者は1年次必修科目、2017年度入学者は選択科目ですが、教職課程では必修科目になりますので、注意し

てください。実技と講義をおりまぜて授業が行われます。

※体育会所属の学生は履修登録手続きが異なるため、現代福祉学部事務課にて確認して下さい。

②スポーツ種目

「スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ」は経済学部・社会学部が主催している科目で、各学部の受講者数に余裕がある場合、現代福祉学部生が受講することができます（抽選となる場合があります）。受講にあたっては1つの種目を選び、原則としてⅠ（春学期）・Ⅱ（秋学期）を同一年度にセットで受講することが望ましいです。

受講者の募集、申し込み方法等の詳細についてはガイダンス期間中に掲示で連絡します。

種目名（主催学部科目名）	現代福祉学部科目名
<経済学部主催> スポーツ種目A・B（バレーボール） スポーツ種目A・B（サッカー・フットサル）	スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ（種目名）
<社会学部主催> スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（サッカー） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（ヨガ） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（バドミントン） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（野球・ソフトボール） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（太極拳） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（テニス） スポーツ総合2－Ⅰ・Ⅱ（ユニバーサル・スポーツ）	

なお、「スポーツ種目Ⅰ」「スポーツ種目Ⅱ」を履修して単位を修得した場合でも、必修科目の「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」に振替えることはできませんので注意してください。

d. 情報・調査系科目

高度情報化社会の今日、コンピュータを活用する技能は欠かせません。情報・調査系科目の中には、①コンピュータを利用した情報教育科目、②統計学科目、③社会調査科目が配置されており、相互に関連づけて学習することができます。

また、コンピュータ実習室を利用する授業科目については、受講者数の制限があります。これらの科目については、事前に抽選を行いますので注意してください。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目、演習・実習科目に分かれており、高度な専門教育を、段階を踏んで系統立てて学習できるように配置しています。

専門基礎科目には学科に共通する専門科目として、4科目8単位が選択必修です。専門基幹科目は、社会福祉、地域づくり、および心理の臨床にかかわる科目で構成されています。全体で5科目10単位を選択必修としています。専門展開科目は、専門基礎・専門基幹科目を踏まえて、さらに専門的に学習を深め展開するための科目群です。

専門基礎科目の選択必修8単位、専門基幹科目の選択必修10単位を修得し、かつ、専門展開科目、演習・実習科目を含めた専門教育科目全体で80単位以上を卒業までに修得する必要があります。

専門教育科目一覧

分類	科目名称	配当年次	単位数	備考	
(8単位選択必修) 専門基礎科目	地域問題入門	1・2・3・4	2	6科目中4科目を修得する必要があります。	
	まちづくりの思想	1・2・3・4	2		
	地域の歴史と文化	1・2・3・4	2		
	社会問題論	1・2・3・4	2		
	社会福祉概論	1・2・3・4	2		
	ソーシャルワークⅠ(相談援助の基盤と専門職)	1・2・3・4	2		
(10単位選択必修) 専門基礎科目	福祉国家論	2・3・4	2	10科目中5科目を修得する必要があります。	
	地域福祉論	1・2・3・4	2		
	社会的包摂論	1・2・3・4	2		
	地域計画論	1・2・3・4	2		
	コミュニティビジネス論	1・2・3・4	2		
	ボランティアアクション	1・2・3・4	2		
	ソーシャルワークⅡ(理論)	2・3・4	2		
	ソーシャルワークⅢ(方法)	2・3・4	2		
	ケアマネジメント論	2・3・4	2		
	カウンセリング	1・2・3・4	2		
専門展開科目	ソーシャルポリシー分野	社会福祉原理	2・3・4	2	休講
		医療政策論	2・3・4	2	
		保健医療サービス	2・3・4	2	
		社会保障論	2・3・4	2	
		公的扶助論	2・3・4	2	
		雇用政策論	2・3・4	2	
		都市住宅政策論	2・3・4	2	
		地域文化政策論	2・3・4	2	
		環境政策論	2・3・4	2	
		地方自治論	2・3・4	2	
		政策評価論	2・3・4	2	
		地方財政論	2・3・4	2	
		地域経済論	2・3・4	2	
		福祉行財政と福祉計画	2・3・4	2	
		司法福祉論	2・3・4	2	
	国際支援論	2・3・4	2		
	福祉の思想と歴史	2・3・4	2		
	Community Based Inclusive Development	2・3・4	2		
	コミュニティマネジメント分野	地域経営論	2・3・4	2	休講
		ソーシャルイノベーション論	2・3・4	2	
		ソーシャルマネジメント論	2・3・4	2	
		ソーシャルファイナンス論	2・3・4	2	
		NPO論	2・3・4	2	
		協同組合論	2・3・4	2	
		福祉サービスの組織と経営	2・3・4	2	
		居住福祉論	2・3・4	2	
		災害支援論	2・3・4	2	
人権活動論		2・3・4	2		
都市とコミュニティ		2・3・4	2		
農山村とコミュニティ		2・3・4	2		
コミュニティアート	2・3・4	2			
コミュニティスポーツ	2・3・4	2			
文化環境創造論	2・3・4	2	休講		
地域遺産マネジメント論	2・3・4	2			
地域ツーリズム	2・3・4	2			
住民参加の手法	2・3・4	2			
精神保健福祉論Ⅰ	2・3・4	2			
精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2			
精神保健学	2・3・4	2			
地域リハビリテーション	2・3・4	2			
Disability and Development in Asia	2・3・4	2			

分類	科目名称	配当年次	単位数	備考		
専門展開科目	ヒューマンサポート分野	高齢者福祉論	2・3・4	2		
		介護福祉論	2・3・4	2		
		障害者福祉論	2・3・4	2		
		家族福祉論	2・3・4	2		
		児童福祉論	2・3・4	2		
		若者支援論	2・3・4	2		
		女性福祉論	2・3・4	2		
		権利擁護と成年後見	2・3・4	2		
		セルフヘルプグループ	2・3・4	2		
		老いの文化と福祉	2・3・4	2		
		スクールソーシャルワーク	2・3・4	2		
		コミュニティソーシャルワーク	2・3・4	2		
		多文化ソーシャルワーク	2・3・4	2		
		死生観とソーシャルワーク	2・3・4	2		
		精神保健ソーシャルワークⅠ	2・3・4	2		
		精神保健ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2		
		精神科リハビリテーション学	2・3・4	2		
		精神医学	2・3・4	2		
		発達心理学	2・3・4	2		
		臨床心理学	2・3・4	2		
		家族心理学	2・3・4	2		
		教育心理学	2・3・4	2		
		学校心理学	2・3・4	2		
		障害者心理学	2・3・4	2		
		高齢者心理学	2・3・4	2		
		コミュニティ心理学	2・3・4	2		
		異文化心理学	2・3・4	2		
		芸術療法	2・3・4	2		
		演習・実習	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅱ	3	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅲ	3	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅳ	3	2	
			ソーシャルワーク演習Ⅴ	3	2	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2	1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3	1	
			ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3	1	
			ソーシャルワーク実習	3	4	
			精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	2	
			精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	4	2	
精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3		1			
精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4		2	(2014年度以前入学者)		
精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4		1	(2015年度以降入学者)		
精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅳ	4		1	(2015年度以降入学者)		
精神保健ソーシャルワーク実習	4		4			
スクールソーシャルワーク演習	4		2			
スクールソーシャルワーク実習指導	4		2	(2014年度以前入学者)		
スクールソーシャルワーク実習指導Ⅰ	4		1	(2015年度以降入学者)		
スクールソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4		1	(2015年度以降入学者)		
スクールソーシャルワーク実習	4		2			
コミュニティスタディ演習	2		2			
コミュニティスタディ実習指導	3		2	(2014年度以前入学者)		
コミュニティスタディ実習指導Ⅰ	3		1	(2015年度以降入学者)		
コミュニティスタディ実習指導Ⅱ	3		1	(2015年度以降入学者)		
コミュニティスタディ実習	3		2			
専門演習Ⅰ	2		4	(2014年度以前入学者)		
専門演習ⅠA	2		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅠB	2		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅡA	2		2	必修 (2017年度入学者)		
専門演習ⅡB	2		2	必修 (2017年度入学者)		
専門演習Ⅲ	3		4	(2014年度以前入学者)		
専門演習ⅢA	3		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅢB	3		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅣA	3		2	必修 (2017年度入学者)		
専門演習ⅣB	3		2	必修 (2017年度入学者)		
専門演習ⅤA	4		4	(2014年度以前入学者)		
専門演習ⅤB	4		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅥA	4		2	(2015～2016年度入学者)		
専門演習ⅥB	4		2	必修 (2017年度以降入学者)		
卒業論文	4	4				
英語専門演習Ⅰ	2・3・4	4	(2014年度以前入学者)			
英語専門演習ⅠA	2・3・4	2	(2015年度以降入学者)			
英語専門演習ⅠB	2・3・4	2	(2015年度以降入学者)			
英語専門演習Ⅱ	3・4	4	(2014年度以前入学者)			
英語専門演習ⅡA	3・4	2	(2015年度以降入学者)			
英語専門演習ⅡB	3・4	2	(2015年度以降入学者)			

a. 専門基礎科目

専門基礎科目には学科に共通する専門科目として、社会福祉と地域づくりに関する基礎的な科目が配置されています。本学部を卒業する学生に共通に学んで欲しい科目はここに置かれており、4科目8単位が必修です。専門教育への導入部として、ここで幅広い領域を学んで将来の学習方向や進路を考えるための手がかりを提供します。

b. 専門基幹科目

専門基幹科目は、社会福祉や地域政策の理論、および心理の臨床にかかわる基幹的な科目から構成されています。全体で5科目10単位を選択必修としています。

c. 専門展開科目

専門展開科目は、専門基礎・専門基幹科目を踏まえて、さらに専門的に学習を深め展開するための科目群です。社会的な広い視野から福祉政策や地域政策などを学ぶソーシャルポリシー分野、コミュニティレベルでの運営のあり方やサービスを学ぶコミュニティマネジメント分野、対人援助の基本やサポートのあり方などを学ぶヒューマンサポート分野の3分野に整理され、それぞれの関心に応じて、履修することができます。

これら科目と各種実習とを組み合わせることで、みなさんの学習はより効果的になると考えています。また卒業後の進路を考える際にもそうした系統的な学習は大切です。

2. 演習・実習科目

演習・実習科目に位置づけられているのは、「専門演習Ⅰ～Ⅲ（A・B）」「卒業論文」「英語専門演習Ⅰ（A・B）～Ⅱ（A・B）」の演習科目、「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ・実習・実習指導Ⅰ～Ⅲ」「精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅱ・実習・実習指導Ⅰ～Ⅱ」と、「スクールソーシャルワーク演習・実習・実習指導」「コミュニティスタディ演習・実習・実習指導」そして「認定課外実習」「スタディ・アブロード」の実習科目です。

「ソーシャルワーク実習」「コミュニティスタディ実習」、「精神保健ソーシャルワーク実習」および、「スクールソーシャルワーク実習」の詳細は、「4. 各学年での履修方法」もよく読んでください。

（1）専門演習

2017年度入学者の専門演習Ⅰ～Ⅲ（A・B）は必修です。（2016年度以前の入学者は選択科目です。）

専門演習は担当教員の専門分野に即して開講されるもので、少人数での報告・討論を通して専門性を深めることができます。それぞれの担当教員の専門分野を教員紹介でよく検討して受講してください。豊かな大学生活を送るためにも、問題意識をもって講義を主体的に受け止められるようになるためにも、専門演習は大変有効な科目です。4年次では、専門演習を通じて学んだことを中心に、所定の期日までに卒業論文として提出することになります。

（2）卒業論文

卒業論文は、専門演習だけでなく、個別指導に基づいて作成します。具体的には、学術論文の体裁や約束事、選んだ研究領域についての基礎的知識、各種研究方法や資料収集の方法などの習得からはじめ、個別相談を重ねながら、論文のテーマと構成を確定します。執筆に取りかかっている間は、随時進捗状況の報告を行い、提出された草稿に手直しを加えながら完成度を高めていきます。

<作成要領>

1. 内容、分量および書式等について

（1）現代福祉学部らしいさまざまな卒論作成スタイル、手法、内容を許容します。

ただし、懸賞論文の募集に関する書類の「論文の書き方についての注意」を参考にしてください。

■大学ホームページ HOME > キャンパスライフ > 課外活動 > 法政大学懸賞論文

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/katsudo/kensho>

（2）文字数は12,000～20,000字をめどとします。ただし、分量については専門演習の担当教員の指導に従って下さい。原則としてワープロ（パソコン）を使用、A4版（1ページは40字×30行＝1200字程度）横書きとします。なお、本人控えとして1部をかならず保管しておいてください。

（3）フォントは明朝またはゴシック体を使用し、10.5ポイント程度を標準とします。論文題目や章・節題名は少し大きめのフォントを使用します。印字は黒を原則としますが、図表等はカラーを使用してもかまいません。

（4）各ページには中央下部にページ番号をつけます。

（5）余白：上下30ミリ、右は25ミリ、左は35ミリ（綴じ代を含む）程度の余白をとります。

2. 他人の作品・論文・文章などの引用について

- (1) 字句または説を盗み取って、自分のものとして発表することは剽窃行為となり、不正行為として厳正に処分されます。他人の論文・書物あるいはHP等から文章（またはその内容）や図表を引用して論文の一部を構成するときには、引用していることや出所を必ず明記する必要があります。本文中に引用であることを明記した上で、引用文献の一覧を作成し論文の巻末等に掲載してください。
- (2) 引用文献一覧は、通常、著者名のアルファベット順（日本人が著者の場合は、苗字のローマ字の一文目）に記載することが一般的です。ただし、研究領域ごとに書式等がことなる場合がありますので、各領域の代表的な研究雑誌等を指導教員に紹介してもらうなど、指導教員の指導を受けてください。
- (3) 脚注を使用する場合は各章ごとにまとめて書くか、あるいは巻末にすべての注をまとめて書いてください。文章中には、例えば、（発達障害支援法¹⁾）のように上付け数字で表記してください。

3. 表紙について

卒業論文には指定された表紙（大学生協購買部（総合棟地下1階）で販売）を使用してください。なお、指導教員から別途指示がある場合には、それに従ってください。

[卒業論文表紙・背表紙見本]

(A4-S)

4. 提出要領について

- (1) 提出期日：各ゼミの専門演習Ⅲの最終授業日までに提出してください。提出期限は厳守してください。
- (2) 提出先：各指導教員へ直接提出してください。

<留級者の卒業論文 半期履修について>

通常、「卒業論文」は通年科目ですが、1回目の4年次に卒業要件を満たさず留級し、次年度に再度4年次となる学生で「卒業論文」が未修得の場合、2回目の4年次で履修する「卒業論文」を、1年間の指導を半期（春学期または秋学期）に集中して受ける【半期履修】の申請ができます。

2回目の4年次で半期履修を希望する学生は、3月の成績発表後、以下の申請条件を確認し、卒業論文担当教員と面談のうえ、事務課窓口にて申請してください。申請書の提出にあたっては担当教員の許可を要しますので、期日に余裕をもって窓口に来てください。

- 対象：留級した4年生
- 申請条件：卒業論文（4単位）を除いた未修得単位が10単位以下の者。ただし、未修得単位に通年科目がある場合は申請することはできない。
- 申請期日：4月末まで
- 9月卒業の場合は「9月卒業申請書」を、春学期を休学する場合は「休学願」を、期日までに別途提出すること。

5. 卒業論文 タイトル・担当教員の公開について

2019年度提出の卒業論文より学部ホームページに卒業論文タイトル・担当教員を公開します。

(3) 英語専門演習

英語専門演習は、より高度な英語力を習得したい人が履修する選択科目です。「英語1」から「英語10」まで、また、「国際コミュニケーション（英語）」の授業以外にも勉強したい人のための授業です。しかし、英語の勉強といっても幅広く、すべてを網羅している授業ではありません。

「英語専門演習Ⅰ（A・B）」は、国際化する社会で活躍出来るようにプレゼンテーション、ディスカッション、グループプロジェクト等英語による発信力と受信力を高めようとする授業です。

「英語専門演習Ⅱ（A・B）」は、大学院への進学のため、学術的な英語能力のスキルアップを目指したい人を対象とした授業です。

「英語専門演習」は、上記「専門演習」と重複して履修することが可能です。明確な目的を設定しますので、自分の希望にあわせて履修してください。

(4) 実習科目

a. 実習の目的

授業や専門演習で学んだことを実際の現場や社会で体験し、見学することで学習を深めることが実習の目的です。単に資格を取るだけにとらわれず、各自の関心や卒業後の進路をよく考えて、実習を選択するようにしてください。

b. 実習の種類

3年次の社会福祉関連の「ソーシャルワーク実習」、地域づくりに関連した「コミュニティスタディ実習」、また、4年次の精神保健・福祉関連の「精神保健ソーシャルワーク実習」、学校・教育行政関連の「スクールソーシャルワーク実習」があります。さらに関連する領域の課外実習である「認定課外実習」、海外での「スタディ・アブロード」の6種類の実習が用意されています。

c. 3年次の実習の選択と選抜

上記の実習のうち、3年次に選択できる実習は、「ソーシャルワーク実習」「コミュニティスタディ実習」です。これらは、在学中に一つしか履修することはできません。

どの実習を行うかは、実習を行う前年のガイダンスを受けて選択します。

認定課外実習とスタディ・アブロードの説明は該当ページを参照してください。

d. 4年次の精神保健ソーシャルワーク実習・スクールソーシャルワーク実習について

3年次にソーシャルワーク実習を履修し、福祉専門職に就くことを希望している場合は、次年度に「精神保健ソーシャルワーク実習」「スクールソーシャルワーク実習」のいずれかを履修することができます。

ただし、「スクールソーシャルワーク実習」については、2年次に実習選択をすることになります（78頁参照）。

e. 実習に関する連絡や相談

実習に関連する連絡事項は各種実習の専用掲示板に掲示しますので、必ず掲示板を見るようにしてください。実習に関して分からないこと、不明な点は実習指導室や担当教員に相談するようにしてください。

①ソーシャルワーク実習

1. 目的

ソーシャルワーク実習とは、大学で学んだソーシャルワークの技術を、実際の場面で理解し、自ら実践することによって、ソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的としています。またソーシャルワーク実習に関連する科目は、社会福祉士の受験資格を得るための指定科目に当たり、社会福祉士の受験資格を得るためには、必須科目となっています。社会福祉士の資格等の説明は、「Ⅲ. 資格取得」を参照してください。

2. 実習科目

ソーシャルワーク実習は、学則別表（1）に定める設置科目のうち、以下の9科目で構成されており、全ての科目を履修する必要があります。

①ソーシャルワーク演習Ⅰ（2年次 秋学期：2単位）

ソーシャルワーカーとしての基本的な態度やコミュニケーションスキルを、少人数の演習形式で学びます。

②ソーシャルワーク演習Ⅱ（3年次 春学期：2単位）

事例検討を中心に、ソーシャルワーカーとしてのクライアントに対する援助方法の実際を学びます。

③ソーシャルワーク演習Ⅲ（3年次 春学期：2単位）

演習や事例検討を中心に、ソーシャルワークの専門的価値・倫理、社会資源整備状況や関連施策について学びます。

④ソーシャルワーク演習Ⅳ（3年次 春学期：2単位）

地域を基盤とした実践の展開を目指し、事例検討やロールプレイを通して、ソーシャルワークの知識と統合をはかります。

⑤ソーシャルワーク演習Ⅴ（3年次 秋学期：2単位）

実習体験や事例検討を通して、地域で生活する利用者の自立支援やネットワーキングなどの実践について学びます。

⑥ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（2年次 秋学期：1単位）

ソーシャルワーク実習の事前指導（Ⅰ・Ⅱ）と事後指導（Ⅲ）として大学で行います。事前指導Ⅰとして、実習施設や関連する法制度などについて学びながら配属先を決めます。

⑦ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（3年次 春学期：1単位）

ソーシャルワーク実習の事前指導Ⅱとして、実習先に関する援助技術の学習および実習計画書の作成を指導します。

⑧ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（3年次 秋学期：1単位）

ソーシャルワーク実習の事後指導として、実習で得られた体験や知識のふり返し、自己評価を行い、報告書の作成および報告会の準備を行います。

⑨ソーシャルワーク実習（3年次：4単位）

大学が指定する施設で、180時間以上、実習を行います。実習中は、実習施設の指導者や大学教員の指導を受けます。実習は、おおむね8月から11月の間に行われます。実習時期や実習施設を学生のみなさんが指定することはできません。また、実習期間中は、部活動やアルバイトはできませんので、注意してください。

注意：履修年次は、一般的な年次です。4年次でも実習に行くことができますが、その場合、民間企業への就職活動や、教職課程の教育実習への日程的な配慮ができません。

3. 履修要件（先行履修科目・先行履修要件・履修推奨科目）

①先行履修科目

「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、以下の先行履修科目を実習に行く年度中までに単位修得しておく必要があります。

「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」	「フィールドスタディ入門」	
「ソーシャルワークⅠ（相談援助の基盤と専門職）」	「ソーシャルワークⅡ（理論）」	
「ソーシャルワークⅢ（方法）」	「ソーシャルワーク演習Ⅰ」	「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」

以上の7科目は必須。

注意：「ソーシャルワーク演習Ⅰ」および「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は、2年次の秋学期の初めに、ソーシャルワーク実習への仮登録を済ませた上で、追加履修登録により履修します。

②先行履修要件

上記先行履修科目の他に、先行履修要件として、以下の活動と報告書を提出することが必要です。なお、フィールド体験実習に行く前に、「フィールド体験実習申請書」により実習指導室へ届出をしてください（事前の届出がないと事故などに対する保険が適用されないことがあります）。

■フィールド体験実習Ⅰ

1年次の冬季休業終了までに、4日間以上、社会的活動に関わるボランティア活動を行い、その活動で感じたこと、学んだことを報告書として提出してください。

■フィールド体験実習Ⅱ

フィールド体験実習Ⅰの終了後、6月末までに3日間以上、社会福祉領域（障害者、高齢者、児童などの分野）で直接、人と接するボランティア活動を行い、その活動で感じたこと、学んだことを報告書として提出してください。

③履修推奨科目

以下の科目は、先行履修科目ではありませんが、ソーシャルワーク実習に際して必要な科目です。実習前に履修していない場合、実習前に独習しなければなりませんので、3年次の春学期（実習に行く年度の春学期）までには履修しておくことを推奨します。

「障害者福祉論」 「高齢者福祉論」 「児童福祉論」 「地域福祉論」 「公的扶助論」
「コミュニティソーシャルワーク」 「介護福祉論」 「社会福祉概論」 「社会保障論」 「医学概論」
「権利擁護と成年後見」 「保健医療サービス」 「福祉行財政と福祉計画」 「福祉サービスの組織と経営」
「司法福祉論」

4. 費用

実習費として、4万円を予定していますが、今後変更されることもありますので、実習ガイダンス等の説明をよく聞き確認しておいてください。実習費は、ソーシャルワーク実習を履修する年度の4月に納入し、実習施設への謝礼に充てます。

5. 選抜

ソーシャルワーク実習は、先行履修要件を満たしている3年次生以上であり、実習に行く明確な意志を持っているものであれば、実習に行くことができます。特に、選抜試験はありませんが、課題を提出しない場合や、欠席・遅刻が一定回数を超えると、実習に行く意思がないとみなし、実習を中止することがあります。

②コミュニティスタディ実習

1. 実習のねらい

卒業後、民間企業や地方公務員など様々な職種に就いて、社会で活躍するためには、課題を解決したり、新たな企画を生み出したりできるプロジェクト立案の力が不可欠です。

コミュニティスタディ実習では、地域社会の課題に対して多面的なアプローチを図っている多様な現場に積極的に向かいます。実習生自らの問題関心を大事にして、実習先とプログラム内容を組み立て、現場ではたくさんの仕事人に出会いながら、実践的に課題を探りあて、解決に向けた道筋を描き出すトレーニングを重ね、社会に役立つ企画力を身につけることをねらいとしています。

2. 定員

定員は45名とし、1クラスの定員は15名以内で、3クラスを編成します。なお、春学期・秋学期の実習指導は必要に応じて合同で行います。

3. 実習科目

①コミュニティスタディ演習（2年次 秋学期：2単位）

社会の課題を実践的に探り出すために必要なスキルを身につけ、実習生同士でのテーマディスカッションを重ねながら、多様な考え方や分析視角を学びます。

②コミュニティスタディ実習指導（I・II）（3年次：2単位（各1単位））

春学期は、事前学習として自分の関心のあるテーマについて、その理由を具体的に突き詰めながら、何を目指して実習に取り組みたいのか、仮説を組み立てます。必要に応じて、近隣地域で実践されている現場に向き、フィールド調査を行いながら仮説の手がかりを得ていきます。その上で、夏休みを中心とした実習計画書を作成し、担当教員のアドバイスを受けて、実習先の検討とプログラムづくりを進め、実習先との調整を進めていきます。

秋学期は、実習先での活動内容を整理し、当初想定していた作業仮説を検証します。また、現地実習では明らかにできなかった内容について、補足調査と分析作業を重ね、現場の課題解決に向けた企画提案を形にしていきます。最終的に、報告会でのプレゼンテーション、および報告書の取りまとめを通して、実習先への成果の還元を目指します。

③コミュニティスタディ実習（3年次夏休み期間：2単位）

担当教員が有する現場とのネットワークをベースとしながら、実習生の意向とマッチングしながら実習先（地方自治体・NPO法人・まちづくり会社・民間企業など）を設定します。現地実習の日数や進め方は、実習先との調整により設定します（2週間程度の現地滞在を想定）。

4. 履修要件(先行履修科目と先行履修要件)

以下の履修要件を満たしていることが必要です。

①先行履修科目

「コミュニティスタディ実習」を履修するためには、以下の科目を履修し、2年次生終了までに単位を修得していることが必要です。

「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」	「フィールドスタディ入門」	「コミュニティスタディ演習」	
上記の3科目は必須。			
さらに、次の13科目中、5科目以上履修していること。			
「地域問題入門」	「まちづくりの思想」	「地域の歴史と文化」	「社会的包摂論」
「地域計画論」	「コミュニティビジネス論」	「都市住宅政策論」	「地域文化政策論」
「地域経済論」	「地域経営論」	「ソーシャルイノベーション論」	「都市とコミュニティ」
「農山村とコミュニティ」			

注意：「コミュニティスタディ演習」は、2年次の秋学期の初めに、「コミュニティスタディ実習」への仮登録を済ませた上で、追加履修登録により履修します。

②先行履修要件

この他に、先行履修要件として、以下の活動と報告書を提出することが必要です。なお、フィールド体験実習に行く前に、「フィールド体験実習申請書」により実習指導室へ届出をしてください（届出がないと事故などに対する保険が適用されないことがあります）。

■フィールド体験実習Ⅰ

1年次の冬季休業終了までに、4日間以上、社会的活動に関わるボランティア活動を行い、その活動で感じたこと、学んだことを報告書として提出してください。

5. 費用

交通費、食費、実習先での実習経費などについては履修生の自己負担とします。

6. 履修生の選抜方法

定員を超えた場合は、課題レポートによる選抜を行います。「コミュニティスタディ実習」の選抜にもれた場合は、1回に限り、ほかの実習への変更希望が認められます。

③精神保健ソーシャルワーク実習

1. 目的

精神保健ソーシャルワーク実習とは、大学で学んだ精神保健ソーシャルワークの技術を、実際の場面で理解し、自ら実践することによって、精神保健ソーシャルワーカーとして必要な技術、知識、価値観を習得することを目的としています。また、精神保健ソーシャルワーク実習に関連する科目は、精神保健福祉士の受験資格を得るための指定科目にあたり、精神保健福祉士の受験資格を得るためには、必須科目となっています。精神保健福祉士の資格等の説明は「Ⅲ. 資格取得」を参照してください。

2. 定員

定員は10名以内とします。

3. 実習科目

精神保健ソーシャルワーク実習は、学則別表（1）に定める設置科目のうち以下の科目で構成されており、全ての科目を履修する必要があります。

【2014年度以前入学者・2015年度以降入学者共通】

① 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ（4年次 春学期：2単位）

事例検討を中心に、精神保健ソーシャルワーカーとしてのクライアントに対する援助方法の実際を学びます。

② 精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ（4年次 秋学期：2単位）

実習体験や事例検討を通して、地域で生活する利用者の自立支援やネットワーキングなどの実際について学び、精神保健ソーシャルワークの知識と統合をはかります。

③ 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ（3年次 秋学期：1単位）

精神保健ソーシャルワーク実習の事前指導として、精神保健ソーシャルワーク実習の意義について理解し、実習施設や関連する法制度などについて学びながら配属先を決めます。

【2014年度以前入学者】

④ 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（4年次：2単位）

精神保健ソーシャルワーク実習の事前指導と事後指導を大学で行います。事前指導では、実習施設や関連する制度などの学習及び実習計画書の作成を指導します。事後指導では、実習で得られた体験や知識の振り返りを行い、報告書の作成および報告会の準備を行います。

⑤ 精神保健ソーシャルワーク実習（4年次：4単位）

本学では3年次に社会福祉士の「ソーシャルワーク実習」を履修している学生が4年次に実習を行いますので、30時間分の精神科病院等の医療機関以外の実習が免除できることから180時間（おおむね24日）以上の実習となっています。180時間の実習のうち精神科病院等医療機関で90時間以上、地域の事業所（精神保健センター、生活支援センター、就労継続支援事業所等）で90時間以上の実習を行います。

【2015年度以降入学者】

※2015年度以降入学者は上記の「④精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」が以下④⑤のように分割されます。

④ 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ（4年次 春学期：1単位）

精神保健ソーシャルワーク実習の事前指導を大学で行います。事前指導では、実習施設や関連する制度などの学習及び実習計画書の作成を指導します。

⑤ 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ（4年次 秋学期：1単位）

精神保健ソーシャルワーク実習の事後指導を大学で行います。事後指導では、実習で得られた体験や知識の振り返りを行い、報告書の作成および報告会の準備を行います。

⑥ 精神保健ソーシャルワーク実習（4年次：4単位）

本学では3年次に社会福祉士の「ソーシャルワーク実習」を履修している学生が4年次に実習を行いますので、30時間分の精神科病院等の医療機関以外の実習が免除できることから180時間（おおむね24日）以上の実習となっています。180時間の実習のうち精神科病院等医療機関で90時間以上、地域の事業所（精神保健センター、生活支援センター、就労継続支援事業所等）で90時間以上の実習を行います。

4. 履修要件

【2014年度以前入学者】

①先行履修科目

4年次で「精神保健ソーシャルワーク実習」を履修するためには、以下の先行履修科目を3年次までに単位修得しておく必要があります。

下記、ソーシャルワーク実習関連科目

ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ソーシャルワーク実習 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 「精神保健福祉論Ⅰ」 「精神保健福祉論Ⅱ」 「精神医学」
さらに、次の4科目中、1科目以上履修し、単位を修得していること。 「精神保健学」 「精神科リハビリテーション学」 「精神保健ソーシャルワークⅠ」 「精神保健ソーシャルワークⅡ」

注意：「精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は3年次の秋学期の初めに、精神保健ソーシャルワーク実習への仮登録を済ませた上で、追加履修登録により履修します。

【2015年度以降入学者】

①先行履修科目

4年次で「精神保健ソーシャルワーク実習」を履修するためには、以下の先行履修科目を3年次までに単位修得しておく必要があります。

下記、ソーシャルワーク実習関連科目

ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ ソーシャルワーク実習 精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ 「精神保健福祉論Ⅰ」 「精神保健福祉論Ⅱ」 「精神医学」
さらに、次の4科目中、1科目以上履修し、単位を修得していること。 「精神保健学」 「精神科リハビリテーション学」 「精神保健ソーシャルワークⅠ」 「精神保健ソーシャルワークⅡ」

注意：「精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」は3年次の秋学期の初めに、精神保健ソーシャルワーク実習への仮登録を済ませた上で、追加履修登録により履修します。

②履修推奨科目

以下の科目は、先行履修科目ではありませんが、精神保健ソーシャルワーク実習に際して必要な科目です。実習前に履修していない場合、実習前に独習しなければなりませんので、4年次の春学期までに計画的に履修しておくことを推奨します。

「精神保健学」 「精神科リハビリテーション学」

5. 費用

実習費として、4万円を予定しています。実習費は、精神保健ソーシャルワーク実習を履修する年度の4月の納入となります。

6. 選抜方法

3年次春学期末の4年次実習全体ガイダンスにて、詳細について説明いたします。

④スクールソーシャルワーク実習

1. 目的

スクールソーシャルワーク実習は、将来、学校や教育行政、また地域の児童関連施設などで働くことを希望し、教育と福祉の連携を中心とした福祉の仕事に関心をもつ学生を対象に、学校や児童福祉施設などでの実践を通して、学校におけるソーシャルワークを修得することを目的としています。

2. 定員

定員は5名とします。

3. 実習クラスについて

スクールソーシャルワーク実習は、「3年次のソーシャルワーク実習（児童福祉領域）+4年次のスクールソーシャルワーク実習」の2年間によって構成されます。スクールソーシャルワークの資格取得を希望される方は、必ず2年次の実習選択の際に、「スクールソーシャルワーク実習クラス」に配属希望を提出してください。

4. 実習科目

スクールソーシャルワーク実習は、以下の4科目（2014年度以降入学者は3科目）で構成されており、全ての科目を履修する必要があります。

①スクールソーシャルワーク演習（4年次 春学期：2単位）

スクールソーシャルワークに必要な知識や技術を演習形式で学びます。

②スクールソーシャルワーク実習指導（Ⅰ・Ⅱ）（4年次：2単位（各1単位））

配属先に関する事前学習および実習計画書の作成と実習のまとめを行います。

③スクールソーシャルワーク実習（4年次：2単位）

大学が指定する学校や施設で、合計80時間以上の実習を行います。実習中はスクールソーシャルワーカーや学校の教員、実習施設職員・指導者や大学教員の指導を受けます。実習は、6月～10月の間で特定の曜日の通い型、また集中型などの組み合わせで行われます。

5. 認定のための要件と必須科目

スクールソーシャルワーク教育課程認定のためには、社会福祉士受験資格取得予定学生であること、上記のスクールソーシャルワーク実習科目に加えて、「スクールソーシャルワーク」「児童福祉論」「精神保健学」と教育関連科目群から以下の履修が必要です。

「スクールソーシャルワーク（2単位）」必修

「児童福祉論（2単位）」必修

「精神保健学（2単位）」必修

「教育の制度・経営（2単位）」必修

+

「教育心理学（2単位）*」「教育相談（2単位）」「生徒・進路指導論（2単位）」の中から1科目以上
選択必修

*教職課程における「教育心理学」です。（2020年度 秋学期 金曜日4、5時限目開講）

6. 履修要件

①先行履修科目

「児童福祉論」「スクールソーシャルワーク」

「精神保健学」「教育の制度・経営」

下記ソーシャルワーク実習関連科目

ソーシャルワーク演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ

ソーシャルワーク実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

ソーシャルワーク実習

②履修推奨科目

「教育学」「学校心理学」

7. 費用

スクールソーシャルワークの実習費としては、2万円を予定しています（3年次のソーシャルワーク実習の費用4万円と併せて、全部で6万円かかります）。実習費は、ソーシャルワーク実習費用は3年次の4月に、スクールソーシャルワーク実習費用は4年次の4月に、それぞれ納入してください。

8. 選抜

定員を超えた場合は、志望動機や面接等によって選抜を行います。

■■実習指導室について■■

現代福祉学部では、実習を中心として相談・指導を行う実習指導室があります。

実習ボランティアなどに関して、疑問や質問がある時や情報収集をしたい時は、気軽に実習指導室を利用してください。

実習指導室では、次のようなことを行っています。

- ◇ 実習に関する相談
- ◇ ボランティアに関する相談、情報提供
- ◇ 近隣ボランティアセンターの情報提供
- ◇ 実習に関わる情報の提供（書籍、資料など）
- ◇ 社会福祉士・精神保健福祉士・国家資格・国家試験関連情報の提供
- ◇ 臨床心理士資格指定大学院関連情報の提供（書籍、資料など）
- ◇ 各種 VTR 教材閲覧

実習指導室からの連絡や、ボランティア情報などについて、現代福祉学部棟2階掲示板、および実習指導室の窓ガラスを活用して皆さんにお伝えしています。

開室時間 10:00～17:00 (月～金)

※夏季休暇、冬季休暇、春季休暇中は変更がありますので、掲示に注意してください。

(5) 認定課外実習

「認定課外実習」は、広義の福祉に関連する以下の公的資格をみなさんが自主的に学習し、成果をあげた場合、それを単位として認定します。「認定課外実習」で認定する資格は次の6種です。

1. 資格
介護職員初任者研修課程
障害者ホームヘルパー 2級
臨床美術士 4級
社会保険労務士
福祉住環境コーディネーター 2級
保育士

2. 認定要件

上記の資格を取得した学生が単位申請した場合、「認定課外実習」として2単位を認定します。申請にあたっては、2020年4月から9月末日までに取得した場合は、秋学期授業開始後の所定の期間内に現代福祉学部事務課に所定の書類を添付のうえ申請を行ってください。また、2020年10月から2021年3月末日までに取得した場合は、次の学年度初め(2021年4月)の所定の期間内に申請を行ってください。

3. 取得制限

在学中に取得できる「認定課外実習」は前述の資格の中から1種類2単位です。なお、「認定課外実習」は、演習・実習科目と重複して履修ができます。また、下記の「スタディ・アブロード」とも重複して履修ができます。

注意

(1) ここで認定された単位は、進級要件並びに卒業要件第4条で定められている「第4年次においては、4単位以上修得しなければならない」の4単位には含まれません。

(2) 認定課外実習の単位認定を申請し、認定された単位(2単位)は認定された年度の修得単位とし、次年度の履修登録の際に調整することになります。従って、2019年度に単位認定された場合は2020年度の履修登録の際に調整し、2020年度内に単位認定された場合は2021年度に調整します。

下記に例を示しますので、履修登録の単位数に注意してください。

(6) スタディ・アブロード

法政大学の留学制度(法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度)で、海外留学をした学生が、成果をあげた場合、「スタディ・アブロード」の単位として認定します。認定要件は次のとおりです。

1. 認定要件

法政大学の留学制度（法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度）で、海外留学をした学生が「1年間、海外の大学で勉強してきたことを証明する書類」を現代福祉学部事務課に提出し、現代福祉学部教授会で審査の結果、認められた場合に2単位認定します。申請は帰国後速やかに提出することとします。

2. 取得制限

在学中に取得できる「スタディ・アブロード」は2単位です。なお、「スタディ・アブロード」は、「ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習」「コミュニティスタディ実習」のいずれか1つと重複して履修ができません。また、「認定課外実習」とも重複して履修ができません。

法政大学の留学制度については、「IV. 研修・海外留学・英語プログラム」を参照してください。

3. 自由科目

以下の科目を単位修得した場合、自由科目群にて単位認定されます。卒業所要単位として認定される単位数の上限は4年間で20単位です。20単位を超えて履修をすることもできますが、卒業所要単位としては認定されないの注意してください。以上のことを踏まえ、計画的に履修をしましょう。

(1) 他学部公開科目について

公開科目とは市ヶ谷キャンパスを含む他学部の公開科目を履修できる制度です。

履修年次：2～4年次

履修上限：各年次8単位、ただし修得上限は合計で上限20単位以内

登録方法：履修登録の所定期間内にWebから登録をしてください。なお同じ曜日に複数キャンパスで科目を履修する場合は以下の点に注意してください。

- ・キャンパス間を移動する時間が必要なため、連続した時限で履修登録することはできません。
- ・定期試験の実施時限は授業時限と異なる場合があることからキャンパス間の移動が困難になる場合があります。そのため、シラバス等で定期試験の有無を必ず確認してください。
- ・履修を希望する場合は、必ず所属学部窓口にて相談してください

その他注意事項：「公開科目」のシラバスを確認のうえ履修してください。また、試験時間割を含む連絡事項等は公開している学部の掲示板で確認してください。

(2) 短期語学研修

グローバル教育センター主催の語学研修です。研修は夏期、春期に行われます。研修の募集、申し込み、内容の詳細については136頁を確認してください。

認定単位：1つの語学圏につき2単位（言語圏が異なる場合は重複履修可）

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせて20単位以内

登録方法及び単位認定：プログラム参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、事務課にて履修登録の申請手続きを行ってください。Webでの履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。詳細は履修の手引き136頁を確認してください。

(3) 国際ボランティア、国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催するプログラムです。プログラムの紹介については137頁を確認してください。

認定単位：国際ボランティア、国際インターンシップそれぞれ1単位

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせて20単位以内

登録方法：参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、事務課にて履修登録の申請手続きを行ってください。Webでの履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。詳細は履修の手引き137頁を確認してください。

(4) グローバル・オープン科目

グローバル教育センターが主催するプログラムです。プログラムの紹介については138～142頁を確認してください。

履修年次：科目によって異なります。確認をしたうえで履修してください。

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせ20単位以内

登録方法：他の科目と同じように所定の期間内にWebより履修登録してください。なお履修にあたっては履修の手引き139頁の注意事項を確認してください。

(5) 成績優秀者科目履修

本学部では成績優秀者に対して、特定の学部の授業を履修することができる「成績優秀者の他学部科目履修制度」を導入しています。

履修年次：2年次以上（対象となる学生には現代福祉学部事務課より連絡します。）

要件：成績優秀者の選定は各学年で前年度の成績（単年度GPA）により教授会にて決定します。ただし、対象となる成績優秀者が上位5%を超える場合は、GPA順に上位5%までとします。

履修上限：年間4科目以内かつ8単位以内。

単位認定：専門教育科目「自由科目」において他のものと合わせ20単位以内

登録方法：事務課で成績優秀者科目履修の「履修の手引き」を受け取り、所定の期限内に申請書を提出すること。

備考：年間履修登録単位上限には含まれません。

単位認定一覧

	他学部公開科目	成績優秀者の他学部科目履修	短期語学研修	国際ボランティア	国際インターンシップ	グローバル・オープン科目	ERP
認定先	自由科目（自由科目は20単位まで卒業単位として認定）						
単位数	科目により異なる	科目により異なる	2	1	1	科目により異なる	科目により異なる
履修年次	2年次～	2年次～ (対象学生のみ)	1年次～	1年次～	1年次～	科目により異なる	1年次～
卒業所要単位として認定する(GPAに算入される)	○	○	○	○	○	○	○
履修上限	各年次8単位	年間4単位、卒業まで8単位 ※年間履修の上限単位数に含まれない	—	—	—	—	年間8単位、卒業まで16単位
	課題解決型フィールドワーク for SDGs	ESOP	語学単位認定	認定課外実習	スタディ・アブロード	教職	資格課程科目
認定先	自由科目	視野形成科目	言語コミュニケーション科目	演習・実習科目		教職科目	資格課程科目
単位数	科目により異なる	科目により異なる	4または8	2	2	科目により異なる	科目により異なる
履修年次	1年次～	1年次～	1年次～ (指定期間に申請)	1年次～ (指定期間に申請)	1年次～ (帰国後、申請)	1年次～	1年次～ (秋の履修登録変更不可)
卒業所要単位として認定する(GPAに算入される)	○	○	○	○	○	×	×
履修上限	—	各年次8単位	8単位	2単位 ※次年度、年間履修上限単位数が減る	2単位	※年間履修の上限単位数に含まれない	

4. 各学年での履修

各学年での標準的な履修方法を示しておきます。もちろん独自の学習計画を立てて、自由に講義を履修しても構いませんが、以下に示す留意事項と進級規程をよく読んで、誤りがないよう注意してください。

(1) 1年次

1年次のカリキュラムのねらいは大学生としてふさわしい学習の方法と基礎的学力を身につけることです。講義内容をよく読み、必修科目を含めて、年間制限単位数（48単位）の範囲内で、履修科目を検討します。大雑把に言えば、1年次では総合教育科目と専門基礎科目、専門基幹科目を中心に履修するという形になるでしょう。なおクラスが指定されている授業や受講者数が制限されるクラスもありますので注意してください。

①言語コミュニケーション科目の「英語1・3」「中国語1A・1B・2A・2B」、視野形成科目の「スポーツ総合（I・II）」、学部共通科目の「基礎演習（I・II）」は各自の所属クラス毎に授業が指定されています。また、言語コミュニケーション科目の「英語2・4・5」は各自の習熟度別に授業が指定されています。学部掲示板を確認して、指定されたクラスを履修します。言語コミュニケーション科目については、言語コミュニケーション科目として選択した外国語による「国際コミュニケーション」を、指定されたクラス授業の代わりにすることもできます。なお、「国際コミュニケーション」は受講定員が設けられています。受講前に行う抽選に必ず参加してください。

なお、留学生入試入学者は、1年次に「日本語1A・1B・2A・2B」と英語2単位（「英語1・3」もしくは「英語2・4」）を履修してください。

②総合教育科目の内、「基礎演習（I・II）」は必修科目です。必ず全員履修してください。（2016年度以前の入学者は「スポーツ総合（I・II）」も必修科目です。）

③専門基礎科目としておかれている「地域問題入門」「まちづくりの思想」「地域の歴史と文化」「社会問題論」「社会福祉概論」「ソーシャルワークI（相談援助の基盤と専門職）」は、6科目中4科目が選択必修科目です。4科目以上を必ず全員履修してください。

④1年次に配当されている科目の中から興味ある科目を選択します。「コンピュータ入門I」「コンピュータ入門II」「国際コミュニケーション」など受講者数が制限されている科目もあります（年度初めの抽選で受講者を決定）。どの科目を受講する場合も、4月のガイダンスおよび抽選に参加したうえで初回の授業に必ず出席し、担当教員の指示に従ってください。

⑤「フィールドスタディ入門」は必修科目ではありませんが、各種実習の先行履修科目に指定されており、また、みなさんが今後の進路や学習の方向性を考えるにあたって参考になる授業なので、履修することを強くお勧めします。

(2) 2年次

2年次では各自の専門分野に対する認識を深め、基礎固めをすることを目的とします。つまり、2年次では専門基幹科目、専門展開科目を中心に履修します。2年次に配当されている科目の中から興味ある科目を選択し、問題意識に応じて、系統的に履修することを心がけてください。

①言語コミュニケーション科目の「英語6・9」は習熟度別にクラスが指定されています。学部掲示板を確認して、指定されたクラスを履修します。「国際コミュニケーション」をこれらのクラスの代わりにすることもできます。英語を選択した場合、「英語7・8」は特に強化したいスキルのクラスを選択します。「英語7・8」と「国際コミュニケーション」は受講定員が設けられています。受講前に行う抽選に必ず申請してください。

なお、留学生入試入学者は、2年次に「日本語3A・3B」と英語2単位（「英語7・8」）を履修してください。

②専門基幹科目10科目中、5科目が選択必修です。5科目以上を必ず全員履修してください。

③2年次から「専門演習IA・IB」が始まります。2017年度入学者は必修科目ですので、必ず履修してください。各自の専門分野に対する認識を深めるためにも必要ですから、2014～2016年度入学者もなるべく履修するようにしてください。留学・就職、大学院進学に対応した英語力の向上には「英語専門演習IA・IB」（専門演習と同時履修が可能）が有益です。専門演習、英語専門演習はそれぞれの教員の専門分野に即して開講され、少人数での討論を通して学習を深めるもので、大学での学習の柱となる科目です。充実した学生生活を送るためにも、積極的に参加してください。

④3年次で「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、「基礎演習（I・II）」、「フィールドスタディ入門」、「ソーシャルワークI（相談援助の基盤と専門職）」「ソーシャルワークII（理論）」「ソーシャルワークIII（方法）」「ソーシャルワーク演習I」「ソーシャルワーク実習指導I」を原則、2年次終了までに先行して履修済み（単位修得済み）であることが条件です。実習の説明箇所（71頁以降）をよく読み確認しておいてください。

⑤3年次で「コミュニティスタディ実習」を履修するためには、2年次終了までに、指定された科目を先行して履修済み（単位修得済み）であることが条件です。実習の説明箇所（74頁以降）をよく読み確認しておいてください。

(3) 3年次

3年次では、特に学習したい領域を確立させて、専門展開科目を中心に学習を進めていきます。講義科目に加えて、専門演習や各種実習を組み合わせることで、学習成果を一層深めていくのが3年次の目標です。個人の関心とテーマに従って、目的に適した科目選択を工夫してください。

①3年次から4年次への進級規程には、科目群および授業科目について、細かく規程されています。進級規程（22頁以降）をよく読んで、間違いのないよう十分、気をつけてください。

- ②言語コミュニケーション科目の「英語10」は春学期に履修してください。
- ③3年次で「ソーシャルワーク実習」を履修するためには、「ソーシャルワーク演習Ⅱ～Ⅴ」、「ソーシャルワーク実習」、「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」の7科目全てを履修登録する必要があります。
- ④3年次で「コミュニティスタディ実習」を履修するためには、「コミュニティスタディ実習」「コミュニティスタディ実習指導（Ⅰ・Ⅱ）」を履修登録する必要があります。
- ⑤4年次で「精神保健ソーシャルワーク実習」を履修するためには、「ソーシャルワーク実習」「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ～Ⅲ」「ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ」「精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」「精神保健福祉論Ⅰ・Ⅱ」「精神医学」を3年次終了までに先行して履修済み（単位修得済み）で、かつ、「精神保健学」「精神科リハビリテーション学」「精神保健ソーシャルワークⅠ」「精神保健ソーシャルワークⅡ」の4科目中、1科目以上を3年次終了までに先行して履修済み（単位修得済み）であることが条件です。その上で、4年次で「精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ」「精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ」「精神保健ソーシャルワーク実習」「精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ・Ⅲ」（2014年度以前入学者はⅠ・Ⅱ）」の全てを履修登録する必要があります。
- ⑥「スクールソーシャルワーク実習」は、3年次のソーシャルワーク実習（児童福祉領域）＋4年次のスクールソーシャルワーク実習の2年間によって構成されます。履修を希望する場合は、2年次の実習選択の際にスクールソーシャルワーク実習クラスを選択することが必要です。
実習の説明箇所（78頁以降）をよく読み確認しておいてください。

（4）4年次

4年次では、3年次までに選択した専門領域やテーマをさらに深く探求し、大学での学習の仕上げを行うことが期待されます。社会福祉士・精神保健福祉士を目指す人は、それらの国家試験に備えて集中的に学習することが大切です。

- ①「卒業論文」は、専門演習を通じて学んだことを中心に、所定の期日までに卒業論文を提出することになります。提出先、提出日等の詳細は、掲示で確認してください。
- ②4年次で履修登録した科目を含めて、卒業に必要な単位数（条件）はすべて満たしていることを確認してください。
- ③社会福祉士・精神保健福祉士などの国家試験の受験を考えている人は、受験資格を取得するための指定科目の履修が完了していることを確認してください。
- ④福祉の臨床現場に就職を考えている人は、「精神保健ソーシャルワーク演習・実習・実習指導」「スクールソーシャルワーク演習・実習・実習指導」を履修することにより実践的なスキルや知識を修得することを推奨します。

(5) 研究活動の不正行為について（卒業論文の作成など）

科学は、信頼を基盤として成り立っています。

しかし、残念なことに、データ捏造・改ざんなどの研究不正行為や研究費の不正使用が生じており、報道でもとりあげられています。このままでは、科学に対する信頼が揺らぎかねません。

このような背景から、研究者だけではなく、学生にも研究者倫理に関する知識及び技術を身に付けることが求められています。

※「試験等における不正行為の処分基準」の(2)論文(卒業論文を含む)、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為の不正行為様態にも、盗用に当たる剽窃(ひょうせつ)行為、悪質な剽窃(ひょうせつ)行為、その他の不正行為としてデータの捏造や改竄が処分を受ける行為として定められています。

代表的な不正行為

(文部科学省が定める「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」において、以下が代表的な不正行為とされています。)

捏造 (Fabrication)

存在しないデータ、研究結果等を作成すること

改ざん (Falsification)

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

盗用 (Plagiarism)

他の研究者のアイディア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること

本学では「研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」をはじめとする様々な規程やルールを定め、研究活動における不正行為の防止に取り組んでいます。研究活動における不正行為を認識し、研究倫理教育を学習することで、研究者倫理に関する規範意識を身につけてください。

【参考】

- ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」

(平成26年8月26日 文部科学大臣決定)

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf

- ・「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」

(独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」 編集委員会)

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>

お問い合わせ先 法政大学研究開発センター suisin@adm.hosei.ac.jp

臨床心理学科

※SS I（スポーツ・サイエンス・インスティテュート）コースの学生は、SS Iコースの学生向けの手引き（学務部学部事務課SS I担当（市ヶ谷）発行）も併せて参照してください。

1. カリキュラム

現代福祉学部では、社会福祉・臨床心理・地域づくりをキーコンセプトに、政策科学と臨床科学を統合したフィールドワーク重視のカリキュラムを構成しています。そのため、臨床心理学科では、伝統的な臨床心理学を系統的に学ぶ機会を保障するとともに、社会福祉やコミュニティづくりの基礎的な科目も修得できるように配慮されています。その上で、臨床心理実習や専門演習を通して、確かな知識に基づいた幅広い視野と問題解決能力を身につけていくための機会を提供します。

地域の環境や制度、人びとの生活や福祉サービスを視野に入れつつ、こころの問題にかかわる専門的な知識を学ぶことができるのは、福祉系学部の中にある臨床心理学科ならではの特色になっています。

【基本構造】

カリキュラムは、大別すると総合教育科目と専門教育科目という2つの部分から構成されています。1年次から専門教育科目の段階的な履修が可能であると同時に、4年間を通して総合教育科目の履修が可能で、教養的関心の成長に柔軟に対応できるようになっています。すべて必修である専門基礎科目と選択必修である専門基幹科目は、社会福祉や地域づくりの制度や政策、組織運営に関連した基本的科目と社会福祉・心理の臨床系の基本的科目から構成されています。どのような分野に進むにせよ、まずこれらの専門基礎・専門基幹科目を幅広く学ぶ必要があります。みなさんの興味関心を発見する手助けとして、学外の専門家を招聘して、毎回リレー式で講義してもらう「フィールドスタディ入門」が用意されています。

専門の基礎・基幹科目を履修した上で、より専門的な専門展開科目を学習します。臨床心理学科では、精神保健・福祉分野、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野を総合的に学習することによって、福祉的な視野をもった臨床心理的援助を学べるようになっていきます。また学生の興味関心に応じて福祉コミュニティ学科の専門展開科目も履修できるよう配慮しています。専門科目に対応する形で「臨床心理実習」を3年次に履修し、フィールド体験を深めることで学習を一層効果的にします。

(1) 総合教育科目

総合教育科目は、専門領域を超えて人間的・社会的・文化的な諸価値を学んで人間性の涵養を図るとともに、将来、社会の中で生きていくために必要な基礎的な学力や体力、技能の修得をめざします。

総合教育科目は学部共通科目、言語コミュニケーション科目、視野形成科目、情報・調査系科目に分かれています。学部共通科目の「基礎演習（I・II）」4単位、言語コミュニケーション科目から1カ国語を選択して10単位以上が必修であり、合計30単位を卒業までに総合教育科目から修得する必要があります。（2016年度以前の入学者は「スポーツ総合（I・II）」も必修科目です。）

総合教育科目一覧

分類	授業科目の名称	配当年次	単位数	備考
学部共通科目	基礎演習	1	4	必修(2014年度入学者)
	基礎演習Ⅰ	1	2	必修(2015年度以降入学者)
	基礎演習Ⅱ	1	2	必修(2015年度以降入学者)
	フィールドスタディ入門	1	2	
	キャリアデザイン論	1・2・3・4	2	
	多摩地域形成論	1・2・3・4	2	
	言語コミュニケーション科目(10単位必修)	英語1	1	1
英語2		1	1	
英語3		1	1	
英語4		1	1	
英語5		1	1	
英語6		2	1	
英語7		2	1	
英語8		2	1	
英語9		2	1	
英語10		3	1	
中国語1A		1	1	
中国語1B		1	1	
中国語2A		1	1	
中国語2B		1	1	
中国語3A		2	1	
中国語3B		2	1	
中国語4A		2	1	休講
中国語4B		2	1	休講
中国語5A		2	1	休講
中国語5B		2	1	休講
日本語1A		1	1	外国人留学生のみ対象
日本語1B		1	1	
日本語2A		1	1	
日本語2B		1	1	
日本語3A		2	1	
日本語3B		2	1	
国際コミュニケーション(英語1A)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(英語1B)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(英語2A)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(英語2B)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(英語3A)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(英語3B)		1・2・3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語1A)		2・3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語1B)		2・3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語2A)		3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語2B)		3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語3A)		3・4	1	
国際コミュニケーション(中国語3B)		3・4	1	
インテンシヴ・イングリッシュ1		1	1	
インテンシヴ・イングリッシュ2		1	1	
インテンシヴ・イングリッシュ3	1	1		
インテンシヴ・イングリッシュ4	1	1		
インテンシヴ・イングリッシュ5	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ6	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ7	2	1		
インテンシヴ・イングリッシュ8	2	1		

分類	授業科目の名称		配当年次	単位数	備考	
視野形成科目	人文系	文学	1・2・3・4	2		
		創作表現論	1・2・3・4	2		
		文化人類学	1・2・3・4	2		
		哲学Ⅰ	1・2・3・4	2		
		哲学Ⅱ	1・2・3・4	2		
		日本人の心理特性と文化	1・2・3・4	2		
		環境倫理	2・3・4	2		
		生命倫理	1・2・3・4	2		
		ホスピタリティ論	1・2・3・4	2		
		教育学	1・2・3・4	2		
		生涯学習論Ⅰ	2・3・4	2		
		生涯学習論Ⅱ	2・3・4	2		
		社会系	社会福祉概論	1・2・3・4	2	
			地域福祉論	1・2・3・4	2	
	まちづくりの思想		1・2・3・4	2		
	ボランティアアクション		1・2・3・4	2		
	法学		1・2・3・4	2		
	日本国憲法		1・2・3・4	2		
	民法Ⅰ		2・3・4	2		
	民法Ⅱ		2・3・4	2		
	行政法Ⅰ		2・3・4	2		
	行政法Ⅱ		2・3・4	2		
	政治学		1・2・3・4	2		
	経営学		1・2・3・4	2		
	経済学		1・2・3・4	2		
	財政学Ⅰ		2・3・4	2		
	財政学Ⅱ		2・3・4	2		
	社会学		1・2・3・4	2		
	社会学特講		2・3・4	2		
	社会学理論		2・3・4	2		
	社会思想史		1・2・3・4	2		
	社会システム論		2・3・4	2		
	コミュニケーション論Ⅰ		2・3・4	2		
	老年学		1・2・3・4	2		
	職業社会論	2・3・4	2			
	企業と労働	1・2・3・4	2			
現代福祉特講（国際地域開発）	2・3・4	2				
女性学	1・2・3・4	2				
Community Based Inclusive Development	2・3・4	2				
Disability and Development in Asia	2・3・4	2				
自然・スポーツ系（単位必修）	医学概論	1・2・3・4	2			
	リハビリテーション概論	1・2・3・4	2			
	生命の科学Ⅰ	1・2・3・4	2			
	生命の科学Ⅱ	1・2・3・4	2			
	自然環境論Ⅰ	1・2・3・4	2			
	自然環境論Ⅱ	1・2・3・4	2			
	基礎数学Ⅰ	1・2・3・4	2			
	基礎数学Ⅱ	1・2・3・4	2			
	ヘルスプロモーション	1・2・3・4	2			
	スポーツ総合	1	2	必修(2014年度入学者)		
	スポーツ総合Ⅰ	1	1	必修(2015～2016年度入学者)		
	スポーツ総合Ⅱ	1	1	必修(2015～2016年度入学者)		
	スポーツ種目Ⅰ	2・3・4	1			
	スポーツ種目Ⅱ	2・3・4	1			
情報・調査系科目（4単位必修）	コンピュータ入門Ⅰ	1・2・3・4	2			
	コンピュータ入門Ⅱ	1・2・3・4	2			
	コンピュータ応用（ビジネススキル）	1・2・3・4	2			
	心理データ解析Ⅰ	2・3・4	2	必修		
	心理データ解析Ⅱ	2・3・4	2	必修		
	WEBデザイン	1・2・3・4	2			
	統計学	1・2・3・4	2			

a. 学部共通科目

■基礎演習

「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」は少人数の演習形式で行われ、学部の3領域の概要について学ぶとともに、大学における学習の方法や技術を習得するための授業で、卒業に必要な必修科目です。また、3年次に臨床心理実習を履修するための先行履修科目でもあり、さらには、4年間の大学生活を送るために重要な人間関係づくりの基礎ともなる科目ですので、1年次に必ず履修し、積極的に取り組んでもらいたい科目です。

■フィールドスタディ入門

「フィールドスタディ入門」は、臨床心理実習の先行履修科目です。この講義では、「臨床心理」「福祉」「地域づくり」の現場で活躍している専門家をたくさん招いて、講演していただきます。みなさんの進路選択を考える際に参考になる講義なので、必修科目ではありませんが、1年次に積極的に履修してほしい科目です。

■キャリアデザイン論

多摩キャンパスでは、「学問」の学び方や、社会とどう関わり、どんな視点で就職を考えるかといった、キャリアをデザインするための科目「キャリアデザイン論」が4学部共通科目として設置されています。

大学生活、そして将来を自分らしくデザインしてゆくためにも、是非1～2年次に履修することをお奨めします。

b. 言語コミュニケーション科目

外国語に関する言語教育にはいくつかの目的と役割がありますが、とくに次の点に力を入れた外国語教育を行います。①文章を正確に読解する力を高め、それを通じて異文化に対する理解を深める。②相手の言っていることを理解し、言語による意思伝達能力を向上させ、国際的なコミュニケーションをはかることができる能力を習得する。③国際的なインターネット時代の到来のなかで、様々な情報を受信・発信する能力を習得する。

現代福祉学部では、英語・中国語のいずれかを選択し、卒業までに10単位以上を修得する必要があります。

<外国人留学生>

外国人留学生入試入学者は、日本語6単位+英語4単位の計10単位を修得する必要があります。以下の表に従って、言語コミュニケーション科目を履修してください。

1年次	2年次
日本語4科目(1A・1B・2A・2B) 及び 英語2科目(「英語1・3」または「英語2・4」)	日本語2科目(3A・3B) 及び 英語2科目(「英語7・8」)
計 6単位	計 4単位

※外国語の履修方法については、別途「留学生ガイダンス」での指示に従うこと。

※「英語1・3」「2・4」はいずれかを選択し、指定されたクラスで授業を受けること。

※「英語7・8」は、「Web抽選」に必ず申請すること。

①英語

「英語1」「英語2」「英語3」「英語4」「英語5」は、1年次配当の科目で、指定されたクラスで受講します。「英語6」「英語7」「英語8」「英語9」は、2年次配当科目です。「英語10」は3年次配当科目です。

全て半期授業で1単位となります。学習内容のIよりもII、IIよりもIIIのほうが高度な内容のものを勉強することになります。

「英語2」「英語4」「英語5」「英語6」「英語9」は習熟度別クラス編成になっています。

「英語7」「英語8」のスキル強化英語は、学生が自分の希望で選べるクラスです。「英語10」は内容別選択英語で、各自が興味のある内容を選択します。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

1年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 1	1 (クラス指定)	読解 I
英語 2	1 (クラス指定)	コミュニケーション・イングリッシュ I
英語 3	1 (クラス指定)	読解 II
英語 4	1 (クラス指定)	コミュニケーション・イングリッシュ II
英語 5	1 (クラス指定)	ライティング・グラマー I

「英語 2」「英語 4」「英語 5」は、4月のガイダンス期間に行う TOEIC®L&R 試験のスコアによりクラス編成が行われます。習熟度別クラス編成は「上級」「中級」「基礎」の3段階になっており、それぞれのクラスは4月初めに発表され、習熟度別に指定されたクラスで受講します。「上級」「中級」「基礎」の A 及び S 評価の割合は異なっています。自分の能力に合わせたクラスで勉学に励むようにしてください。

2年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 6	2 (クラス指定)	リスニング・コンプリヘンション II
英語 7	2 (クラス選択) (抽選を行う)	スキル強化英語 I、リーディング (読解)、 リスニング (聞きとり)、ライティング (作文)、 スピーキング (会話・口頭表現)
英語 8	2 (クラス選択) (抽選を行う)	スキル強化英語 II、リーディング (読解)、 リスニング (聞きとり)、ライティング (作文)、 スピーキング (会話・口頭表現)
英語 9	2 (クラス指定)	読解 III

「英語 6」に関しては、1年次の秋学期に全員が受ける TOEIC®L&R 試験のスコアでクラス編成が行われます。

「英語 7」「英語 8」は「スキル強化英語」として2年次に配当されている科目で、スキル (技能) 別クラス編成を採用しています。①リーディング (読解)、②リスニング (聞きとり)、③ライティング (作文)、④スピーキング (会話・口頭表現) のスキルについて、各クラスで学習します。特定のスキルを特化する学習を通じて、各自の得意なスキルを伸ばしたり、弱点を補強することができます。リーディング、リスニング、ライティング、スピーキングの4つのスキルのうちから、特に強化したいスキルや興味のあるスキルを各自が選択するクラスです。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

「英語 9」は、「英語 1」「英語 3」の成績と、1年次の秋学期に全員が受ける TOEIC®L&R 試験のスコアを配慮してクラスを編成することになっています。

3年次配当

科目名称	配当年次	学習内容
英語 10	3 (クラス選択) (抽選を行う)	内容別選択英語

「英語 10」は、勉強する内容がクラスによって異なりますので、内容別に学生が選択する授業です。ただし、人数が多い場合は抽選となります。

なお、留学生入試入学者は、1年次に英語 2 単位を、「英語 1 と 3」もしくは「英語 2 と 4」のいずれかを選択して履修します。併せて、2年次には「英語 7 と 8」を履修します。

②中国語

中国語は、多くの受講生にとって初めて学ぶ言語のほうです。1年次には初級文法と発音を中心とした勉強を行い、やさしい会話も習得します。2年次には、読解力と簡単な聞き取り能力を身に付けることに力を入れ、中級から応用の学習に移行します。

「中国語 1 A」「中国語 1 B」「中国語 2 A」「中国語 2 B」は1年次配当の科目で、「中国語 3 A」「中国語 3 B」「中国語 4 A」「中国語 4 B」「中国語 5 A」「中国語 5 B」は2年次配当の科目です。半期授業で各1単位となります。Aは春学期授業、Bは秋学期授業のことで、秋学期授業は、春学期授業より高度な勉強をすることになります。

科目名称	配当年次	学習内容
中国語 1 A・1 B	1	入門（発音と会話）
中国語 2 A・2 B	1	入門（基本文法、発音と会話）
中国語 3 A・3 B	2	講読
中国語 4 A・4 B	2	会話と作文
中国語 5 A・5 B	2	聞き取りと自己表現

③国際コミュニケーション

国際コミュニケーションは1 A・B～3 A・Bネイティブスピーカーが担当するクラスです。

言語コミュニケーション科目として選択した「国際コミュニケーション」を履修する場合、言語コミュニケーション科目として6単位まで卒業所要単位に算入されます。

「国際コミュニケーション」は受講者数に制限が設けられています。第1回目の授業には必ず出席して担当教員の指示に従ってください。

英語の「国際コミュニケーション」は全てTOEICの勉強で、「国際コミュニケーション1 A」「国際コミュニケーション1 B」「国際コミュニケーション2 A」「国際コミュニケーション2 B」「国際コミュニケーション3 A」「国際コミュニケーション3 B」があり、半期授業で各1単位です。春学期授業と秋学期授業は、なるべく同じ担当教員の「国際コミュニケーション」を履修したほうが、勉強の継続性があります。

国際コミュニケーションに付された「1」「2」「3」は難易度を示すもので「基礎」「中級」「上級」のことです。

中国語による国際コミュニケーションに付された「1」「2」「3」は難易度を示すものであり、「1」から順に履修することが望まれます。「1」は中級、「2」「3」は上級です。また、同じ科目のAとBは、それぞれ同一年度にセットで履修するようにしてください。

(例)「国際コミュニケーション(中国語1 A)」と「国際コミュニケーション(中国語1 B)」は同一年度に履修する。

また、「国際コミュニケーション(中国語1 B)」は「国際コミュニケーション(中国語1 A)」を履修した後で履修してください。もし「国際コミュニケーション(中国語1 A)」を修得できなかった場合は、「国際コミュニケーション(中国語1 B)」を履修することができません。その場合、秋学期に履修登録していた科目は削除されますが、期間内に所定の手続きをすれば、秋学期に開講している不合格科目と同名の科目に限り、履修することができます(履修登録の変更)。詳細は秋学期開始時の掲示を確認してください。

いずれの外国語を選んだ場合にも、積極的に外国文化を吸収するように努力することが大切です。キャンパス内にある CALL 教室や図書館などを活用して言語や文化を吸収するように心がけてください。

国際コミュニケーション英語

内 容	目安とするTOEIC®L&R スコア
国際コミュニケーション英1 A・1 B	スコア目安 　～395
国際コミュニケーション英2 A・2 B	スコア目安 　400～545
国際コミュニケーション英3 A・3 B	スコア目安 　550～

④インテンシヴ・イングリッシュ

「インテンシヴ・イングリッシュ」は、大学卒業後、国連の機関への就職や国際的な仕事を行う職業につくことを目指す学生を対象とした授業です。授業の短期的な目標としては、留学するために必要な IELTS 試験の点数をアップし、IELTS (Academic module) band6.0 以上を目指し、数値で学習効果をはっきり分かるようにする授業です。

受講方法

①1年次

授業の目的が「留学できる英語能力の習得」ということですので、誰でも受講できる授業ではありません。新入生全員が受験する4月の TOEIC®L&R 試験において、上位20名程度で1クラスを編成することになります。

②2年次以上で希望する場合

2020年度にインテンシヴ・イングリッシュの履修を希望する2年次以上の学生は、4月のガイダンス時に新入生に対して実施する TOEIC®L&R 試験を受験してください。試験のスコアにより、履修の可否を決定します。

授業は総合教育科目の言語コミュニケーション科目群に組み入れられており、100分半期授業で各1単位です。言語コミュニケーション科目の卒業所要単位となります。

講義

1年次と2年次で100分授業をそれぞれ週2回行います。ただし、1年次の授業（インテンシヴ・イングリッシュ1～4）は100分を2回に分け、1回50分授業を週2回行いますので、一週間に50分授業を4回行うこととなります。2年次の授業（インテンシヴ・イングリッシュ5～8）は100分授業です。

なお、

インテンシヴ・イングリッシュ1と2（春学期）、インテンシヴ・イングリッシュ3と4（秋学期）
インテンシヴ・イングリッシュ5と6（春学期）、インテンシヴ・イングリッシュ7と8（秋学期）
は、それぞれセットで同時に履修する必要があります。

インテンシヴ・イングリッシュ受講者の年間履修制限単位数については29頁で確認してください。

⑤語学検定試験成績による言語コミュニケーション科目の認定について

現代福祉学部では、実用英語技能検定試験（英検）、TOEFL®（公開テスト）、TOEIC®（公開テスト）、中国語検定のいずれかを受験し一定の成績を取得した学生について、下記のとおり言語コミュニケーション科目の単位認定を行い、卒業所要単位に算入します（申請時点で2年以上経過している成績では申請できません）。

<認定基準>

1. 英検1級、TOEFL® iBT 100点（PBT 600点）以上、TOEIC®（公開テスト）850点以上のいずれかを取得した者
→ 英語の卒業所要単位として、8単位を認定する。
2. 英検準1級、TOEFL® iBT 79点（PBT 550点）以上、TOEIC®（公開テスト）730点以上のいずれかを取得した者
→ 英語の卒業所要単位として、4単位を認定する。
3. 中国語検定（日本中国語検定協会）2級・3級取得者
→中国語の卒業所要単位として、2級取得者は8単位を認定する。
3級取得者は4単位を認定する。

注意 1. ここで認定された単位は、進級要件並びに卒業要件第4条で定められている「第4年次においては、4単位以上修得しなければならない」の4単位には含まれません。

2. 単位認定申請をする外国語の種類は、入学時に決定した各自の外国語の種類と一致していなければなりません。

3. 複数の級やスコアを取得し、各認定基準にそれぞれ申請した場合でも、言語コミュニケーション科目の卒業所要単位としての認定の上限は8単位です。

4. 各認定基準で申請できる回数は1回のみです。（複数のテストを受験しても1回しか申請できません。）

5. TOEFL®ITP や TOEIC®IP などの団体対象テストの成績を本制度の申請に利用することは出来ない。

<手続きの方法>

学期初めの所定の期間内（掲示で連絡）に、該当するテストの証明書を添えて現代福祉学部事務課まで申請してください。

c. 視野形成科目

視野形成科目は、現代社会に生きる大学生に必要な高度な教養と、専門領域を越える広い視野や見識を養うことを目的としています。視野形成科目には文化的な事柄にかかわる科目、社会的な事柄にかかわる科目、身体・心・自然にかかわる科目などが含まれています。いずれの科目も、より教養的なものから、専門領域への導入的な意味を持つものまで様々なものがあります。

①スポーツ総合

この系列に分類されている「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」は、スポーツ実践の総合的な学習を通じて、基礎体力の維持・向上、身体文化への関心の喚起を図ることを主な目的としています。2016年度以前入学者は1年次必修科目、2017年度入学者は選択科目ですが、教職課程では必修科目になりますので、注意し

てください。実技と講義をおりまぜて授業が行われます。

※体育会所属の学生は履修登録手続きが異なるため、現代福祉学部事務課にて確認して下さい。

②心理学

臨床心理学科では、もっとも基礎的な科目である「心理学」が必修科目となっています。「心理学」では、①心理学という学問の全体像を概観し、②心理学に関する基礎的な知識を獲得するとともに、③基礎から応用へと系統的に学ぶために必要となる心理学の各分野・科目の関連性や連続性について学習します。

③スポーツ種目

「スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ」は経済学部・社会学部が主催している科目で、各学部の受講者数に余裕がある場合、現代福祉学部生が受講することができます（抽選となる場合があります）。受講にあたっては1つの種目を選び、原則としてⅠ（春学期）・Ⅱ（秋学期）を同一年度にセットで受講することが望ましいです。

受講者の募集、申し込み方法等の詳細についてはガイダンス期間中に掲示で連絡します。

種目名（主催学部科目名）	現代福祉学部科目名
〈経済学部主催〉 スポーツ種目A・B（バレーボール） スポーツ種目A・B（サッカー・フットサル）	スポーツ種目Ⅰ・Ⅱ（種目名）
〈社会学部主催〉 スポーツ総合2-I・II（サッカー）	
スポーツ総合2-I・II（ヨガ）	
スポーツ総合2-I・II（バドミントン）	
スポーツ総合2-I・II（野球・ソフトボール）	
スポーツ総合2-I・II（太極拳）	
スポーツ総合2-I・II（テニス）	
スポーツ総合2-I・II（ユニバーサル・スポーツ）	

なお、「スポーツ種目Ⅰ」「スポーツ種目Ⅱ」を履修して単位を修得した場合でも、必修科目の「スポーツ総合（Ⅰ・Ⅱ）」に振替えることはできませんので注意してください。

d. 情報・調査系科目

高度情報化社会の今日、コンピュータを活用する技能は欠かせません。情報・調査系科目の中には、①コンピュータを利用した情報教育科目、②データ解析科目が配置されており、相互に関連づけて学習することができます。「コンピュータ入門Ⅰ・Ⅱ」は1年次に履修してください。

なお、「心理データ解析Ⅰ・Ⅱ」は必修科目であり、心理学および心理学実験に関する基礎的な知識が必要となりますので、1年次に同じく必修科目である「心理学」「心理学概論」「心理学基礎実験Ⅰ・Ⅱ」も必ず履修してください。

また、コンピュータ実習室を利用する授業科目については、受講者数の制限があります。これらの科目については、事前に抽選を行いますので注意してください。

(2) 専門教育科目

専門教育科目は専門基礎科目、専門基幹科目、専門展開科目、演習・実習科目に分かれており、高度な専門教育を、段階を踏んで系統立てて学習できるように配置しています。

専門基礎科目には心理学の基礎的な科目として、4科目8単位が必修です。専門基幹科目は、福祉コミュニティ学科および臨床心理学科の基礎的な科目から構成されています。両方の科目群にまたがって、全体で8科目16単位（内8単位必修）を選択必修としています。専門展開科目は、専門基礎・専門基幹科目を踏まえて、さらに専門的に学習を深め展開するための科目群です。

専門基礎科目の必修8単位、専門基幹科目の選択必修16単位を修得し、かつ、専門展開科目、演習・実習科目を含めた専門教育科目全体で80単位以上を卒業までに修得する必要があります。

専門教育科目一覧

分類	科目名称	配当年次	単位数	備考		
専門基礎科目 (8単位必修)	心理学	1・2・3・4	2	必修 必修 必修 必修 } 4科目すべてを修得する必要があります。		
	心理学概論	1・2・3・4	2			
	心理学基礎実験Ⅰ	1・2・3・4	2			
	心理学基礎実験Ⅱ	1・2・3・4	2			
専門基幹科目 (16単位選択必修)	必修科目	発達心理学	1・2・3・4	2	必修	
		臨床心理学Ⅰ	1・2・3・4	2		必修
		心理療法Ⅰ	1・2・3・4	2		
		心理検査法Ⅰ	2・3・4	2		
	選択必修科目	コミュニティ心理学Ⅰ	1・2・3・4	2	6科目中4科目以上を修得する必要があります。	
		精神医学	1・2・3・4	2		
		カウンセリング	1・2・3・4	2		
		地域問題入門	1・2・3・4	2		
		ソーシャルワークⅠ	1・2・3・4	2		
		社会問題論	1・2・3・4	2		
専門展開科目	臨床心理分野	臨床心理学Ⅱ	2・3・4	2		
		コミュニティ心理学Ⅱ	2・3・4	2		
		精神分析学	2・3・4	2		
		心理療法Ⅱ	2・3・4	2		
		児童精神医学	2・3・4	2		
		認知行動療法	2・3・4	2		
		心理検査法Ⅱ	2・3・4	2		
		投映法特論	2・3・4	2		
		人格心理学	2・3・4	2		
		グループアプローチ	2・3・4	2		
		家族心理学	2・3・4	2		
		芸術療法	2・3・4	2		
		高齢者心理学	2・3・4	2		
	障害者心理学	2・3・4	2			
	教育・社会心理分野	教育心理学	2・3・4	2		
		学校心理学	2・3・4	2		
		社会心理学Ⅰ	2・3・4	2		
		社会心理学Ⅱ	2・3・4	2		
		異文化心理学	2・3・4	2		
	認知・学習心理分野	心理測定法Ⅰ	2・3・4	2		
		心理測定法Ⅱ	2・3・4	2		
		精神生理学Ⅰ	2・3・4	2		
		精神生理学Ⅱ	2・3・4	2		
		認知心理学Ⅰ	2・3・4	2		
		認知心理学Ⅱ	2・3・4	2		
		学習心理学	2・3・4	2		

分類	科目名称	配当年次	単位数	備考	
専門展開科目	精神保健・福祉分野	ソーシャルワークⅡ（理論）	2・3・4	2	
		ソーシャルワークⅢ（方法）	2・3・4	2	
		セルフヘルプグループ	2・3・4	2	
		スクールソーシャルワーク	2・3・4	2	
		精神科リハビリテーション学	2・3・4	2	
		精神保健学	2・3・4	2	
		精神保健ソーシャルワークⅠ	2・3・4	2	
		精神保健ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2	
		精神保健福祉論Ⅰ	2・3・4	2	
		精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2	
		若者支援論	2・3・4	2	
		児童福祉論	2・3・4	2	
		家族福祉論	2・3・4	2	
		高齢者福祉論	2・3・4	2	
		障害者福祉論	2・3・4	2	
		女性福祉論	2・3・4	2	
死生観とソーシャルワーク	2・3・4	2			
(16単位必修) 演習・実習	臨床心理実習	3	2		
	臨床心理実習指導	3	2	(2014年度以前入学者)	
	臨床心理実習指導Ⅰ	3	1	(2015年度以降入学者)	
	臨床心理実習指導Ⅱ	3	1	(2015年度以降入学者)	
	専門演習Ⅰ	2	4	必修(2014年度以前入学者)	
	専門演習ⅠA	2	2	必修(2015年度以降入学者)	
	専門演習ⅠB	2	2	必修(2015年度以降入学者)	
	専門演習Ⅱ	3	4	必修(2014年度以前入学者)	
	専門演習ⅡA	3	2	必修(2015年度以降入学者)	
	専門演習ⅡB	3	2	必修(2015年度以降入学者)	
	専門演習Ⅲ	4	4	必修(2014年度以前入学者)	
	専門演習ⅢA	4	2	必修(2015年度以降入学者)	
	専門演習ⅢB	4	2	必修(2015年度以降入学者)	
	卒業論文	4	4	必修	
	英語専門演習Ⅰ	2・3・4	4	(2014年度以前入学者)	
	英語専門演習ⅠA	2・3・4	2	(2015年度以降入学者)	
英語専門演習ⅠB	2・3・4	2	(2015年度以降入学者)		
英語専門演習Ⅱ	3・4	4	(2014年度以前入学者)		
英語専門演習ⅡA	3・4	2	(2015年度以降入学者)		
英語専門演習ⅡB	3・4	2	(2015年度以降入学者)		

a. 専門基礎科目

専門基礎科目には心理学に専門教育への導入部として、4科目8単位が必修となっており、ここで幅広い領域を学んで将来の学習方向や進路を考えるための手がかりを提供します。

b. 専門基幹科目

専門基幹科目は、福祉コミュニティ学科および臨床心理学科の基礎的科目から構成されています。8科目16単位（内8単位必修）が選択必修となっています。

c. 専門展開科目

専門展開科目は、専門基礎・専門基幹科目を踏まえて、さらに専門的に学習を深め展開するための科目群です。臨床心理学科では、精神保健・福祉分野、臨床心理分野、教育・社会心理分野、認知・学習心理分野に整理されています。

これらの科目と各種実習とを組み合わせることで、みなさんの学習はより効果的になると考えています。また卒業後の進路を考える際にもそうした系統的な学習は大切です。

2. 演習・実習科目

演習・実習科目に位置づけられているのは、「専門演習Ⅰ～Ⅲ（A・B）」「卒業論文」「英語専門演習Ⅰ（A・B）」「英語専門演習Ⅱ（A・B）」の演習科目と、「臨床心理実習指導（Ⅰ・Ⅱ）」「臨床心理実習」、そして「認定課外実習」の実習科目です。

「臨床心理実習」の詳細は、106頁をよく読んでください。

（1）専門演習

専門演習は必修科目です。担当教員の専門分野に即して開講されるもので、少人数での報告・討論を通して専門性を深めることができます。それぞれの担当教員の専門分野を教員紹介でよく検討して受講してください。豊かな大学生活を送るためにも、問題意識をもって講義を主体的に受け止められるようになるためにも、専門演習は大変有効な科目です。4年次では、専門演習を通じて学んだことを中心に、所定の期日までに卒業論文として提出することになります。

（2）卒業論文

卒業論文は必修科目です。卒業論文は、専門演習だけでなく、個別指導に基づいて作成します。具体的には、学術論文の体裁や約束事、選んだ研究領域についての基礎的知識、各種研究方法や資料収集の方法などの習得からはじめ、個別相談を重ねながら、論文のテーマと構成を確定します。執筆に取りかかっからは、随時進捗状況の報告を行い、提出された草稿に手直しを加えながら完成度を高めていきます。

<作成要領>

1. 内容、分量および書式等について

（1）現代福祉学部らしいさまざまな卒論作成スタイル、手法、内容を許容します。

ただし、懸賞論文の募集に関する書類の「論文の書き方についての注意」を参考にしてください。

■大学ホームページ HOME > キャンパスライフ > 課外活動 > 法政大学懸賞論文

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/katsudo/kensho>

（2）文字数は12,000～20,000字をめどとします。ただし、分量については専門演習の担当教員の指導に従って下さい。原則としてワープロ（パソコン）を使用、A4版（1ページは40字×30行＝1200字程度）横書きとします。なお、本人控えとして1部をかならず保管しておいてください。

（3）フォントは明朝またはゴシック体を使用し、10.5ポイント程度を標準とします。論文題目や章・節題名は少し大きめのフォントを使用します。印字は黒を原則としますが、図表等はカラーを使用してもかまいません。

（4）各ページには中央下部にページ番号をつけます。

（5）余白：上下30ミリ、右は25ミリ、左は35ミリ（綴じ代を含む）程度の余白をとります。

2. 他人の作品・論文・文章などの引用について

- (1) 字句または説を盗み取って、自分のものとして発表することは剽窃行為となり、不正行為として厳正に処分されます。他人の論文・書物あるいはHP等から文章（またはその内容）や図表を引用して論文の一部を構成するときには、引用していることや出所を必ず明記する必要があります。本文中に引用であることを明記した上で、引用文献の一覧を作成し論文の巻末等に掲載してください。
- (2) 引用文献一覧は、通常、著者名のアルファベット順（日本人が著者の場合は、苗字のローマ字の一文文字目）に記載することが一般的です。ただし、研究領域ごとに書式等がことなる場合がありますので、各領域の代表的な研究雑誌等を指導教員に紹介してもらうなど、指導教員の指導を受けてください。
- (3) 脚注を使用する場合は各章ごとにまとめて書くか、あるいは巻末にすべての注をまとめて書いてください。文章中には、例えば、（発達障害支援法¹⁾）のように上付け数字で表記してください。

3. 表紙について

卒業論文には指定された表紙（大学生協購買部（総合棟地下1階）で販売）を使用してください。なお、指導教員から別途指示がある場合には、それに従ってください。

〔卒業論文表紙・背表紙見本〕

(A4-S)

4. 提出要領について

- (1) 提出期日：各ゼミの専門演習Ⅲの最終授業日までに提出してください。提出期限は厳守してください。
- (2) 提出先：各指導教員へ直接提出してください。

<留級者の卒業論文 半期履修について>

通常、「卒業論文」は通年科目ですが、1回目の4年次に卒業要件を満たさず留級し、次年度に再度4年次となる学生で「卒業論文」が未修得の場合、2回目の4年次で履修する「卒業論文」を、1年間の指導を半期（春学期または秋学期）に集中して受ける【半期履修】の申請ができます。

2回目の4年次で半期履修を希望する学生は、3月の成績発表後、以下の申請条件を確認し、卒業論文担当教員と面談のうえ、事務課窓口にて申請してください。申請書の提出にあたっては担当教員の許可を要しますので、期日に余裕をもって窓口に来てください。

- 対象：留級した4年生
- 申請条件：卒業論文（4単位）を除いた未修得単位が10単位以下の者。ただし、未修得単位に通年科目がある場合は申請することはできない。
- 申請期日：4月末
- 9月卒業の場合は「9月卒業申請書」を、春学期を休学する場合は「休学願」を、期日までに別途提出すること。

（3）英語専門演習

英語専門演習は、より高度な英語力を習得したい人が履修する選択科目です。「英語1」から「英語10」まで、また、「国際コミュニケーション（英語）」の授業以外にも勉強したい人のための授業です。しかし、英語の勉強といっても幅広く、すべてを網羅している授業ではありません。

「英語専門演習Ⅰ（A・B）」は、国際化する社会で活躍出来るようにプレゼンテーション、ディスカッション、グループプロジェクト等英語による発信力と受信力を高めようとする授業です。

「英語専門演習Ⅱ（A・B）」は、大学院への進学のため、学術的な英語能力のスキルアップを目指したい人を対象とした授業です。

「英語専門演習」は、上記「専門演習」と重複して履修することが可能です。明確な目的を設定しますので、自分の希望にあわせて履修してください。

（4）臨床心理実習

1. 目的

臨床心理実習は、大学で学んだ臨床心理学を中心とした心理学関連科目について、実習を通して、その理解を深めることを目的としています。

2. 実習科目

- ①「臨床心理実習」（3年次：2単位）
- ②「臨床心理実習指導（Ⅰ・Ⅱ）」（3年次：2単位（各1単位））

3. 履修要件（先行履修要件と先行履修科目）

以下の履修要件を満たしていることが必要です。

- ①先行履修要件

先行履修要件として、以下の活動と報告書を提出することが必要です。

なお、フィールド体験実習に行く前に、「フィールド体験実習申請書」を実習指導室に提出してください（届出がないと事故などに対する保険が適用されません。）。

フィールド体験実習 I

1年次の冬季休業終了までに4日間以上、社会的活動に関わるボランティア活動を行ない、その活動で感じたこと、学んだことを報告書として提出してください。

②先行履修科目

「臨床心理実習」を履修するためには、以下の先行履修科目を履修し、2年次生終了までに単位を修得していることが必要です。

「基礎演習（Ⅰ・Ⅱ）」 「フィールドスタディ入門」 「心理学」 「心理学概論」
「発達心理学」 「心理学基礎実験Ⅰ」 「心理学基礎実験Ⅱ」
「臨床心理学Ⅰ」 「心理療法Ⅰ」 「心理検査法Ⅰ」
以上の10科目は必須。

さらに、次の8科目中、3科目以上履修していること。

「グループアプローチ」 「コミュニティ心理学Ⅰ」 「カウンセリング」 「精神医学」
「教育心理学」 「学校心理学」 「障害者心理学」 「高齢者心理学」

4. 出願時の提出書類および選抜方法

①提出書類

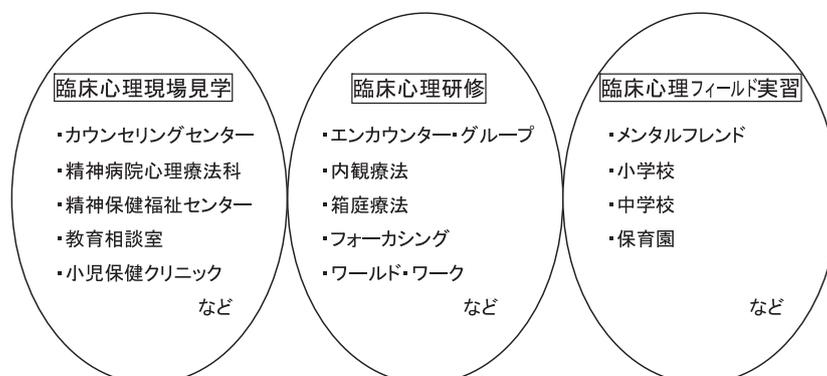
「臨床心理実習履修希望票」 および 「臨床心理実習課題レポート」

②選抜方法

レポート（「臨床心理実習課題レポート」）による選抜を行います。

5. 実習の内容と形態

臨床心理実習は、大きく「臨床心理現場見学」、「臨床心理研修（自己研修型体験学習）」、「臨床心理フィールド実習（心理臨床に関するボランティア等を中心とした現場実習）」の3つの実習から構成されています。



[臨床心理実習の内容]

臨床心理現場見学

- ・ カウンセリングセンター、精神保健福祉センター、精神病院心理療法科、教育相談室などの臨床心理現場に、1人1箇所見学をします。そこで、現場の担当者から現場の仕事内容等に関して講義を受けます。
- ・ 臨床心理現場見学の時期：主に秋学期に実施します。
- ・ 臨床心理実習担当教員が現場へ引率します。

臨床心理研修

- ・ 「エンカウンター・グループ」、「内観療法（集中内観体験）」、「箱庭療法」、「フォーカシング」などの自己研修型体験を行います。
- ・ 研修費用は参加する研修により異なりますが、概ね数千円から4万円程度となります。
- ・ 有料ということもあり、研修への参加は希望者のみです。
- ・ 臨床心理研修の時期：夏期休暇期間およびその前後に行われます。

臨床心理フィールド実習

- ・ 実習先は、「メンタルフレンド」、「小学校」、「中学校」、「保育園」などです。
- ・ 週に1～2回程度の通い型が中心となります。
- ・ 最低40時間以上を実習の条件としています。
- ・ 実習の時期：春学期から始まります。
- ・ 臨床心理実習担当教員による実習先への巡回を行います。

[臨床心理実習指導]

毎週月曜日の5時限に行う授業です。

春学期

- ・ 臨床心理実習全般にかかわる基礎的なマナー・知識・技能の習得。
- ・ 「臨床心理研修」、「臨床心理フィールド実習」の内容に関する事前学習。
- ・ 「臨床心理現場見学」、「臨床心理研修」、「臨床心理フィールド実習」の実習先の決定。

注）現場見学、研修、フィールド実習の実習先の決定は、原則として本学が適当と認めた実習先の中から、各学生の希望により決定します。

- ・ 臨床心理フィールド実習の報告とそれをもとに理解を深める。
- ・ 臨床心理現場見学の報告とそれをもとに理解を深める。

秋学期

- ・ 臨床心理現場見学の報告とそれをもとに理解を深める。
- ・ 臨床心理研修の報告とそれをもとに理解を深める。
- ・ 臨床心理フィールド実習の報告とそれをもとに理解を深める。
- ・ 臨床心理フィールド実習について実習報告書を作成し、学習の定着をはかります。

■■実習指導室について■■

現代福祉学部では、実習を中心として相談・指導を行う実習指導室があります。

実習ボランティアなどに関して、疑問や質問がある時や情報収集をしたい時は、気軽に実習指導室を利用してください。

実習指導室では、次のようなことを行っています。

- ◇ 実習に関する相談
- ◇ ボランティアに関する相談、情報提供
- ◇ 近隣ボランティアセンターの情報提供
- ◇ 実習に関わる情報の提供（書籍、資料など）
- ◇ 臨床心理士資格指定大学院関連情報の提供（書籍、資料など）
- ◇ 社会福祉士・精神保健福祉士・公認心理師・国家資格・国家試験関連情報の提供
- ◇ 各種 VTR 教材閲覧

実習指導室からの連絡や、ボランティア情報などについて、現代福祉学部棟 2 階掲示板、および実習指導室の窓ガラスを活用して皆さんにお伝えしています。

開室時間 10:00～17:00（月～金）

夏季休暇、冬季休暇、春季休暇中は変更がありますので、掲示に注意してください。

（5）認定課外実習

「認定課外実習」は、広義の福祉に関連する以下の公的資格をみなさんが自主的に学習し、成果をあげた場合、それを単位として認定します。「認定課外実習」で認定する資格は次の 6 種類です。

1. 資格
 - 介護職員初任者研修課程
 - 障害者ホームヘルパー 2 級
 - 臨床美術士 4 級
 - 社会保険労務士
 - 福祉住環境コーディネーター 2 級
 - 保育士

2. 認定要件

上記の資格を取得した学生が単位申請した場合、「認定課外実習」として 2 単位を認定します。申請にあたっては、2020 年 4 月から 9 月末日までに取得した場合は、秋学期授業開始後の所定の期間内に現代福祉学部事務課に所定の書類を添付のうえ申請を行ってください。また、2020 年 10 月から 2021 年 3 月末日までに取得した場合は、次の学年度初め（2021 年 4 月）の所定の期間内に申請を行ってください。

3. 取得制限

在学中に取得できる「認定課外実習」は前述の資格の中から1種類2単位です。

なお、「認定課外実習」は、「臨床心理実習」と重複して履修ができます。また、下記の「スタディ・アブロード」とも重複して履修ができます。

注意

(1) ここで認定された単位は、進級要件並びに卒業要件第4条で定められている「第4年次においては、4単位以上修得しなければならない」の4単位には含まれません。

(2) 認定課外実習の単位認定を申請し、認定された単位(2単位)は認定された年度の修得単位とし、次年度の履修登録の際に調整することになります。従って、2019年度に単位認定された場合は2020年度の履修登録の際に調整し、2020年度内に単位認定された場合は2021年度に調整します。

(6) スタディ・アブロード

法政大学の留学制度(法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度)で、海外留学をした学生が、成果をあげた場合、「スタディ・アブロード」の単位として認定します。認定要件は次のとおりです。

1. 認定要件

法政大学の留学制度(法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度)で、海外留学をした学生が「1年間、海外の大学で勉強してきたことを証明する書類」を現代福祉学部事務課に提出し、現代福祉学部教授会で審査の結果、認められた場合に2単位認定します。申請は帰国後速やかに提出することとします。

2. 取得制限

在学中に取得できる「スタディ・アブロード」は2単位です。なお、「スタディ・アブロード」は、上記「臨床心理実習」と重複して履修ができます。また、「認定課外実習」とも重複して履修ができます。

法政大学の留学制度については、「IV. 研修・海外留学・英語プログラム」を参照してください。

3. 自由科目

以下の科目を単位修得した場合、自由科目群にて単位認定されます。卒業所要単位として認定される単位数の上限は4年間で20単位です。20単位を超えて履修をすることもできますが、卒業所要単位としては認定されないので注意してください。以上のことを踏まえ、計画的に履修をしましょう。

(1) 他学部公開科目について

公開科目とは市ヶ谷キャンパスを含む他学部の公開科目を履修できる制度です。

履修年次：2～4年次

履修上限：各年次8単位、ただし修得上限は合計で上限20単位以内

登録方法：履修登録の所定期間内にWebから登録をしてください。なお同じ曜日に複数キャンパスで科目を履修する場合は以下の点に注意してください。

- ・キャンパス間を移動する時間が必要なため、連続した時限で履修登録することはできません。
- ・定期試験の実施時限は授業時限と異なる場合があることからキャンパス間の移動が困難になる場合があります。そのため、シラバス等で定期試験の有無を必ず確認してください。
- ・履修を希望する場合は、必ず所属学部窓口にて相談してください

その他注意事項：「公開科目」のシラバスを確認のうえ履修してください。また、試験時間割を含む連絡事項等は公開している学部の掲示板で確認してください。

(2) 短期語学研修

グローバル教育センター主催の語学研修です。研修は夏期、春期に行われます。研修の募集、申し込み、内容の詳細については136頁を確認してください。

認定単位：1つの語学圏につき2単位（言語圏が異なる場合は重複履修可）

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせ20単位以内

登録方法及び単位認定：プログラム参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、事務課にて履修登録の申請手続きを行ってください。Webでの履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。詳細は履修の手引き136頁を確認してください。

(3) 国際ボランティア、国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催するプログラムです。プログラムの紹介については137頁を確認してください。

認定単位：国際ボランティア、国際インターンシップそれぞれ1単位

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせ20単位以内

登録方法：参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、事務課にて履修登録の申請手続きを行ってください。Webでの履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。詳細は履修の手引き137頁を確認してください。

(4) グローバル・オープン科目

グローバル教育センターが主催するプログラムです。プログラムの紹介については138～142頁を確認してください。

履修年次：科目によって異なります。確認をしたうえで履修してください。

単位認定の上限：専門教育科目「自由科目」で他のものと合わせ20単位以内

登録方法：他の科目と同じように所定の期間内にWebより履修登録してください。なお履修にあたっては履修の手引き139頁の注意事項を確認してください。

(5) 成績優秀者科目履修

本学部では成績優秀者に対して、特定の学部の授業を履修することができる「成績優秀者の他学部科目履修制度」を導入しています。

履修年次：2年次以上（対象となる学生には現代福祉学部事務課より連絡します。）

要件：成績優秀者の選定は各学年で前年度の成績（単年度GPA）により教授会にて決定します。

ただし、対象となる成績優秀者が上位5%を超える場合は、GPA順に上位5%までとします。

履修上限：年間4科目以内かつ8単位以内。

単位認定：専門教育科目「自由科目」において他のものと合わせ20単位以内

登録方法：事務課で成績優秀者科目履修の「履修の手引き」を受け取り、所定の期限内に申請書を提出すること。

備考：年間履修登録単位上限には含まれません。

単位認定一覧

	他学部公開科目	成績優秀者の他学部科目履修	短期語学研修	国際ボランティア	国際インターンシップ	グローバル・オープン科目	ERP
認定先	自由科目（自由科目は20単位まで卒業単位として認定）						
単位数	科目により異なる	科目により異なる	2	1	1	科目により異なる	科目により異なる
履修年次	2年次～	2年次～ (対象学生のみ)	1年次～	1年次～	1年次～	科目により異なる	1年次～
卒業所要単位として認定する（GPAに算入される）	○	○	○	○	○	○	○
履修上限	各年次8単位	年間4単位、卒業まで8単位 ※年間履修の上限単位数に含まれない	—	—	—	—	年間8単位、卒業まで16単位
	課題解決型 フィールドワーク for SDGs	ESOP	語学単位認定	認定課外実習	スタディ・アブロード	教職	資格課程科目
認定先	自由科目	視野形成科目	言語コミュニケーション科目	演習・実習科目		教職科目	資格課程科目
単位数	科目により異なる	科目により異なる	4または8	2	2	科目により異なる	科目により異なる
履修年次	1年次～	1年次～	1年次～ (指定期間に申請)	1年次～ (指定期間に申請)	1年次～ (帰国後、申請)	1年次～	1年次～ (秋の履修登録変更不可)
卒業所要単位として認定する（GPAに算入される）	○	○	○	○	○	×	×
履修上限	—	各年次8単位	8単位	2単位 ※次年度、年間履修 上限単位数が減る	2単位	※年間履修の上限単位数に含まれない	

4. 各学年での履修

各学年での標準的な履修方法を示しておきます。もちろん独自の学習計画を立てて、自由に講義を履修しても構いませんが、以下に示す留意事項と進級規程をよく読んで、誤りがないよう注意してください。

(1) 1年次

1年次のカリキュラムのねらいは大学生としてふさわしい学習の方法と基礎的学力を身につけることです。講義内容をよく読み、必修科目を含めて、年間制限単位数（48単位）の範囲内で、履修科目を検討します。大雑把に言えば、1年次では総合教育科目と専門基礎科目、専門基幹科目を中心に履修するという形になるでしょう。なおクラスが指定されている授業や受講者数が制限されるクラスもありますので注意してください。

①言語コミュニケーション科目の「英語1・3」「中国語1A・1B・2A・2B」、視野形成科目の「スポーツ総合（I・II）」、学部共通科目の「基礎演習（I・II）」は各自の所属クラス毎に授業が指定されています。また、言語コミュニケーション科目の「英語2・4・5」は各自の習熟度別に授業が指定されています。学部掲示板を確認して、指定されたクラスを履修します。言語コミュニケーション科目については、言語コミュニケーション科目として選択した外国語による「国際コミュニケーション」を、指定されたクラス授業の代わりにすることもできます。なお、「国際コミュニケーション」は受講定員が設けられています。受講前に行う抽選に必ず参加してください。

なお、留学生入試入学者は、1年次に「日本語1A・1B・2A・2B」と英語2単位（「英語1・3」もしくは「英語2・4」）を履修してください。

②総合教育科目の内、「基礎演習（I・II）」は必修科目です。必ず全員履修してください。（2016年度以前の入学者は「スポーツ総合（I・II）」も必修科目です。）

③専門基礎科目の「心理学」「心理学概論」「心理学基礎実験Ⅰ」「心理学基礎実験Ⅱ」と専門基幹科目の「発達心理学」「臨床心理学Ⅰ」「心理療法Ⅰ」は必修科目です。必ず全員履修してください。また、「コミュニティ心理学Ⅰ」「精神医学」「カウンセリング」「地域問題入門」「ソーシャルワークⅠ」「社会問題論」は選択必修科目です。4科目以上を必ず履修してください。

④1年次に配当されている科目の中から興味ある科目を選択します。「コンピュータ入門Ⅰ」「コンピュータ入門Ⅱ」「国際コミュニケーション」など受講者数が制限されている科目もあります（年度初めの抽選で受講者を決定）。どの科目を受講する場合も、4月のガイダンスおよび抽選に参加したうえで初回の授業に必ず出席し、担当教員の指示に従ってください。

⑤「フィールドスタディ入門」は必修科目ではありませんが、臨床心理実習の先行履修科目に指定されており、また、みなさんが今後の進路や学習の方向性を考えるにあたって参考になる授業なので、履修することを強くお勧めします。

(2) 2年次

2年次では専門展開科目を中心に履修し、関心をもった専門展開科目・専門演習を選択履修するという形になります。2年次に配当されている科目の中から興味ある科目を選択します。問題意識に応じて、系統的に履修することを心がけてください。

①言語コミュニケーション科目の「英語6・9」は各自の習熟度別にクラス指定されています。学部掲示板を確認して、指定されたクラスを履修します。「国際コミュニケーション」をこれらのクラスの代わりにすることもできます。英語を選択した場合、「英語7・8」は特に強化したいスキルのクラスを選択します。「英語7・8」と「国際コミュニケーション」は受講定員が設けられています。受講前に行う抽選に必ず申請してください。

なお、留学生入試入学者は、2年次に「日本語3A・3B」と「英語7・8」を履修してください。

②総合教育科目の内、「心理データ解析Ⅰ・Ⅱ」は、2年次から履修できる必修科目です。必ず全員履修してください。

③専門基幹科目の内、「心理検査法Ⅰ」は、2年次から履修できる必修科目です。必ず全員履修してください。

④2年次から必修科目である「専門演習Ⅰ(A・B)」が始まります。各自の専門分野に対する認識を深めるためにも必要ですから、必ず履修してください。留学・就職、大学院進学に対応した英語力の向上には「英語専門演習Ⅰ(A・B)」(専門演習と同時履修が可能です)が有益です。専門演習、英語専門演習はそれぞれの教員の専門分野に即して開講され、少人数での討論を通して学習を深めるもので、大学での学習の柱となる科目です。充実した学生生活を送るためにも、積極的に参加してください。

⑤3年次で「臨床心理実習」を履修するためには、2年次終了までに、指定された科目を先行して履修済み(単位修得済み)であることが条件です。実習の説明箇所(106頁以降)をよく読み確認しておいてください。

(3) 3年次

3年次では、特に学習したい領域を確立させて、専門展開科目を中心に学習を進めていきます。講義科目に加えて、専門演習や各種実習を組み合わせることで、学習成果を一層深めていくのが3年次の目標です。個人の関心とテーマに従って、目的に適した科目選択を工夫してください。

①3年次から4年次への進級規程には、科目群および授業科目について、細かく規程されています。進級規程(22頁以降)をよく読んで、間違いのないよう十分、気をつけてください。

②言語コミュニケーション科目の「英語10」は春学期に履修してください。

③3年次で「臨床心理実習」を履修するためには、「臨床心理実習」「臨床心理実習指導」の2科目とも履修登録する必要があります。

(4) 4年次

4年次では、3年までに選択した専門領域やテーマをさらに深く探求し、大学での学習の仕上げを行うことが期待されます。

- ①「卒業論文」は必修科目です。専門演習を通じて学んだことを中心に、所定の期日までに卒業論文を提出することになります。提出先、提出日等の詳細は、掲示で確認してください。
- ②4年次で履修登録した科目を含めて、卒業に必要な単位数（条件）はすべて満たしていることを確認してください。

(5) 研究活動の不正行為について（卒業論文の作成など）

科学は、信頼を基盤として成り立っています。

しかし、残念なことに、データ捏造・改ざんなどの研究不正行為や研究費の不正使用が生じており、報道でもとりあげられています。このままでは、科学に対する信頼が揺らぎかねません。

このような背景から、研究者だけではなく、学生にも研究者倫理に関する知識及び技術を身に付けることが求められています。

※「試験等における不正行為の処分基準」の(2)論文（卒業論文を含む）、レポート、作品等の成績評価に関わる提出課題における不正行為の不正行為様態にも、盗用に当たる剽窃（ひょうせつ）行為、悪質な剽窃（ひょうせつ）行為、その他の不正行為としてデータの捏造や改竄が処分を受ける行為として定められています。

代表的な不正行為

（文部科学省が定める「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」において、以下が代表的な不正行為とされています。）

捏造 (Fabrication)

存在しないデータ、研究結果等を作成すること

改ざん (Falsification)

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い、データ、研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること

盗用 (Plagiarism)

他の研究者のアイデア、分析・解析方法、データ、研究結果、論文又は用語を、当該研究者の了解もしくは適切な表示なく流用すること

本学では「研究活動上の不正行為の防止及び対応に関する規程」をはじめとする様々な規程やルールを定め、研究活動における不正行為の防止に取り組んでいます。研究活動における不正行為を認識し、研究倫理教育を学習することで、研究者倫理に関する規範意識を身につけてください。

【参考】

- ・「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」
（平成26年8月26日 文部科学大臣決定）

http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf

・「科学の健全な発展のために－誠実な科学者の心得－」

(独立行政法人日本学術振興会「科学の健全な発展のために」編集委員会)

<https://www.jsps.go.jp/j-kousei/data/rinri.pdf>

お問い合わせ先 法政大学研究開発センター suisin@adm.hosei.ac.jp

Ⅲ. 資格取得

〈福祉コミュニティ学科のみ取得できる資格〉

■社会福祉士 ……………P. 119

■精神保健福祉士 ……………P. 121

〈注意事項〉

社会福祉士、精神保健福祉士の受験資格を得るためには、在学中に厚生労働大臣が指定する科目を履修し、単位を修得する必要があります。

時間割編成を検討して、4年間の履修計画をしっかりと立てましょう。

■スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業 ……P. 124

〈臨床心理学科のみ取得できる資格〉

■認定心理士 ……………P. 125

〈注意事項〉

認定心理士の資格は、専門性が非常に高い資格で、十分な履修計画が必要となります。時間割編成を検討して、4年間の履修計画をしっかりと立てましょう。

■公認心理師 ……………P. 127

〈両学科取得できる資格〉

■社会福祉主事 ……………P. 127

■教職・資格課程 ……………P. 127

〈注意事項〉

教員免許状の取得・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員・社会教育主事の資格取得を希望する場合、別冊の「教職・資格課程履修要綱」を必ず読んでください。

〈福祉コミュニティ学科のみ取得できる資格〉

(1) 社会福祉士

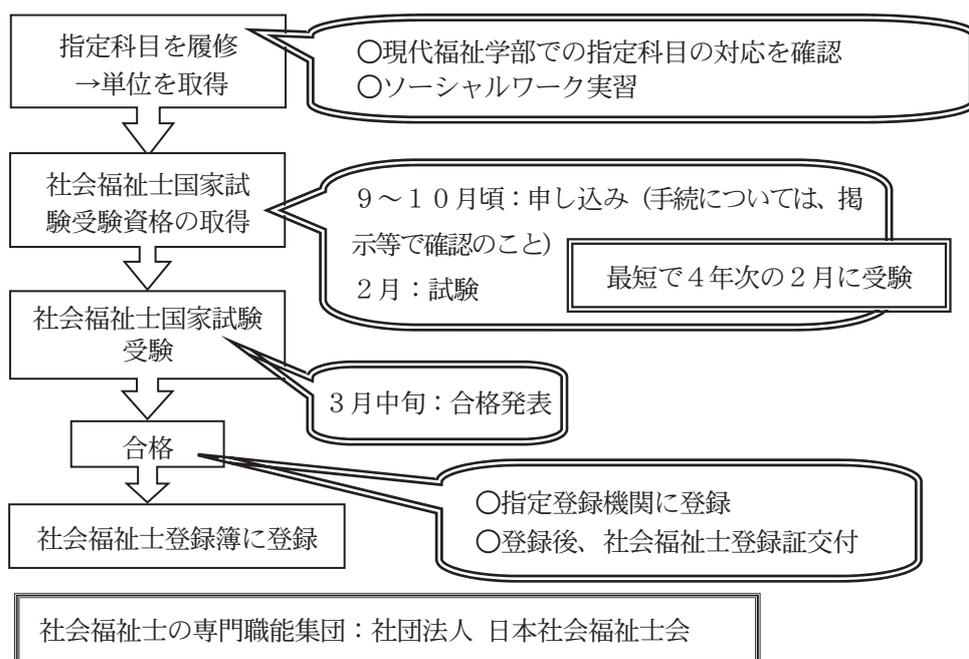
社会福祉士とは、「社会福祉士及び介護福祉士法」(1987年)に定められた国家資格で、「社会福祉士」の名称を用い、専門的知識及び技術をもって、身体上もしくは精神上の障害があること、または環境上の理由により日常生活を営むのに支障がある者の福祉に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う専門職のことをいいます。社会福祉サービスの質を高めるために設けられた国家資格で、今後の福祉現場の中核的存在として活躍することが期待されています。また、少子高齢化が進む現代社会では、社会福祉士の福祉系国家資格を持ち、福祉の専門的知識を有した人材を関連民間企業等でも求めていく場合もあります。社会福祉士は、今後のキャリア形成にとって役立つ資格と考えられます。

社会福祉士の職場は広範囲にわたります。

- ◇公務員として、福祉事務所や児童相談所のケースワーカー・児童福祉司・身体障害者福祉司等として、相談援助の業務に携わる
- ◇児童・高齢者・障害者等の社会福祉施設で、生活支援員、生活相談員等として働く
- ◇各都道府県・市区町村の社会福祉協議会で、コミュニティワーカーとして働く
- ◇学校教育現場や教育行政等で、スクールソーシャルワーカーとして働く
- ◇医療機関等で、医療ソーシャルワーカーとして働く

さらには、国際福祉に関する機関やNPO等の地域に根ざしたさまざまな活動や、民間の福祉関連企業での活躍が期待されています。

社会福祉士になるためには、社会福祉士国家試験を受験して合格しなければなりません。ただし、この社会福祉士国家試験は、誰もが受験できるものではなく、厚生労働大臣が指定した社会福祉に関する科目(「指定科目」※)を履修し、単位を修得する必要がある、この受験資格を本学で取得することになります。



※実習を除く社会福祉士指定科目は、本学部在学中に全ての単位を修得しなければなりません。

現代福祉学部における社会福祉に関する科目（「指定科目」）は、以下のとおりです。

表 1. 厚生労働大臣が指定する社会福祉に関する科目（「指定科目」）

厚生労働省の定める指定科目	現代福祉学部での科目	配当年次	単位数
人体の構造と機能及び疾病 心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	医学概論 心理学 社会学	1・2・3・4 1・2・3・4 1・2・3・4	2 2 2
現代社会と福祉	社会福祉概論	1・2・3・4	2
社会調査の基礎	社会福祉調査	1・2・3・4	2
相談援助の基盤と専門職	ソーシャルワークⅠ (相談援助の基盤と専門職)	1・2・3・4	2
相談援助の理論と方法	ソーシャルワークⅡ (理論) ソーシャルワークⅢ (方法)	2・3・4 2・3・4	2 2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論 コミュニティソーシャルワーク	1・2・3・4 2・3・4	2 2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2・3・4	2
福祉サービスの組織と経営	福祉サービスの組織と経営	2・3・4	2
社会保障	社会保障論	2・3・4	2
高齢者に対する支援と介護保険制度	高齢者福祉論 介護福祉論	2・3・4 2・3・4	2 2
障害者に対する支援と自立支援制度	障害者福祉論	2・3・4	2
児童や家庭に対する支援と福祉制度	児童福祉論	2・3・4	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2・3・4	2
保健医療サービス	保健医療サービス	2・3・4	2
★就労支援サービス 権利擁護と成年後見制度 更生保護制度	権利擁護と成年後見 司法福祉論	2・3・4 2・3・4	2 2
相談援助演習	ソーシャルワーク演習Ⅰ ソーシャルワーク演習Ⅱ ソーシャルワーク演習Ⅲ ソーシャルワーク演習Ⅳ ソーシャルワーク演習Ⅴ	2・3 3・4 3・4 3・4 3・4	2 2 2 2 2
相談援助実習指導	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ ソーシャルワーク実習指導Ⅱ ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	2・3 3・4 3・4	1 1 1
相談援助実習	ソーシャルワーク実習	3・4	4

※ 一科目選択

★ 本学部では開講していません

(2) 精神保健福祉士

精神保健福祉士とは、1998年4月に施行された「精神保健福祉士法」に定められた国家資格で、「精神保健福祉士」の名称を用い、精神障害者の保健及び福祉に関する専門的知識及び技術をもって、精神科病院その他の医療施設において精神障害の医療を受け、又は精神障害者の社会復帰を図ることを目的とする施設を利用している者の社会復帰に関する相談に応じ、助言、指導その他の援助を行う専門職のことを言います。社会福祉士と同様に、社会福祉サービスの質を専門職の資質向上を通して支えるために設けられました。精神保健福祉士は、入院・通院中の治療や生活にかかわる相談・援助、地域生活への支援、精神障害者の人権擁護等を行う専門職として、精神障害者福祉の分野では中心的役割が期待されています。

精神保健福祉士の職域は幅広く、精神科病院、総合病院の精神科、精神科クリニック、精神保健福祉センター、保健所、保健センター、障害者総合支援法上の障害福祉サービス等事業所や地域の相談支援事業所、司法施設、公共職業安定所などがあげられます。最近では民間企業においてもメンタルヘルス支援者として人事・総務部門などに配属され専門性を発揮しています。

精神保健福祉士になるためには、精神保健福祉士国家試験を受験し合格しなければなりません。精神保健福祉士国家試験を受験するためには、本学部在学中に厚生労働大臣が指定した精神障害者の保健及び福祉に関するすべての科目を履修し、単位を修得しなければなりません。(下表)

なお、本学において精神保健ソーシャルワーク実習を履修するには、ソーシャルワーク実習の履修を終え、社会福祉士受験資格取得予定学生であること(77頁に記載されている先行履修科目を3年次までに単位修得しておく)が前提となっています。

①国家試験受験のための手続

現代福祉学部のカリキュラムでは、社会福祉士の国家試験と同様に、最短で4年次の1月に精神保健福祉士国家試験を受けられるように構成されています(国家試験の合格発表は3月中旬です)。

精神保健福祉士国家試験に合格し、精神保健福祉士資格を有する人が精神保健福祉士となるためには、指定登録機関における精神保健福祉士登録簿に登録することが必要です。また、精神保健福祉士の専門的職能団体である日本精神保健福祉士協会が組織されています。

社会福祉士・精神保健福祉士の国家資格受験には、以下の手続が必要になります。日程・申請方法等の詳細は掲示板に掲示されますので、必ず確認して忘れずに手続をしてください。

日程(予定)	内容	申請場所等
7月中	「受験の手引き」請求	各自で試験センターに請求
9月中旬	卒業(見込)・指定科目履修(見込)証明書発行	現代福祉学部事務課
9月～10月上旬	受験申込み	各自で試験センターに申込み
12月中旬～下旬 (受験票到着後)	卒業・指定科目履修証明書発行	現代福祉学部事務課
2月上旬	国家試験受験	—

②国家試験対策講座

社会福祉士国家試験、精神保健福祉士国家試験を受験する学生を対象とした講座です。国家試験を受験する4年次生を対象に集中的に対策講座を行います。現代福祉学部における特別な制度であり、外部の講師を招いて、国家試験対策に的を絞った学習を行います。

詳細は掲示でお知らせしますので掲示を注意して確認してください。

表2. 厚生労働大臣が指定する精神保健福祉に関する科目 【2014年度以前入学者】

厚生労働省の定める指定科目	現代福祉学部での科目	配当年次	単位数
人体の構造と機能及び疾病 心理学理論と心理的支援 社会理論と社会システム	医学概論	1・2・3・4	2
	心理学	1・2・3・4	2
	社会学	1・2・3・4	2
現代社会と福祉	社会福祉概論	1・2・3・4	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	1・2・3・4	2
	コミュニティソーシャルワーク	2・3・4	2
社会保障	社会保障論	2・3・4	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2・3・4	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2・3・4	2
保健医療サービス	保健医療サービス	2・3・4	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見	2・3・4	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2・3・4	2
精神疾患とその治療	精神医学	2・3・4	2
精神保健の課題と支援	精神保健学	2・3・4	2
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	ソーシャルワークⅠ	1・2・3・4	2
	ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2
	ソーシャルワークⅢ	2・3・4	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健ソーシャルワークⅠ	2・3・4	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2
	精神科リハビリテーション学	2・3・4	2
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	ソーシャルワーク演習Ⅰ	2・3・4	2
	ソーシャルワーク演習Ⅱ	2・3・4	2
	ソーシャルワーク演習Ⅲ	2・3・4	2
	ソーシャルワーク演習Ⅳ	2・3・4	2
	ソーシャルワーク演習Ⅴ	2・3・4	2
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	2
	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	4	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3	1
	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	2
精神保健福祉援助実習	精神保健ソーシャルワーク実習	4	4

※ 一科目選択

表2. 厚生労働大臣が指定する精神保健福祉に関する科目 【2015年度以降入学者】

厚生労働省の定める指定科目	現代福祉学部での科目	配当年次	単位数
人体の構造と機能及び疾病 } ※1 心理学理論と心理的支援 } 社会理論と社会システム }	医学概論	1・2・3・4	2
	心理学	1・2・3・4	2
	社会学	1・2・3・4	2
現代社会と福祉	社会福祉概論	1・2・3・4	2
地域福祉の理論と方法	地域福祉論	1・2・3・4	2
	コミュニティソーシャルワーク	2・3・4	2
社会保障	社会保障論	2・3・4	2
低所得者に対する支援と生活保護制度	公的扶助論	2・3・4	2
福祉行財政と福祉計画	福祉行財政と福祉計画	2・3・4	2
保健医療サービス	保健医療サービス	2・3・4	2
権利擁護と成年後見制度	権利擁護と成年後見	2・3・4	2
障害者に対する支援と障害者自立支援制度	障害者福祉論	2・3・4	2
精神疾患とその治療	精神医学	2・3・4	2
精神保健の課題と支援	精神保健学	2・3・4	2
精神保健福祉相談援助の基盤（基礎）	ソーシャルワークⅠ	1・2・3・4	2
	ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2
	ソーシャルワークⅢ	2・3・4	2
精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	精神保健ソーシャルワークⅠ	2・3・4	2
精神保健福祉の理論と相談援助の展開	精神保健ソーシャルワークⅡ	2・3・4	2
	精神科リハビリテーション学	2・3・4	2
精神保健福祉に関する制度とサービス	精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2
精神障害者の生活支援システム	精神保健福祉論Ⅰ、精神保健福祉論Ⅱ	2・3・4	2
精神保健福祉援助演習（基礎）	ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴ※2	2	2
精神保健福祉援助演習（専門）	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅰ	4	2
	精神保健ソーシャルワーク演習Ⅱ	4	2
精神保健福祉援助実習指導	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	3	1
	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	4	1
	精神保健ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	4	1
精神保健福祉援助実習	精神保健ソーシャルワーク実習	4	4

※1 一科目選択

※2 ソーシャルワーク演習Ⅰ～Ⅴについては社会福祉士指定科目を履修することで免除する。

(3) スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程認定事業は、学校現場等において、適切なソーシャルワークを実践することができる社会福祉士等を養成するために、最低限必要となる課程の設置要件を一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟が定めたものです。この教育課程を受けるには、社会福祉士または精神保健福祉士の養成課程を履修し、かつこの認定課程に定められる科目を履修する必要があります。

スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程は以下に示す通りです。「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了者」とは、本課程を修了し、かつ社会福祉士または精神保健福祉士の登録を受けた人^{*1}が、大学からの申請に基づき、「一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟認定スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程修了者」として修了証の交付を受けた人となります。

区分	科目名	現代福祉学部での科目	単位数	備考
スクール（学校）ソーシャルワーク専門科目群	スクール(学校)ソーシャルワーク論	スクールソーシャルワーク	2	必修
	スクール(学校)ソーシャルワーク演習	スクールソーシャルワーク演習	2	
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習指導	スクールソーシャルワーク実習指導 I・II	2	
	スクール(学校)ソーシャルワーク実習	スクールソーシャルワーク実習	2	
教育関連科目群	教育の基礎理論に関する科目のうち、「教育に関する社会的、制度的または経営的事項」を含む科目	教育の制度・経営	2	1科目以上 選択必修
	教育の基礎理論に関する科目のうち、「幼児、児童及び生徒（障害のある幼児、児童及び生徒を含む）の心身の発達及び学習の過程に関する事項」を含む科目	教育心理学 ^{*2}	2	
	生徒指導、教育相談及び進路指導に関する科目	教育相談 生徒・進路指導論	2 2	
	精神保健の課題と支援	精神保健学	2	必修
	児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度	児童福祉論	2	必修

※1 本学では精神保健ソーシャルワーク実習は4年次開講であるため、スクールソーシャルワーク実習との2つを同一年度に履修することはできません。

※2 教職課程における「教育心理学」です。（2020年度：秋学期 金曜日4、5時限目開講）

〈臨床心理学科のみ取得できる資格〉

(4) 認定心理士

認定心理士は（社）日本心理学会が認定する資格で、4年制大学における心理学科またはそれに準ずる課程を修了した人を対象に、心理学の専門家として必要な最低限の学力と技能を修得していると認定された人に対して与えられる資格です。

認定心理士の資格を取得するためには、以下に示す「基礎科目」「選択科目」「その他の科目」を合計して、36単位以上履修し、卒業時、各自で（社）日本心理学会へ申請し認定を受ける必要があります。申請書類の取り寄せおよび作成（現代福祉学部心理領域担当専任教員の確認印が必要）に時間がかかるので、卒業確定後早めに手続するようにしてください。

問い合わせ先：公益社団法人日本心理学会

URL <https://www.psych.or.jp/>

専門演習を資格取得のための科目とする場合、心理学に関するテーマで演習が実施されていることが必要です。認定心理士資格を申請しようとする場合は、事前に演習担当教員に確認しておいてください。心理学をテーマとしない演習を選択した場合は、「基礎科目」、「選択科目」、専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを除く「その他の科目」から必要単位数（36単位）を修得することになります。

区分	領域	現代福祉学部の科目	単位数	備考	
基礎科目	心理学概論 (※a)	★心理学 ★心理学概論	2 2	※aの領域で4単位以上	
	心理学研究法 (※b)	★心理測定法Ⅰ ★心理測定法Ⅱ	2 2	※b・※cの領域を合わせて8単位以上 ただし、最低4単位分は※cの領域の心理学実験・実習の単位	
	心理学実験・実習 (※c)	★心理学基礎実験Ⅰ ★心理学基礎実験Ⅱ	2 2	基礎科目の小計が12単位以上	
選択科目	知覚心理学・学習心理学	★認知心理学Ⅰ 認知心理学Ⅱ ★学習心理学	2 2 2	5領域中3領域が各4単位以上で、かつ、5領域の小計が16単位以上	
	教育心理学・発達心理学	★発達心理学 ★教育心理学 学校心理学	2 2 2		
	生理心理学・比較心理学	精神生理学Ⅰ 精神生理学Ⅱ	2 2		
	臨床心理学・人格心理学	★臨床心理学Ⅰ 臨床心理学Ⅱ カウンセリング 認知行動療法 人格心理学 精神分析学 ★心理療法Ⅰ 心理療法Ⅱ 心理検査法Ⅰ 心理検査法Ⅱ 精神保健学(注意1) 臨床心理実習 精神医学(注意1) 障害者心理学	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		
		社会心理学・産業心理学	★コミュニティ心理学Ⅰ ★コミュニティ心理学Ⅱ 家族心理学 社会心理学Ⅰ(注意1) 社会心理学Ⅱ(注意1)		2 2 2 2 2
高齢者心理学 投映法特論 <2014年度入学者> 専門演習Ⅰ 専門演習Ⅱ 専門演習Ⅲ			2 2 4 4 4		
その他の科目		心理学関連科目・卒業論文・卒業研究	<2015年度以降入学者> 専門演習ⅠA 専門演習ⅠB 専門演習ⅡA 専門演習ⅡB 専門演習ⅢA 専門演習ⅢB	2 2 2 2 2 2	
		備考欄の条件を満たしたうえで、「基礎科目」、「選択科目」及び「その他の科目」の合計36単位以上 ★は本学部が定める、資格取得のための必修科目			
		注意 1. 修得単位数の2分の1のみ認定されます。 2. 専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲは心理学領域を専門とする担当教員の演習のみが単位認定されます。現代福祉学部で心理領域を専門とする専門演習は、小野・金築・久保田・末武・関谷・長山・丹羽・服部・望月の各演習(代講含む)です。			

(5) 公認心理師

公認心理師は、2017年9月に施行された「公認心理師法」に定められた国家資格です。法律に定められた業務内容は、①心理に関する支援を要する者の心理状態の観察、その結果の分析、②心理に関する支援を要する者に対する、その心理に関する相談及び助言、指導その他の援助、③心理に関する支援を要する者の関係者に対する相談及び助言、指導その他の援助、④心の健康に関する知識の普及を図るための教育及び情報の提供、です。

公認心理師になるためには、主に2つの経路があります（公認心理師法第7条第1号及び第2号）。1つ目は、4年制大学において施行規則で定める科目を履修した上で、大学院において施行規則で定める科目を履修し、公認心理師試験を受験する経路です。2つ目は、4年制大学において施行規則で定める科目を履修した上で、施行規則で定める施設で施行規則で定める期間以上の実務経験を積み、公認心理師を受験する経路です。

2017年度以前入学の臨床心理学科在学生在が、公認心理師を取得するには、まず経過措置（公認心理師法附則第2条第1項第3号及び第4号）に伴う厚生労働省が指定する科目12科目以上を卒業までに修得しておく必要があります。厚生労働省が指定する科目と法政大学現代福祉学部臨床心理学科での開講科目の対応表は、学部ホームページに掲載しています。資格取得希望者は、卒業までに要件を満たすよう、計画的に履修してください。

〈両学科で取得できる資格〉

(6) 社会福祉主事（任用資格）

社会福祉主事任用資格は、厚生労働大臣が指定する34科目のうち、3科目以上を履修し、卒業した場合に取得できます。現代福祉学部で開講している科目は、公的扶助論、児童福祉論、高齢者福祉論、地域福祉論、経済学、心理学、社会学等です。

社会福祉主事の任用資格を取得した場合、次のような職場で活躍することが期待されます。

1) 公務員として働く場合

公務員としての社会福祉主事は、福祉事務所や児童相談所などの行政機関が主な職場となります。主に、ケースワーカーとして福祉サービスを必要としている人の相談にのったり、福祉施設への入所手続きなどを職務とします。

2) 民間施設で働く場合

民間福祉施設での社会福祉主事は、主に、老人福祉施設や障害者施設などの生活指導員として活躍します。また、社会福祉協議会の職員として地域福祉の充実にも取り組みます。

(7) 教職課程

①福祉コミュニティ学科

現代福祉学部福祉コミュニティ学科では、以下の免許状を取得するための教職課程認定を受けています。

取得できる免許状の種類（教科）

中学校教諭一種免許状（社会）
高等学校教諭一種免許状（福祉）

免許状を取得するためには、卒業に必要な単位の他に「教職に関する科目」「教科に関する科目」などの所定科目の修得、介護等体験（中学社会科）、ソーシャルワーク実習（高校福祉科）、教育実習等の厳しい条件があります。履修を希望する場合は、必ず年度初めのガイダンスに出席し、他の資格と一緒に取得を考えている場合や複数教科の免許状取得を考えている場合は、十分に検討をしたうえで、特に留意して履修登録を行ってください。

ガイダンスや提出書類については、掲示でお知らせしますので、必ず教職掲示板を確認してください。

2018年度までの入学者は、必ず卒業までに免許状取得に必要な単位をすべて修得するようにしてください。

2019年度より教育職員免許法が改正されるため、教員免許状取得要件が変更となり、新たに科目の追加修得が必要になります。

2018年度までの入学生にはこれまでの法律が適用となりますが、免許状取得に必要な単位を取り切らずに卒業した場合新法が適用となりますので、新たな科目を修得しなければ免許状を取得することはできません。十分ご注意ください。

免許状の種類別に必要な単位数

教職免許状を取得するためには、教育職員免許法により定められた単位数（第1表）と教育職員免許法施行規則に定められた科目（第2表）を修得しなければなりません。

第1表

	基礎資格	介護体験 実習	免許状を取得するためには			合計
			教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	
中学校一種免許状	学士の学位を有すること	必修	31単位以上	20単位以上	※	59単位以上
高等学校一種免許状			23単位以上	20単位以上	※	59単位以上

※「教職に関する科目」＋「教科に関する科目」＝59単位以上であれば履修の必要なし

第1表の単位数を修得するために現代福祉学部で認定を受けた「教職に関する科目」、各教科ごとの「教科に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」については「教職・資格課程履修要綱」（教職・資格ガイダンスで配付）に掲載してありますので確認してください。

第2表

法令に指定された科目	現代福祉学部での科目	単位数
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ	2
外国語コミュニケーション	①英語3、英語5、英語6、英語9のうち2単位以上を選択 ②中国語3A、中国語3B、中国語4A、中国語4Bのうち2単位以上を選択	2以上
情報機器の操作	コンピュータ入門Ⅰまたはコンピュータ入門Ⅱ	2以上

②臨床心理学科

現代福祉学部臨床心理学科では、以下の免許状を取得するための教職課程認定を受けています。

取得できる免許状の種類（教科）

高等学校教諭一種免許状（公民）

免許状を取得するためには、卒業に必要な単位の他に「教職に関する科目」「教科に関する科目」などの所定科目の修得、教育実習等の厳しい条件があります。履修を希望する場合は、必ず年度初めのガイダンスに出席し、他の資格と一緒に取得を考えている場合は、十分に検討をしたうえで、特に留意して履修登録を行ってください。

ガイダンスや提出書類については、掲示でお知らせしますので、必ず教職掲示板を確認してください。

2018年度までの入学者は、必ず卒業までに免許状取得に必要な単位をすべて修得するようにしてください。

2019年度より教育職員免許法が改正されるため、教員免許状取得要件が変更となり、新たに科目の追加修得が必要になります。

2018年度までの入学生にはこれまでの法律が適用となりますが、免許状取得に必要な単位を取り切らずに卒業した場合新法が適用となりますので、新たな科目を修得しなければ免許状を取得することはできません。十分ご注意ください。

免許状の種類別に必要な単位数

教職免許状を取得するためには、教育職員免許法により定められた単位数（第1表）と教育職員免許法施行規則に定められた科目（第2表）を修得しなければなりません。

第1表

	基礎資格	免許状を取得するためには			合計
		教職に関する科目	教科に関する科目	教科又は教職に関する科目	
高等学校一種免許状	学士の学位を有すること	23単位以上	20単位以上	※	59単位以上

※「教職に関する科目」＋「教科に関する科目」＝59単位以上であれば履修の必要なし

第1表の単位数を修得するために現代福祉学部で認定を受けた「教職に関する科目」、各教科ごとの「教科に関する科目」、「教科又は教職に関する科目」については「教職・資格課程履修要綱」（教職・資格ガイダンスで配付）に掲載してありますので確認してください。

第2表

法令に指定された科目	現代福祉学部での科目	単位数
日本国憲法	日本国憲法	2
体育	スポーツ総合Ⅰ・Ⅱ	2
外国語コミュニケーション	①英語3、英語5、英語6、英語9のうち2単位以上を選択 ②中国語3A、中国語3B、中国語4A、中国語4Bのうち2単位以上を選択	2以上
情報機器の操作	コンピュータ入門Ⅰまたはコンピュータ入門Ⅱ	2以上

(8) 図書館司書 (※)

図書館司書とは、図書館法により公共図書館におかれる司書の有資格者のことです。学校や各種団体、会社、研究所などで、文献や資料の収集管理に従事する職員を採用する場合にも、この資格を条件とすることが多くなっています。

(9) 学校図書館司書教諭 (※)

学校図書館司書教諭とは、学校図書館法により定められた資格であり、学校図書館に置かれる専門職員をいいます。司書教諭となるには教員免許状が必要となり、指定された科目を履修する必要があります。

(10) 社会教育主事 (※) (任用資格)

社会教育主事は、都道府県・市町村などの地方公共団体にある教育委員会事務局職員のうち、社会教育行政の中心的存在として、専門的・技術的な指導と助言を与える専門的職員です。

(11) 博物館学芸員 (※)

博物館学芸員は、博物館の専門的職員で、博物館資料の収集・保管・展示・調査・研究をつかさどる専門的職員で、博物館法に基づいて認定を受けた登録博物館または博物館相当施設の専門職員です。

(※) 印のついた資格を取得するには

(※)印のついた資格を取得するためには、現代福祉学部での学習とは別に、資格に関する授業科目(資格課程)を履修することになります(学部の授業料とは別に受講料が必要な科目があります。)授業科目の一部については市ヶ谷キャンパスで開講されているものもあります。履修を希望する場合は、「教職・資格課程履修要綱」をよく読んで、履修登録を行ってください。資格課程の授業は2年次から履修することができます。

教職課程に置かれた科目の一部は1年次から履修できます。履修を希望する場合は、4月初めに行われる教職課程ガイダンスに出席し、配付される「教職・資格課程履修要綱」をよく読んで、履修登録を行ってください。他の資格と一緒に取得を考えている場合や複数教科の免許状取得を考えている場合は、十分に検討をしたうえで、時間割に注意して履修登録を行ってください。

IV. 研修・海外留学・英語プログラム

■現代福祉学部における特別制度……P. 133

■海外留学……P. 134

■英語力を磨くプログラムや相談窓口…P. 136

1. 現代福祉学部における特別制度

現代福祉学部では、カリキュラムの他にも学外の福祉現場や実社会を肌で感じ、実体験を通じて問題意識を高めることは重要であると考えています。国内外の大学や施設と連携し、豊富な研修の機会を提供できるようにしています。詳細は掲示でお知らせしますので、関心のある学生は掲示に注意してください。

■海外研修

2年次の夏期休暇中に実施される現代福祉学部独自の研修制度です。海外の福祉や地域づくり・心理に関わる施設を訪れ、現地のまちづくりや文化を学びます。福祉・地域づくり・心理の先進国における見学や研修は現代福祉学部における学習に大きく役立つこととなるでしょう。参加者は選抜により決定します。なお、参加者には負担が少なくなるよう奨励金を給付します。

■国内研修

学生から提出された企画に対して補助金を給付する制度です。事前の計画（プランニング）から実施（マネジメント）まで、授業で得た知識を実際のフィールドで確かめてみるすることができます。（年2回募集）

■課外講座

福祉、臨床心理、地域づくりの現場で先進的な試みを行っている方を招いて課外講座を実施します。カリキュラムから離れて最新の動きについて学ぶことができます。

2. 海外留学

(1) 法政大学派遣留学制度

本学では、国際交流の一環として、本学学生に奨学金を給付し、海外の協定大学に派遣しています。この制度による留学では、生活費の補助として、1年間の留学で70～100万円、半期の留学で35～50万円の奨学金を支給^{*}するほか、派遣先大学の授業料は全額免除（留学年度の本学への授業料は本人負担）となります。また、派遣先で取得した単位は、審査の上30単位を上限として帰国後本学の卒業所要単位に認定されます。募集概要は次のとおりですので、奮って応募してください。募集及び選考試験は、春学期入学（オーストラリア、韓国）は5～6月、秋学期入学（オーストラリア、韓国以外の全大学）は10月～11月に実施されます。なお、詳しい内容はグローバル教育センター国際交流課発行の募集要項またはグローバル教育センターのHP（<http://www.global.hosei.ac.jp/>）で確認してください。

※ 奨学金の一部（1年間：20万円、半期：10万円）は本学後援会から助成されています。

◆出願資格

- ①出願時に本学の2年次、または3年次に在籍している学部生（留学時は3・4年次）。
- ②応募年度及び留学年度に休学していないこと。
- ③出願時直近のセメスターまでを通算した成績評価係数（GPA）が2.30以上であること
- ④英語圏はIELTS 6.0以上もしくはTOEFL®iBT 71以上を条件とし、派遣先で異なる。
- ⑤英語圏以外は、各言語による正規課程の授業を受講するにふさわしい語学能力を有する者（言語圏により所定の資格・スコアが必要）。

◆派遣先授業料

全額免除（ただし、留学年度の本学への学費は本人負担）

◆単位認定

派遣先で修得した単位は、各教授会で審議の上、30～60単位を上限として帰国後、本学の卒業所要単位に認定されます。

◆派遣留学先

派遣先については、募集要項（春学期派遣留学：毎年2月発行、秋学期派遣留学：毎年7月発行）とグローバル教育センターWebサイトにてご確認ください。

(2) 認定海外留学

希望する留学先大学（学位授与権を有する正規の4年制高等教育機関）から入学許可を得て本学に申請し、所属学部での審査を経て留学する制度です。認定海外留学を対象とした奨学金制度としては、「開かれた法政21・認定海外留学奨学金」（応募選考制）、「グローバルキャリア支援基金による海外留学支援奨励金」および「法政大学後援会認定海外留学奨学金」があります。詳しくは、グローバル教育センター国際交流課発行の募集要項またはホームページ（<http://www.global.hosei.ac.jp/>）で確認してください。

(1) 資格

- ①学業成績が優秀で留学目的及び計画が適切であること。
- ②申請時に、2・3・4年次に在籍している本学の学部学生。編入生は申請時、学位の取得を目的として本学に1年以上在籍している者。申請時に休学、あるいは留学年次に学部SAプログラムに参加している場合は申請できない。
- ③留学希望大学からの入学許可書を得ている者、または得る見込みのある者。
- ④留学先大学における履修課程が下記のいずれかに該当する者。
 - a) 十分な語学力を有し、海外の大学における正規課程を履修できる者【正規課程入学】
 - b) 留学先大学付置の語学プログラムを受講の上（当初の1学期目のみ）、正規課程を履修できる見込みがある者【条件付入学】

(2) 条件

- ①正規の高等機関で学位授与権のある大学において科目履修をすること。
- ②海外の大学において正規課程の授業を履修し、単位を修得することが目的であること。
- ③留学期間は1ヵ年か半期。半期の場合は、条件付き入学は不可。（留学期間は本学における修業年限に含まれる）
- ④留学年次の本学学費は所定期日までに納入すること。
- ⑤留学にかかる全ての経費は本人の負担となる。※4年次秋学期入学での留学の場合、5年目の本学学費も本人の負担となる。
- ⑥留学に関するすべての手続きは本人が行うこと。

※協定校であるボイシー州立大学とミネソタ州立大学マンケート校への認定海外留学については、国際交流課を通じて手続きを行います。

(3) 単位認定

留学先大学で取得した単位は、帰国後所属学部教授会で審査の上、30単位を上限に本学の単位として認定されます。

(4) 申請の提出期限

	春入学	秋入学
申請手続	留学前年度 12月中旬	留学年度 5月末

3. 英語力を磨くプログラムや相談窓口

(1) 短期語学研修

グローバル教育センターが主催している集中語学研修です。夏季休暇中と春季休暇中に、英語をはじめとした外国語の語学力の強化のため、2週間から4週間程度の短期語学研修を実施しています。研修先は本学の海外協定校に付置された語学研修施設で、習熟度別にクラス編成がされるなど、初めて海外に行く方にもお勧めの研修制度です。

プログラム内容は各研修先によって異なりますが、週20～25時間の学習と文化体験などが含まれています。詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

(参考：実施実績)

2019年度夏季（2019年8～9月）

派遣先	協定校	実施期間	研修言語
マレーシア	Asia Pacific University of Technology and Innovation	約4週間	英語
マレーシア	UCSI University	約4週間	英語
アメリカ	Portland State University	約3週間	英語
カナダ	University of Victoria	約3週間	英語
中国	北京語言大学	約4週間	中国語
台湾	淡江大学	約3週間	中国語
韓国	建国大学	約3週間	朝鮮語
オーストリア	ウィーン大学	約4週間	ドイツ語
フランス	サンテティエンヌ大学/グルノーブル大学（応募者なし）	約4週間	フランス語

(独) 日本学生支援機構 (JASSO) の海外留学支援制度 (協定派遣) 奨学金の支給対象

2019年度春季（2020年2～3月）

派遣先	協定校	実施期間	研修言語
マレーシア	Asia Pacific University of Technology and Innovation	約4週間	英語
マレーシア	UCSI University	約4週間	英語
アメリカ	Portland State University	約4週間	英語
カナダ	University of Victoria	約4週間	英語
中国	北京語言大学	約4週間	中国語
台湾	淡江大学	約2週間	中国語
韓国	建国大学	約2週間	朝鮮語
フランス	サンテティエンヌ大学/グルノーブル大学（応募者なし）	約4週間	フランス語

(独) 日本学生支援機構 (JASSO) の海外留学支援制度 (協定派遣) 奨学金の支給対象

(2) 国際ボランティア

グローバル教育センターが主催している「国際ボランティア」プログラムです。夏季休暇と春季休暇中の3週間程度、派遣先で必要としている活動詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

(3) 国際インターンシップ

グローバル教育センターが主催している「国際インターンシップ」プログラムです。夏季休暇中と春季休暇中の1週間～4週間程度、海外企業やNGO団体でのインターンシップを通じて、グローバル環境での働き方や企業文化の違いを学びます。将来的には、グローバル企業への就職など学生のキャリア形成支援につなげることを目的としています。プログラムにより、派遣地域、派遣期間が異なります。詳細はグローバル教育センターホームページにて確認してください。

<2019年度夏季(2019年8～9月) 募集プログラム事例>

派遣国	プログラム	期間	共催団体	単位認定
フィリピン	国際協力NGOインターンシップ	約3週間	GLMi	対象
ルーマニア	公共・市民・民間セクターインターンシップ	約4週間	UBB	対象
ベトナム	国際ビジネスインターンシップ	約4週間	FPT 大学	対象

<2019年度春季(2020年2～3月) 募集プログラム事例>

派遣国	プログラム	期間	共催団体	単位認定
アメリカ合衆国	日本語教育インターンシップ	約4週間	ベイラー大学	対象
ミャンマー	国際協力インターンシップ	約4週間	SVA	対象
中国	日本語教育インターンシップ	約3週間	安徽三聯学院	対象
紀伊國屋書店	国際ビジネスインターンシップ	約1週間	紀伊國屋書店	対象ではない

(4) 単位認定について

各学部の定めにより、グローバル教育センター設置科目受講者に対しては単位が認定される場合があります。認定科目、認定単位数の詳細については各学部窓口にご確認ください。なお、「短期語学研修」「国際ボランティア」「国際インターンシップ」の単位認定は、プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）に行うこととなりますので、4年生の最終学期については、単位認定ができません。また、国際ボランティア、インターンシップについては、すべてのプログラムが単位認定の対象とはなりませんので注意してください。

単位認定を希望する場合、プログラムに参加した次学期（夏季参加の場合には当該年度秋学期、春季参加の場合には翌年度春学期）の所定期間内に、所属学部の担当窓口（事務課）にて履修登録の申請手続きを行ってください。Webでの履修登録ではなく、各担当窓口（事務課）での申請が必要になります。

(5) 交換留学生受入れプログラム（ESOP）の受講

本学の国際化の発展に向けて、これまでに交流を深めてきた海外の協定大学から広く交換留学生を受け入れるために開設されたプログラムで、日本の社会・経済・文化などについて全て英語によるゼミ形式で学びます。交換留学生とともに本学の学生も受講でき、多くの学部で単位認定もされます。語学能力を向上させ、国際的センスを磨くためにも有意義で、将来海外留学や海外勤務など国際化社会にはばたくことに役立つでしょう。交換留学生と切磋琢磨し、国際交流の輪を広げることを目的とする学生の積極的な参加を期待しています。単位認定を希望する方は、所属学部を確認後、グローバル教育センターウェブサイトより申し込みが必要ですので、必ず確認してください。申込方法など詳細はグローバル教育センターウェブサイトにて確認してください。講座は全て市ヶ谷キャンパスで開講されます。

(6) グローバル・オープン科目の概要

法政大学が「世界のどこでも生き抜く力を身につけたグローバル社会のリーダー」を育成するために2016年度から全学で開講されている学部横断型の科目群です。

本プログラムは、文部科学省の「スーパーグローバル創成支援事業」の一環であり、その事業の教育目的である「持続可能な地球社会の構築に貢献できるグローバル人材を育成する」を具現化する教育プログラムの一つです。このプログラムでは、すべての科目は英語を教授言語としています。各学部で定められた科目履修要領に基づき、このグローバル・オープン科目を履修することにより、学部の専門性を超えたグローバルな視点での課題解決能力を修得することを目指します。

各科目は配当年次等によりレベル分けがなされており、各自の習熟度によって履修することができます。また、多くの科目が少人数で開講されるのが特長です。

(1) グローバル・オープン科目実施学部

すべての学部で実施。

(2) 履修年次

グローバル・オープン科目は、1年次から配当されていますが、科目により履修年次がそれぞれ設定されているため、履修時に十分に留意してください。

(3) 登録単位の上限と単位の扱い

グローバル・オープン科目の修得単位は多くの学部で卒業所要単位として決められた単位数まで加算されます（下表参照）。単位認定に関する詳細や卒業進級の要件については、必ず各学部の「履修の手引き（履修要綱）」等で確認してください。履修登録時には他の専門科目と同様に年間履修の上限単位数に含まれます。

法	自由科目	認定される自由科目全体で 20 単位以内
文	学科で異なるため、履修の手引き・掲示板で確認すること	
経営	連環科目	認定される連環科目全体で 20 単位以内
国際文化	自由科目	認定される自由科目全体で 18 単位以内
人間環境	自由科目	認定される自由科目全体で 20 単位以内
キャリアデザイン	自由科目	認定される自由科目全体で 16 単位以内
G I S	学部外科目	2016 年度入学から適用（履修の手引き参照）
デザイン工	卒業所要単位外の科目として年間履修上限単位内で認定	
経済	自由科目	上限なし（但し認定される単位数の上限は、経済学科 20 単位以内、国際経済学科 16 単位（12 単位）以内、現代ビジネス学科 16 単位（18 単位以内） 注：（ ）内は 2016 年度以降入学生
社会	自由選択科目	1～4 各年次で 4 単位以内
現代福祉	自由科目	認定される自由科目全体で 20 単位以内
スポーツ健康	視野形成科目	16 単位以内
理工	公開選択科目	2016 年度入学生から適用。認定される公開選択科目全体で 12 単位以内 注：創生科学科のみ 20 単位以内
情報科学	自由科目	卒業所要単位外で上限なし
生命科学部	2017 年度より自由選択科目で上限 4 単位認定	

(4) 登録方法

下記 (5) 注意事項 **(重要)** を読んで、各学部の「履修の手引き（履修要綱）」で内容を必ず確認し、他の科目と同じように定められた期間内に履修登録してください。

(5) 注意事項 **(重要)**

- ・開講校地は、原則として、各科目の主催学部等の所在地となります。
- ・初回授業に必ず参加し、担当教員から履修許可を受けてください。定員のある授業では、選抜が行われる場合があります。
- ・秋学期科目については、春学期に履修登録の意思を教員に表明し、履修許可を予め得る必要のある科目があります。春学期のうちに担当教員に申し出て、履修許可の有無を確認してください。なお、秋学期科目の履修許可を得ないで春学期に登録した場合、履修を取り消される場合がありますので、十分に留意してください。
- ・秋学期が最初のセメスターとなる秋季入学生や交換留学生は、秋学期開講時には、その年度の春学期に履修することが前提となる科目があるため、第一セメスターに履修できない場合があります。シラ

バスを丁寧に読み、誤って初回授業に出席することがないように留意してください。

- ・開講曜日・時限・教室等に変更がある場合や、レポート提出、試験等の情報は、開講学部の掲示板に掲示されますので、ご注意ください。
- ・他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限がある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。
- ・講義のテーマについてある程度の予備知識を必要とする科目もあります。初回授業前にシラバスを必ず読んで授業に臨んでください。
- ・国際文化学部およびグローバル教養学部(G I S)主催科目の履修については、一定の英語の英語能力基準が必要です。詳しくはグローバル教育センターホームページでご確認ください。

(7) グローバル・オープン科目の領域と修了証について

「ビジネス&マネジメント」「ビジネス&エコノミクス」「国際関係」「社会と文化」「科学・技術」の5領域に加え、教授言語である英語運用能力を高める「実践英語」領域が用意されています。各領域を体系立てて学ぶことにより、所属学部の科目で修得した専門性を活かしながら、学問分野を超えた高度な知識とグローバルな視野から幅広い知識を身につけることが可能となります。また、6つある領域のうち1つの領域内で、12単位以上修了した方には、所定の申請により「修了証」が発行されます。

<修了証の申請から受領までの流れ>

春学期	秋学期	内容
5月	12月	グローバル・オープン科目修了証発行申請案内の告知
6月	1月	修了見込の学生本人が所定手続きで申請
8月	3月	申請内容および最終成績の確認
8月末	3月末	グローバル教育センターから申請者への結果報告
9月	4月	修了証の発行・受領

<6つの領域について>

◆領域1：「ビジネス&マネジメント」

グローバル化によって日本国内で完結するビジネスはないといっても過言ではありません。今日のビジネスを理解するには、経営戦略、人材・組織、マーケティング、会計、ファイナンスなど経営管理の基礎的知識のほか、国際経営、イノベーション、グローバル・マーケティング、国際会計といった新しい分野を学ぶことが必要です。

この領域では、多様なグローバル・ビジネスの現状に触れ、社会に貢献してゆくための基盤能力を養い、海外進出やグローバル・ブランド構築を考察する機会を提供します。中級・上級科目を進むに従い、ビジネス・モデリングやビジネス実践に関するスキルも学べる、卒業後のキャリア形成に役立つ科目を用意しています。

◆領域 2 : 「ビジネス & エコノミクス」

リーマンショックから始まった世界金融危機は日本企業の活動にも大きな影響を与え、中国経済の減速懸念は今後の日本企業のビジネス戦略を変えようとしています。

この領域では、経済学のコンセプトを用いて、グローバルに展開する企業活動の現状や、国際競争力を持ったビジネスの可能性について考える力を身につけます。導入科目では、世界経済の中の日本について歴史的な視点も入れながら学ぶとともに、ビジネス・コミュニケーションの実践的な基礎を学びます。中級・上級科目では、経済学や国際経済の基礎理論とともに世界の地域研究について学び、また、さらに進んだビジネス・コミュニケーションのスキルを学ぶとともにビジネスの研究を深めていきます。

◆領域 3 : 「国際関係」

グローバル化が進む今日の国際社会では、各国の政治、経済、文化、宗教的問題が国境・地域を越えて伝播することによって、武力紛争、テロ、経済危機、難民、大規模自然災害といった問題が世界各地で連鎖的に発生しています。

この領域では、こうした複雑化を増す国際社会の仕組みや諸問題に対する理解を深めるために、伝統的な国際政治学だけでなく、国際政治経済学や国際法学、外交政策論、政治学、社会学等、様々な視点から学際的研究を行います。将来、国際機関や国際 NGO、その他グローバル企業での勤務を希望する方に推奨したい科目です。

◆領域 4 : 「社会と文化」

グローバル社会の多様な課題を解決するためには、異文化理解、文学、歴史、思想、宗教、心理学、言語学などの学びを通して、文化や価値観の相違を認識することが重要であると考えられます。

この領域では、グローバル・オープン科目群の中で最も多くの科目数を集め、所属学部の特長分野以外にも目をむけ、グローバルリーダーとして活躍する人材に必要なとされる知識をより広く学び、上記の認識を培う場を提供しています。

◆領域 5 : 「実践英語」

ツールとしての英語を鍛え、様々な場面に応じて相手の発言に傾聴しながら自らの主張を伝え、理解を求められるような、英語運用能力をつけることはグローバル社会で活躍することを希望している学生にとって必須であることは言うまでもありません。

「実践英語」領域では、学部を越えて、より実践的な英語能力を磨くことのできる場を提供します。少人数で開講される授業を通じて、プレゼンテーションや語彙力の強化をはじめ、英語によるコミュニケーション能力をさらに身につけたい方にお勧めします。

◆領域6：「科学・技術」

社会のグローバル化が急速に進むなか、特に科学・技術分野は日進月歩の急激な進展を示しています。本領域ではこのような変化の激しいグローバル化に対応し、理工系学部にて在籍する学生が、世界を舞台に活躍できる基礎を築くための科目群を用意し、英語の講義受講によるグローバル体験とともに、横断的に専攻以外の理工学分野の概要を知り、幅広い知識の習得、問題解決能力を涵養することをめざします。また、金融工学、情報科学、生命・健康科学など、理工系分野を含む境界領域に興味を持つ文系学生にも履修可能な入門的科目を用意しました。

(8) ERP (English Reinforcement Program/英語強化プログラム)

文部科学省「スーパーグローバル大学創成支援」採択事業の一環として、英語学習に対して高い意欲のある学生を対象にした ERP (英語強化プログラム) が開講されています。授業はすべて英語イマージョン環境による少人数クラスで行われ、英語力を高めたいと考えている学生、海外留学や国際機関・国際企業への就職を考えている学生に受講を勧めます。

なお、現代福祉学部では以下のとおり単位の認定を行います。

①プログラム概要

- a. 授業形態：英語による少人数授業
- b. 内 容：英語4技能 (listening, speaking, reading, writing) の養成および統合を中心とした内容
- c. 履修レベル：

	CE 1	CE 2	CE 3
TOEFL iBT®	45-51	52-60	61 以上
TOEFL ITP® Level 1	450-469	470-499	500 以上
TOEFL ITP® Level 2	450-469	470-499	500
TOEIC®/TOEIC IP®	550-549	550-624	625 以上
IELTS	5.0	5.5	6.0 以上
英検® CSE2.0	2 級合格かつ 2200 以上	準 1 級合格かつ 2304-2399	準 1 級合格かつ 2400 以上
英語プレイスメントα (ELPA)	640-689	690-729	730 以上

- d. 実施期間：春学期・秋学期
- e. 実施校地：市ヶ谷、多摩、小金井
- f. 対象学生：全学部・全学年
- g. 受講資格：受講申し込み時に、希望するレベルに応じた TOEFL®, TOEIC®, IELTS、英検®CSE2.0、または英語プレイスメントα (ELPA) の所定のスコアを提示できる者。(過去2年間以内)

に取得したもの)

※入学直後に行われる英語語学試験のスコアを利用できます。詳しくはERP募集要項をご確認ください。

- h. 定員：受講希望者が定員を上回った場合、抽選となることがあります。
- i. 受講料：無料（教材費が別途かかります。）
- j. 受講申込：専用ウェブサイトにて受付

②手続方法

a. 募集・受講許可：

春学期、秋学期に分けて募集されます。詳細は各キャンパスGラウンジまたはグローバル教育センターのウェブサイト <http://www.global.hosei.ac.jp> にて確認してください。受講希望者が定員を上回った場合、抽選となることがあります。

b. 科目登録（※単位認定を希望する場合のみ）

単位認定希望者は履修登録申請期間（秋学期科目は登録変更期間）終了までに必ず現代福祉学部事務課に申し出てください。

③受講にあたっての注意【重要】

- a. 原則として受講決定後のキャンセルはできないので、無理のない受講計画を立て、毎回出席すること。
- b. 体調不良などやむを得ない理由で授業を欠席する場合は、必ず各キャンパスGラウンジにメールまたは電話で連絡すること。
- c. 複数回連続で無断欠席した場合は受講意思確認のため、Gラウンジから電話またはメールで連絡することがあります。
- d. 授業実施日は、学年暦の授業期間に準じます。各キャンパスGラウンジで授業実施日を確認することができます。
- e. 毎回出される課題に取り組んだうえで授業に出席すること。

④単位の認定について

a. 単位認定対象授業

ERP CE1/CE2/CE3（半期1単位）

b. 認定科目 卒業所要単位「公開科目」として認定する。

※公開科目は3、4年生対象ですが、ERP科目のみ、1、2年生の履修を可とします。

c. 認定上限単位 年間履修上限を8単位、卒業までの履修上限を16単位とします。

d. 履修年次 1～4年次

e. その他

(a) 追試験・再試験の対象としない。

(b) 応募に際しては、通常の現代福祉学部の科目登録に余裕のある時間帯で選択し、各自計画的な時間割を作成すること。

(c) 他キャンパスの授業を受講する場合には、同一曜日に自学部の授業を受講できない等制限が

ある場合があるため、各学部の履修の手引き（履修要綱）で確認してください。

(9) 多摩Gラウンジ（総合棟地下1階）

Gラウンジは外国語コミュニケーション空間として、市ヶ谷（大内山校舎2階）、多摩（総合棟地下1階）、小金井（管理棟4階）の3キャンパスに設けられています。

正課授業実施日のうち月・火・木・金の1日3時間（12：30－15：30）、Gラウンジには英語ネイティブスピーカーである「英語学習アドバイザー」が在室しており、英語で話してみたい、英語の上達方法を教わりたい、海外の文化を知りたい、など学生の皆さんの様々な希望に対応しています。Gラウンジで行う様々な企画や活動については自由に参加ができます。各種企画についてはGラウンジで確認してください。

また、ERP（英語強化プログラム）、英会話講座、語学試験対策講座、また国際ボランティア・国際インターンシップの窓口となります。

[多摩Gラウンジ担当]

◇場 所 総合棟地下1階

◇開室時間 月・火・木・金 9：00～17：00（休憩11：30～12：30）

◇連絡方法 TEL：042-783-3018 E-mail：tglounge@ml.hosei.ac.jp

◇ホームページ http://www.global.hosei.ac.jp/programs/oncampus/g_lounge/

(10) 多摩事務部学務課グローバル担当（総合棟地下1階）TEL 042-783-2130

時間：平日 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）（土曜閉室）

取扱業務：

- ・外国人留学生に関する業務
- ・海外留学一般（法政大学派遣留学制度、認定海外留学制度含む）に関する相談・情報提供
- ・その他国際交流に関する各種情報提供 など

* 各種留学制度の詳細については、以下のURLを参照してください。

法政大学グローバル教育センターWebサイト

URL： <http://www.global.hosei.ac.jp/>



V. 卒業後の進路に向けて

- キャリアセンター……………P. 147
- 高度会計人育成センター……………P. 148
- 公務人材育成センター……………P. 148
- エクステンション・カレッジ……………P. 149
- 大学院への進学……………P. 150

(1) キャリアセンター（総合棟2階）TEL：042-783-2171

将来の職業を充実したもの、やりがいを感じられるものにできるかどうかは、学生の皆さん一人一人が1年生からの大学生活をどう過ごすかによって大きく左右されます。充実した大学生活を送った学生は、4年間の経験を通して大きく成長し、自信を持って社会への一歩を踏み出すことができるでしょう。逆に3年生になって就職活動だけをどんなに頑張ってみても、良い結果にたどり着くことは難しいでしょう。

キャリアセンターでは、将来社会人として活躍することになる皆さんを対象としたさまざまなプログラムを用意しています。学部での学びと合わせて受講することで、大学生活を充実させるヒントをつかむことができるでしょう。特に新入生の皆さんは、低学年向け講座から段階的に受講することにより、就職活動開始までに自分のキャリアをデザインする力を身に付けることができるかもしれません。

どうぞキャリアセンターを積極的に活用して、充実した大学生活を送ってください。

キャリアセンターが主催する低学年向け講座の紹介

- キャリアデザイン論（春学期正規授業科目）
- 低学年対象キャリアガイダンス（1～2年生対象）
- インターンシップ関連行事（1～3年生対象）

※キャリアデザイン論についてはシラバスを、その他の各種支援行事・対策講座については、キャリアセンターホームページ等を参照してください。

LINE公式アカウントからの情報配信も行っています。友達追加はこちら→



キャリアセンターでできること

- キャリア・就職活動に関する個別相談
- 卒業生による就職活動体験記の閲覧（申請不要）
- 就職関連図書の閲覧・貸出
- 学生サポーターによる個別相談（秋学期）
- インターンシップ情報の閲覧
- OB・OG情報の閲覧（申請必要）
- 求人情報の閲覧

キャリアセンター、キャリアカフェ開室時間

- 月・水・木・金 9：00～17：00

（相談受付は9：00～11：00、
12：30～16：00）

- 火 12：30～17：00

（相談受付は12：30～16：00）

※混雑時は、相談受付時間を繰り上げて終了することがあります。

- 土曜日（予約制）9：00～12：00

※土曜日はOB・OG情報の閲覧申請を行っていません。

- 日曜日・祝日 閉室



(2) 高度会計人育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階）

高度会計人育成センターでは、公認会計士等の会計専門職をめざす学生を支援するため、キャンパス内で「会計専門職講座」(*)を開講しています(市ヶ谷・多摩)。

※学内では、HAPP (Hosei Accounting Profession Program : ハップ) の呼称を用いています

◆会計専門職講座とは

会計専門職講座は、公認会計士、税理士、日商簿記検定等の簿記・会計関係の試験合格者を養成することを目的として設置されています。発足は1967年に遡り、これまで公認会計士をはじめとする多くの職業会計人を輩出してきた、誇りと伝統ある講座です。毎年、両キャンパス合わせて約300名が学んでいます。

【特徴】

- ①高い目標を持つ学生が、切磋琢磨しながら勉強に励んでいます。共に学ぶことで良い刺激を受け、一層勉強に身が入ります。
- ②まずは簿記を徹底的にマスターします。会計資格教育のプロフェッショナル講師が、分かりやすい教材を使用しながらきめ細かく指導します。
- ③学外の専門学校で学ぶよりも費用が安く、大変経済的です。

*講座の詳細は、ガイダンス、パンフレットでご確認ください。

◆高度会計人育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階 キャリアセンター内）

受付時間 月・水・木・金 9:00～17:00 (11:30～12:30を除く) /

火 12:30～17:00 / 土 9:00～12:00

TEL 03-3264-9330 E-mail contact-a@ml.hosei.ac.jp

(3) 公務人材育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階）

公務人材育成センターでは、公務員を志望する学生を支援するため、キャンパス内で「公務員講座」を開講しています(市ヶ谷・多摩・小金井)。

◆公務員講座の特徴

- ①学年に応じた講座内容
- ②キャンパス内で講義を実施
- ③低価格の受講料
- ④講師による相談コーナー、Web視聴による欠席・復習フォロー等、充実したバックアップ体制
- ⑤公務員として活躍している卒業生による協力(講演会、相談会等)

◆2020年度開講講座

【公務員入門講座】(受講可能学年:1年生/開講期:春季休暇中)

公務員試験の教養試験では、「数的処理」という特有の科目が出題されます。出題数も多く、教養試

験における最重要科目となっています。

入門講座は、多くの受験者が苦手とするこの「数的処理」に早めに慣れることを目的として、春季休暇中、集中的に取り組みます。

【公務員基礎講座】（受講可能学年：2年生／開講期：夏季休暇中～春季休暇中）

基礎講座では、公務員試験の主要な教養科目（数的処理）および専門科目（憲法・民法・政治学・経済原論）について、基礎から体系的に学習します。2年次終了時点で、地方上級・国家一般職試験に対応可能なレベルまでの向上をめざします。

【国家・地方公務員上級職対策講座】（受講可能学年：3年生／開講期：年間）

国家公務員試験・地方公務員上級職試験で出題される科目の知識を習得し、それを実践力に変えていきます。各試験における科目の重要度や時間配分、効率良く得点するための具体的な戦略・受験方法等についても解説します。

4年次の公務員試験受験まで支援し、人物試験（2次試験）対策として、模擬面接会、模擬集団討論を行います

※講座の詳細については、ガイダンス、パンフレットでご確認ください。

◆公務人材育成センター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階 キャリアセンター内）

受付時間 月・水・木・金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）／

火 12：30～17：00／土 9：00～12：00

TEL 03-3264-6285 E-mail koumujinzai@ml.hosei.ac.jp

（4）エクステンション・カレッジ（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階）

エクステンション・カレッジでは、学生の皆さんのキャリアアップを支援するため、各種専門学校での開講講座を特別割引価格で受講できるようにしています。（割引提携）

※開講講座の詳しい内容は、キャンパス内に設置のパンフレットでご確認ください。

※キャンパス内では開講しません（専門学校への通学等）

◆キャリアセンター（市ヶ谷キャンパス外濠校舎2階）

受付時間 月・水・木・金 9：00～17：00（11：30～12：30を除く）／

火 12：30～17：00／土 9：00～12：00

TEL 03-3264-6243 E-mail help@hosei.ac.jp

(5) 大学院への進学

人間社会研究科は、現代福祉学部を基礎として多摩キャンパスに設置された大学院です。本研究科は、地域社会を基盤に人間の「生」(Life)をトータルに捉え、生活者の視点からすべての人々が生涯を通じてウェルビーイングの実現を図る福祉社会を創造するために、コミュニティと人間の心を視野に入れた臨床系の研究科です。

①修士課程

修士課程（2年）には、社会福祉と地域創造を統合した「福祉社会専攻」（定員15名）と臨床心理士の養成を目指す「臨床心理学専攻」（定員15名）の2専攻があります。

②博士後期課程

博士後期課程（3年）には、修士課程の福祉社会専攻と臨床心理学専攻を統合した「人間福祉専攻」（定員5名）があります。研究者としての進路や高度な専門性を有する職業人を目指す場合には、大学院への進学が必要となります。

★入試日程および試験科目は、『法政大学大学院 人間社会研究科2020年度入学試験要項』で必ず確認してください。また、学内選抜については、出願資格（学部での成績、履修科目など専攻によって異なる）や選抜方法についての説明会がありますので、必ず出席してください。詳細は掲示にてお知らせします。

VI. 学生生活・大学での諸手続

■現代福祉学部事務課……………P. 153

■他の学生関連事務部局等……………P. 164



1. 現代福祉学部事務課

主な取扱業務

次の現代福祉学部に関する事務は、現代福祉学部事務課（学部棟1階）で取り扱います。

- (1) 授業実施に関すること
- (2) 履修科目単位修得に関すること
- (3) 試験の実施、成績の発表
- (4) 各種証明書、学割、通学証明書の発行
- (5) 学生証の再発行
- (6) 学籍（入学、卒業、転籍、転部、休学、退学、復学、除籍等）に関すること
- (7) 学部棟内の教室貸与に関すること
- (8) 学部棟内の拾得物の受付

開室時間

月曜日～金曜日 9：00～11：30、12：30～17：00

土曜日 9：00～12：00（夏季休業中は休業）

※平日の11：30～12：30は昼休みのため、事務課は開室しません。なお、証明書自動発行機のみ利用可能です。

連絡事項のお知らせ方法

学生のみなさんに対する連絡事項は、原則としてすべて「掲示板」により発表します。**電話やメールによる問い合わせには、間違いの原因となるので応じられません。**授業や試験などの重要な事項について見落とし、見誤りなどにより不利益が生じないよう、登下校時には必ず掲示板を確認してください。

また、一部重要なものに限り、大学HPの現代福祉学部ページにも現代福祉学部事務課からのお知らせを掲載することがあります。大学HPの「在学生の方へ」→「現代福祉学部」にアクセスしてください。（すべてのお知らせを掲載するものではないので注意してください。）

保証人の方へのご連絡

成績不振や長期に亘って欠席されている学生については、教員が面談を行うことがあります。面談実施にあたり、学生本人と連絡がとれない場合は保証人へ連絡することがあります。

個人情報の保護

現代福祉学部事務課では「法政大学個人情報保護規程」に基づき、教員、学生の住所や電話番号を公表していません。

学生証について

学生証は、身分を証明する大切なものです。常時携帯し、本学の教職員の請求があった場合、提示しなければなりません。特に試験や諸手続きの際には必ず提示してください。

①学生証の更新

1年留級生及び2～4年次生は、入学時に指定した学費納付書送付先へ学費納付書とともに、4月上旬に学生証裏面シールを郵送します。各自、学生証の裏側にある前年度シールをはがし、送付された新年度のシールを貼付することにより、学生証を更新してください。

②学生証を紛失・破損した場合（再発行）

学生証を紛失・破損した場合は、現代福祉学部事務課に届け出て、再発行の手続きをしてください。再発行は現代福祉学部事務課で行います。再発行の手数料は2,000円となります。再発行をしないと試験を受験することができず、進級後の学生証の更新や卒業時の学位記の交付ができなくなりますので、すみやかに手続きをしてください。

③学生証の磁気について

学生証は磁気ストライプカードとなっています。証明書自動発行機、図書館、スタディールームなどの利用には学生証が必要となりますので常に携帯するようにしてください。

なお、携帯電話やスピーカー、磁石留め具など強い磁気を発する物に近づけることで磁気が弱まる場合がありますので保管には十分注意してください。万一、磁気が弱まった場合には再度、磁気データの書き込みを行いますので、所属する学部窓口に申し出てください。

学籍について

学生カードと誓約書を基に作成された学籍簿は、大学において永久保存されます。学籍とは、みなさんが法政大学に所属している、あるいは所属していたという正式な根拠となるものです。

所属学部・学科・クラス・学生証番号など学籍に関する事項は学生証に表記しています。

①学生証番号

学生証番号は、入学から卒業まで同じ番号であり、休学・留級などをしても変わりません。授業の出席カード・各種書類の提出時・試験の受験など学生証番号の記入が必要な場合は記入ミスがないよう注意しましょう。

②クラス

クラスは原則として変わらないものですが、転科・復学など学籍を異動する場合は変更することがあります。その場合は個別に連絡します。基礎演習Ⅰ・Ⅱなどクラス指定授業もあるので注意しましょう。

学籍の異動

長い学生生活の中では、学籍の異動が発生する場合もあり得ます。次の項目をよく読んで、該当する場合は間違いがないよう、手続きをとってください。

①休学

病気その他のやむを得ない事由で、引き続き出席できない学生は休学することができます。休学しようとする学生は、「休学願」（所定用紙）を提出し所定の手続きを経て、許可を得なくてはなりません。

病気を理由とする休学の場合、別途、診断書の提出を求める場合があります。

a. <休学願の届出期限、在学期間、および必要な費用>

休学期間	届出期限	在学期間	必要な費用（休学在籍料および諸会費）	
年間休学	5月31日	0年	休学在籍料（10万円）を納入	当該年度の諸会費を納入
春学期休学		0.5年 （秋学期在学分）	休学在籍料2分の1 （5万円）を納入	当該年度の諸会費を納入
秋学期休学	10月31日	0.5年 （春学期在学分）	休学在籍料2分の1 （5万円）を納入	

※ 4年生に進級した春学期（1期）授業料納付時には、校友会費の納入が必要です。

※ 入学（転籍、転学、編入学、継続学士入学、復学及び復籍を含む）した当該学期に休学する場合、当該学期の「授業料・実験実習料・教育充実費・諸会費」は全額納入することとなります。なお、この場合の休学在籍料については、休学該当期間のうち入学した当該学期の納入は要しません。

b. 休学期間・回数等

年間休学、春学期・秋学期休学に関らず、当該年度に限ります。年度を超えて引き続き休学を希望する場合は改めて申請をし、連続して2年に限り許可を受けたうえで休学することができます。ただし、休学期間は通算して4年を超えることはできません。また、修業年限を超えることはできません。春学期・秋学期休学はそれぞれ0.5年として計算します。

なお、休学者は復学願を提出する必要はありません。

c. 4年次での休学

4年次生が秋学期休学をする場合、以下全てを満たしていれば当該年度終了時に、本人の意志にかかわらず卒業となります。

- ・当該学年の在籍期間が休学願申請時に4年以上である。
- ・卒業所要単位を修得済みである。（または休学年度において修得済みとなる。）
- ・4年次で4単位以上修得している。（留級した場合は通算して4単位以上）

d. 卒業および進級の扱いについて

- （1）学位授与の要件である「4カ年以上在学し」「卒業所要単位を修得」（学則第49条1項）には、半期在学者の在学期間（0.5年）及びこの期間に修得した単位の累積を含むものとします。
- （2）卒業要件及び進級要件を充足している限り、半期在学者であっても当該年度の卒業及び翌年度の進級を認めるものとします。但し、進級の場合は、学生は各年次で通算して1年以上在学し、所定の単位数を充たさなければならないものとします。なお、進級時期は学年度始め（4月）に限る。
- （3）本人の申請により9月卒業を認めます。この場合、事前に「9月卒業申請書」を提出した申請者についてのみ9月卒業判定を行うので、希望者は4月下旬までに申請してください。なお、9月卒業の学位授与式は当該年度の9月下旬に実施します。（9月卒業については27頁を参照すること。）

具体的適用例

(1) 卒業の場合(いずれも判定時に卒業所要単位は満たしているものとする)

a. 3.5年での卒業は認められない(通算在学年数は必ず4.0以上であること)

1年次		2年次		3年次		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
						休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5

在学年数=3.5年
卒業保留

b. 4.0年以上の在学年数であれば、半期休学があっても卒業を認める(ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない)

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次(卒保)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
						休学		休学	
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5		0.5
						休学			休学
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	

在学年数=4.0年
卒業可
3月卒業 (自動的に卒業)

c. 3.5年の在学年数で卒業保留となり、5年目に「9月卒業申請」のある場合(ただし、2回目の4年次は授業料減免の条件を満たさない)

1年次		2年次		3年次		4年次		4年次(卒保)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
						休学			
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5		0.5	0.5	

在学年数=4.0年
卒業可
9月卒業 (申請による)

d. 4.0年の在学年数で3 → 4年に進級し、5年目に「9月卒業申請」のある場合

1年次		2年次		3年次		3年次(留級)		4年次	
春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	0.5	

在学年数=4.5年
卒業可
9月卒業 (申請による)

(2) 進級の場合(いずれも4月1日の時点で進級に必要な科目・単位数は満たしているものとする)

a. 累積で進級に必要な在学年数を満たしていれば進級は可

1年次		1年次(留級)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
	休学	休学	
0.5			0.5

在学年数=1.0年
1年次から2年次への進級可 (自動的に進級)

b. 累積で進級に必要な在学年数を満たしていても、進級は学年度始めに限る

1年次		1年次(留級)	
春学期	秋学期	春学期	秋学期
	休学		
0.5		0.5	0.5

在学年数=1.5年
2年目の春学期末に進級要件を満たしていても
1年次から2年次への進級は学年度始めに可 (自動的に進級)

※9月卒業を希望する場合は4月下旬までに「申請」が必要となります。

②退学

退学しようとする場合は、「退学願」（所定用紙）を提出して許可を受けなければなりません。学費は願い出た日より、下記のとおり納入済みであることが必要になります。なお、秋学期に退学する場合、当該年度に履修登録した秋学期科目および通年科目は無効となります。

退学願届出期間	退学日	学費納入状況
4月1日～ 5月31日	前年度の3月31日付	前年度退学となり、当該年度（退学願提出年度）の学費を納入する必要はありません。
6月1日～10月31日	9月15日付	春学期分の学費を納入済のこと。
11月1日～ 3月31日	当該年度の3月31日付	当該年度の学費を全額納入済のこと。

③復学

退学した者が復学を希望する場合は、「復学願」（所定用紙）を提出し、教授会の許可を受けなければなりません。

- ① 復学の時期は、学年始め（4月1日）又は秋学期の始め（9月16日）とします。
- ② 復学を願い出る場合、春学期に復学を希望する場合は前年度2月まで、秋学期に復学を希望する場合は当該年度の6月までに現代福祉学部事務課に相談してください。
- ③ 病気回復による復学の場合は、必ず医師の診断書を添えてください。
- ④ 上記願書により復学を許可されたときは、再入学金として10万円と当該年度の学費半期分を納入しなければなりません。

④除籍

下記の事項のうち、どれか一つにでも該当する場合は教授会の議を経て除籍となります。除籍となった年度の単位修得はできません。秋学期に除籍となった場合は、当該年度に履修登録した秋学期科目および通年科目は無効となります。

- ① 学費を所定の期日までに納入しない場合
- ② 在学年限（休学期間を除き8年）を超えた場合
- ③ 休学期間（連続2年、通算4回）を超えた場合
- ④ 新入生で指定された期限までに履修登録をしないなど、修学の意志がないと認められる場合

⑤復籍

除籍された場合で復籍を希望する場合は、現代福祉学部事務課へ相談してください。

なお、復籍の時期は学年始め（4月1日）又は秋学期の始め（9月16日）とします。

⑥学生の懲戒について

学生の懲戒は法政大学学則第53条及び第53条の2に規定されています。学則又は大学の命に背いたり、その他、学生の本分に悖ると大学が認めた者は懲戒処分を課せられます。懲戒の種類は譴責、停学、退学の3種です。懲戒処分は皆さんの進級や卒業に影響を及ぼすことがあります。

(1) 退学について

退学処分は次に該当する者に対して行います。

- a. 著しく性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- b. 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に著しく反した者
- c. 大学の名誉を著しく毀損した者

(2) 停学について

停学処分に関する基本的な考え方は以下のとおりです。

- a. 停学は6ヵ月以下の有期又は無期とする。
- b. 停学期間は、在学年数に算入するが、修業年限には算入しない。但し、3ヵ月未満の停学に限り、修業年限に算入することができるものとする。
- c. 停学期間が6ヵ月の停学又は無期停学の場合には、当該年度において進級及び卒業することを不可とする。
- d. 停学期間中は、大学から指示がある場合を除き、授業及び試験等への出席を含めて、原則として大学への入構、および大学施設の利用を不可とする。また、課外活動への参加も不可とする。
- f. 停学期間中は、休学及び法政大学学則第35条の規定による留学（派遣留学・認定留学）は許可しない。

⑦改姓・改名、住所、電話番号、保証人などの変更

改姓、改名をした場合は住民票（マイナンバーの記載がないもの）を持参の上、現代福祉学部事務課へ届け出てください。また、本人や保証人の住所や連絡先が変わった場合、ただちに現代福祉学部事務課へ届け出てください。保証人の変更を余儀なくされた場合には、あらためて保証人を選定し現代福祉学部事務課へ届け出てください。

学費について

学費の納入は入学時に指定した学費納付書送付先宛に送付する「学費納付書」によって行って下さい。

学費納付書は1年留級生及び2～4年生については、4月上旬に1年間分（第Ⅰ期・第Ⅱ期分）をまとめて郵送します。また、新入生の第Ⅱ期分（秋学期分）については、6月頃郵送します。学費納付書を紛失した場合は多摩事務部総務課（総合棟4階）で納付書の再発行を受けて下さい。

<学費納入期限>

第Ⅰ期分（春学期分）	4月30日まで	第Ⅱ期分（秋学期分）	9月30日まで
------------	---------	------------	---------

当日が金融機関の休業日に当たる場合は、その直前の営業日までに納入するようにしてください。なお、いったん納入した学費は返金できません。

- ① 学費を一括で納入できない場合、納入期限を所定の期日まで延長することができます。納入期限の延長を希望する場合は、現代福祉学部事務課へ申し出てください。延納期限までに学費が納入されなかった場合、大学から「除籍通知」を発送します。(除籍については157頁を参照すること。)
- ② 学費を所定の期日までに払えない場合、応急貸費奨学金制度や学費ローン制度を利用することができます。詳細については、早めに学生生活課へ問い合わせてください。

留級者・休学者の授業料、実験実習料および教育充実費については、該当者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、諸会費については、当該年次の額として定められたものを納入してください。

■卒業保留者の学費

第4年次終了までに卒業所要単位を修得できなかった者の授業料、実験実習料及び教育充実費は、該当者の入学年度に定められたものを適用します。ただし、諸会費は、当該年次の額として定められた額とします。また、未修得単位が24単位以内の者の授業料は半額とします。9月卒業希望者は更に半額(年間の1/4)とします。

■復学者・復籍者の学費

退学して復学を希望する場合、除籍となって復籍する場合の授業料、実験実習料及び教育充実費については、当該年次の通常進級者の入学年度に定めたものを適用します。ただし、再入学金については、復学者・復籍者とも、10万円です。また、諸会費は、当該年次の額として定められた額とします。

転籍・転部・転科について

転籍とは、学部が同一であるか否かを問わず、第二部あるいは通信教育課程の学生が、第一部へ移ること、または第一部の学生が通信教育課程へ移ることをいいます。

転部とは、第一部の学生が、第一部の他の学部へ移ることをいいます。

転科とは、第一部の学生が、現在在籍している第一部の学部の他学科へ移る場合のことをいいます。

転籍・転部・転科に際しては試験を実施しています(通信教育課程への転籍を除く)。試験要項は7月上旬より法政大学HPにて公開する予定です。

転籍、転部、転科はいずれも2年次または3年次に進級する場合に志願することができます。転籍や転部を希望する場合は、早めに現代福祉学部事務課か、転籍や転部を希望する学部の事務へ相談してください。

なお、指定校推薦入学試験により入学した場合は、他の学部・学科への転部・転科は原則として認められません。

証明書について

各種証明書の申請・発行

申請により証明書を発行します。証明書には現代福祉学部事務課に設置されている「証明書自動発行機」（3キャンパス共通）で即日発行されるものと、事務課窓口で申請書を提出して発行されるものがあります。窓口で発行される証明書の場合、種類・申請時期によっては若干日数を必要とすることもありますので、早めに申請してください。

①証明書の種類

	証明書の種類	手数料	発行方法
自動発行機で申請・発行	在学証明書 卒業見込証明書（4年生のみ） 成績・卒業見込証明書（4年生のみ） 成績証明書 履修登録科目証明書 英文各種証明書 健康診断書（4年生のみ） 学生運賃割引証明書（学割）	1通につき ￥200	自動発行機で申請・発行
		無料	
現代福祉学部事務課で申請・発行	卒業証明書 成績・卒業証明書 指定科目履修（見込）証明書（国家試験受験用） 教育職員免許状取得見込証明書 その他の証明書	1通につき ￥200	現代福祉学部事務課で申請・発行（1～3年生の健康診断書は多摩診療所にて発行）
	通学証明書	無料	
	学生証再発行	￥2000	

※ JR、私鉄および京王バス、神奈川中央バスの通学定期券は、学生証を提示することにより購入できます。その他の市バス等で「通学証明書」が必要な場合は現代福祉学部事務課で申請して下さい。

※ 学生運賃割引証明書は、片道100kmを超えてJR線に乗車する場合に使用することができます。運賃の割引率は2割で、有効期間は3ヵ月です。郵送での申請はできません。

②健康診断証明書

健康診断証明書は、**大学の健康診断を受診した4年生のみ**自動発行機で発行することができます。実習に関する健康診断及び健康診断証明書の発行については、別に掲示等でお知らせします。学年に関わらず、学外指定用紙や追加検査項目がある場合には、診療所窓口で申請してください。

発行については次のとおりです。

4年生：5月11日～2021年3月23日迄証明書自動発行機（3キャンパス共通）にて発行

1年生～3年生：5月中旬～多摩診療所窓口にて申請受付

※ 診療所窓口での受付は即日発行できません。余裕をもって申請してください。

※ 就職のための「健康診断証明書」の発行対象は4年生で3年生には発行しません。

※ 郵送による申請はできません。

③郵送での申請

健康診断証明書及び学割証以外の証明書は、郵送による申請も可能です。その場合、学部、学科、学生証番号、氏名、生年月日、連絡先電話番号、必要な証明書の種類と枚数を明記のうえ、本人確認ができる証明書（コピー可）、手数料分の郵便切手、返信用封筒（宛名明記・切手貼付）を同封し、現代福祉学部事務課宛に送ってください。

なお、電話やFAXでの申請はできません。

④各種証明書発行時の本人確認について

本学では、個人情報保護の観点から、各種証明書の発行時に、公的機関発行の身分証明書（本学学生の場合は学生証）の提示により、本人確認を行っています。なお、身分証明書に記載されている個人情報は、本人確認等の目的のみに使用し、使用後は責任をもって速やかに廃棄または返却しています。

学生生活について

①掲示板の利用

現代福祉学部棟1階の学生ラウンジ内の柱まわりの掲示板は学生用です。基本的には学生自身の意志により、自由に掲示できます。掲示物はA1版以内のサイズで、のり付けは禁止します。必ず画鋏を使用し、1ヵ所の掲示板（1面）に複数枚同じ掲示物を貼ったり、個人を誹謗中傷するような公序良俗に反する内容、あるいは著しく美観を損なう掲示物の掲示を禁止します。

なお、毎月末には全掲示物をはがしますので、長期間の掲示はできません。

②学生ラウンジの使用

現代福祉学部棟1階の学生ラウンジは、学生の憩いの場として設けています。ノートパソコンを持ち込み、学内LANへ接続し利用することができます。授業の準備や打ち合わせ、コミュニケーションの場として利用してください。

軽食やジュース・コーヒーなどを飲食する際には、環境美化に心がけゴミはゴミ箱に入れ、他の利用者へ迷惑にならないようにしましょう。

なお、一部の学生やサークルによる学生ラウンジ内の恒常的な場所の確保は禁止します。

③教室の貸出

ゼミやサークルの活動などで現代福祉学部棟の教室を使用したい場合は以下のとおり手続きしてください。

<ゼミで使用する場合>

ゼミの担当教員により事務課に予約連絡をしてもらうことで使用できます。

<サークル等で使用する場合>

■貸出教室と貸出時間

貸出教室	貸出時間	注意事項
201、202、203、 204、301、302	昼休み（12：55～13：45）	3時限目の授業開始に差支えないように使用してください。
スタディルーム	一度に2コマまで予約可能 ① 9：25～11：05 ② 11：15～12：55 ③ 12：55～13：45 ④ 13：45～15：25 ⑤ 15：35～17：15 ⑥ 17：25～19：05	※試験期間は利用可。 （貸出時間は①～⑥） ※夏季休業期間は利用可。 （貸出時間は9：25～ <u>16：00</u> <u>まで</u> ） ※冬季休業期間は利用不可。 ※春季休業期間は利用可。 （貸出時間は9：25～ <u>16：00</u> <u>まで</u> ）

■予約方法

- ①「教室使用願」（所定用紙）を使用の原則2日前までに現代福祉学部事務課へ提出し、許可を受けること。
- ②予約は使用する日の1カ月前より受け付けます。

■使用にあたっての注意

- ・教室内の机や椅子を移動した場合は必ず元に戻すこと。
- ・使用時間を厳守すること。
- ・騒音等により使用教室外に迷惑がかかる行為は禁止します。

④パソコンの貸出

<ゼミの授業でパソコンを使用する場合>

ゼミ単位でノートパソコンを借りることができます。ただし、担当教員経由での貸出となるため、先生から連絡を入れていただくことが必要となります。

■貸出場所：現代福祉学部棟3階講師室または2階コンピュータ実習室

<個人で利用する場合>※授業時間以外に使用する場合

個人利用のパソコンで、当日貸出があります。（貸出延長不可、予約不可）

■貸出場所：総合棟3階 総合情報センター多摩事務課（要学生証）

⑤コピー機の利用

コピー機は現代福祉学部棟1階ラウンジ奥に設置されています。使用にあたって多摩図書館2階またはEGG DOME4階等で販売している「コピーカード」を購入のうえ、利用してください。

現金でコピー機を利用したい場合は、多摩図書館1階または総合棟地下1階に設置してあるコピー機を利用してください。

⑥キャンパス内禁煙について

多摩キャンパスでは館物内全面禁煙となっています。学生ラウンジ内での喫煙も禁止されています。喫煙される方は灰皿のある所定の喫煙場所で喫煙してください。

ゼミ合宿の補助について

ゼミ合宿で（株）エイチ・ユーが「ゼミ合宿の宿」として提携・紹介する宿泊施設を利用した場合に宿泊料補助を行っていますので、ぜひご利用ください。詳細は以下の大学ホームページに掲載しています。

(HOME) > キャンパスライフ > 学生生活サポート > ゼミでの契約宿舎利用における宿泊料補助)

<http://www.hosei.ac.jp/campuslife/support/keiyaku/index.html>

和ちゃん奨学金について

和ちゃん奨学金は、天野教之氏、天野美子氏ならびに天野高美氏のご寄付により創設された、現代福祉学部生のための給付型（返還不要）の奨学金制度です。

寄付者のご意向により、現代福祉学部の2年次～3年次に在籍する学業成績が優秀で、とりわけ障がい者福祉に強い関心を有する学部生に対し、経済的支援を行うことを目的としています。本奨学金の名称は、天野氏のご親族で、障がいを持ち早逝された 佐藤 和美（さとう かずよし）さんのお名前に由来しています。

出願資格や応募時期は、6月上旬頃に配布する募集要項を確認してください。

給付金額（年額）	採用予定数	採用学年	応募・採用条件
15万円	若干名	2～3年生	学業成績が優れ、障がい者福祉に強い関心を有する者

2. 他の学生関連事務部局等

多摩図書館（図書館・研究所棟）

図書館では様々な資料や学習スペースを用意して、みなさんの学習をサポートしています。

また、図書館では年間を通して、文献検索やデータベースの使い方を案内する“実習型ガイダンス”を行っています。1年生向け「基礎ガイダンス」と、2年生以上向け「専門ガイダンス」の2段階に分け、大学での学習・研究に役立つ資料収集スキルの習得をお手伝いします。内容は下記のとおり予定しています。（ただし、変更となる場合があります）

学年	ガイダンス名	内容
1年生	文献検索 基礎ガイダンス ※「基礎演習」のクラス単位で参加	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館蔵書検索（OPAC） ・蔵書・電子資料の横断検索（HOSEI Search） ・基本データベースの紹介（辞書事典、新聞、雑誌記事・論文） ・文献の引用方法、館内案内ツアーなど
2～4年生	文献検索 専門ガイダンス ※「専門演習」のゼミ単位で参加	<ul style="list-style-type: none"> ・学術データベースの紹介、論文入手方法 ・蔵書・電子資料の横断検索（HOSEI Search） ・統計情報の調べ方 ・文献の引用方法、4階学術雑誌コーナー案内など

図書館は資料を探すだけの場ではなく、様々な活用方法があります。

- 〈3階〉PC利用エリア…電源プラグ完備の閲覧席全60席。ノートPC等を持ち込んで利用可能。
- 〈3階〉学習室1〔オープンPCエリア〕…デスクトップPC全118台。データベース利用可能。2・3階で利用可能なノートPC貸出あり。
- 〈3階〉学習室3…10～30人で利用可能。プロジェクター・ホワイトボードあり。2階カウンターにて要予約。
- 〈3階〉グループ学習室1・2・3…4～16人で利用可能。プロジェクター・ホワイトボードあり。2階カウンターにて要予約。
- 〈3階〉ラーニングcommons…会話可能のオープンスペース。グループ学習に最適。
- 〈3階〉クリエイティブルーム…くつろぎながら学習したい方へ。カフェをイメージした開放的な学習室。
- 〈2階〉視聴覚室〔AVコーナー〕…1～2人でDVD・VHS視聴可能。20ブースあり。読書や勉強の息抜きに最適。
- 〈1階〉サイレントスタディールーム…より静かな環境で集中したい方へ。電子機器等が使用不可の学習室。

その他図書館に関するサービスは、館内に設置の「多摩図書館利用ガイド」を参照してください。

資料探しや学習サポートに関する相談窓口

図書館1階レファレンスカウンター 平日9:00～17:00 土曜日9:00～12:00

フロアインフォメーション

多摩図書館（図書館・研究所棟）

4階	閲覧席、学術雑誌（和雑誌、洋雑誌、国内外政府刊行物、国際機関刊行物）	
3階	閲覧席、PC利用エリア（60席）、学習室1〔オープンPCエリア〕（PC118台設置）、学習室2〔ガイダンスルーム〕、学習室3（30席）、グループ学習室（3室各16席）、ラーニングcommons（30席）、クリエイティブルーム（52席）	
2階	閲覧席、学習用図書、国内新聞、文庫・新書、レポート作成本、就職・資格本、教員著作本、教科書、語学辞書、学生選書、視聴覚室〔AVコーナー〕（20ブース）、英語多読図書	
1階	閲覧席、レファレンスカウンター、参考図書、CD-ROM/オンラインデータベース専用PC、サイレントスタディールーム（46席）、マイクロ資料室、新着雑誌（6ヶ月～1年分）、外国新聞、政党新聞	
地下1・2階	研究用図書、大学紀要、個人文庫、多摩地域資料、貴重書、準貴重書（修士論文・雑誌創刊号）	
開館時間	月～金	9:00～21:00
	土	9:00～18:00
	日	10:00～17:00

※ 開館時間及び休館日は図書館ホームページを参照してください。

※ 利用の詳細は、館内に設置の「多摩図書館利用ガイド」を参照してください。

※ ホームページ <http://www.hosei.ac.jp/library/>

※ 各階への移動方法

<1階⇔2階> ゲート外の階段またはエレベーターをご利用ください。

<2階⇔3階> ゲート内の階段をご利用ください。

<1階⇔4階> ゲート内のエレベーターをご利用ください。

<1階⇔地下1・2階> ゲート内の階段またはエレベーターをご利用ください。

多摩学生生活課（EGG DOME 2階） TEL：042-783-2151

多摩学生生活課の業務は下記の通りです。

1. 奨学金

奨学金には、「法政大学独自の奨学金」「(独)日本学生支援機構奨学金」「民間奨学財団・地方公共団体等の奨学金」があります。経済的支援を目的とした奨学金の募集は主に4～5月に集中するので、掲示等で確認してください。また、家計急変に伴う奨学金や、不測の事態に対応する短期間の貸付等の制度があります。詳細は多摩学生生活課にお問い合わせください。

また、本学独自の奨学金には「開かれた法政21」奨学・奨励金、「L・U奨学金」などがあります。これは、法政大学120周年を記念し、学業・スポーツ・芸術・ボランティア活動などの各分野で優れた業績をあげた学生を奨励するために設けられた給付制度です。積極的な出願を期待しています。

学業、スポーツ、芸術、ボランティア活動など各分野で優秀な学生を奨励する制度

奨学金の名称	金額 (年額)	2020年度 採用予定者数	採用 学年	応募・採用条件	応募先・時期
成績最優秀者 奨学金	30万円	300名	2～4 年生	各学部2～4年生の前年度成績上位者【指名制】 学部ごとの採用数は学部定員比による。	指名制のため応募 不要
認定海外留学 奨学金	30万円 半期留学は 半額	15名以内	2～4 年生	単位認定が受けられる本学の認定海外留学生採用 者には、別途「後援会認定海外留学奨学金」10 万円が支給されます (半期留学は半額)。	多摩グローバル教 育センター (5月・12月)
「開かれた法政21」奨学・奨励金 スポーツ 奨励金	右記(1)の場合 40万円 右記(2)(3)の場 合 20万円	応募・採用 条件を 満たす者	1～4 年生	原則として体育会に所属し、当該年度に次の(1) ～(3)のいずれかの実績を残した者 (1) オリンピック競技大会、パラリンピック競技 大会、アジア競技大会、ユニバーシアード競技大 会及び各競技の世界選手権大会のいずれかに日本 代表として選出された者 (2) 全日本選手権大会又は全日本学生(大学)選 手権大会で優勝した者 (3) 年齢別世界選手権大会に日本代表として選出 され試合に出場した者 ※体育会に所属していない者は、オリンピック競 技大会およびパラリンピック競技大会にて実施さ れる競技種目において、前の(1)～(3)のい ずれかに該当する者とする。	多摩 学生生活課 (12月)
学術・文化 奨励金	30万円を上限	20名(団体) 以内	1～4 年生	学術・研究・ボランティア活動・文化・芸術・芸 能・スポーツ等の分野で秀でた業績をあげた者ま たは団体	多摩 学生生活課 (11月)
指定試験合格 者奨励金	当該年度の 授業料相当額 ※1	応募・採用 条件を 満たす者	1～4 年生	当該年度に、司法試験予備試験、公認会計士試験、 国家公務員採用総合職試験、税理士試験(全科 目合格)、弁理士試験、司法書士試験に合格した 者	多摩 学生生活課 (11月)

※1 指定試験合格者奨励金は、2021年度より40万円の支給に変更予定です。

奨学金の名称	金額（年額）	2020年度採用予定者数	採用学年	応募・採用条件	応募先・時期	
「L・U奨学金」	L・Uキャリア・アップ奨励金	20万円 ※2	応募・採用条件を満たす者	1～4年生	当該年度に、気象予報士試験、行政書士試験、高度情報処理技術者試験（プロジェクトマネージャ試験、システムアーキテクト試験、ITストラテジスト試験、ITサービスマネージャ試験、エンベデッドシステムスペシャリスト試験、データベーススペシャリスト試験、ネットワークスペシャリスト試験、システム監査技術者試験）、情報処理安全確保支援士試験、社会保険労務士試験、税理士試験（複数科目合格者に在学中1回のみ給付）、中小企業診断士試験、通訳案内士試験、不動産鑑定士試験に合格した者	多摩学生生活課（6月・1月）
	団体スポーツ奨励金	1 団体競技の場合 優勝 100万円 準優勝 50万円 ベスト4 25万円 2 個人競技における団体種目の場合 優勝 50万円 3 個人競技における団体戦で種目別の場合 優勝 20万円 ※ただし、3種目以上の優勝の場合でも上限は1部につき50万円とする。また、総合優勝の場合は50万円とする。	応募・採用条件を満たす団体	1～4年生	【体育会対象】 団体スポーツにおいて優れた成績を収めた団体 ※団体競技の場合： 全日本学生（大学）選手権レベル以上の大会で優勝 または準優勝またはベスト4の成績をおさめたチーム ※個人競技における団体戦及び団体戦で種目別の場合： 全日本学生（大学）選手権レベル以上の大会で優勝したチーム (注) 対象の競技、大会は保健体育センターに問い合わせてください。	保健体育センター市ヶ谷体育課（12月）
派遣留学奨学金	派遣先により A. 100万円 B. 70万円 半期留学は半額	応募・採用条件を満たす者	3・4年生	派遣留学に関する詳細についてはグローバル教育センターにお問い合わせください。 給付金のうち20万円は後援会からの助成額です。	多摩グローバル担当（6月・10月）	
法政大学グローバルキャリア支援基金による海外留学支援奨励金	50万円 (条件付入学者は25万円) 半期留学は半額	若干名	2～4年生	認定海外留学に決定した者のうち、海外一流大学の正規課程に入学許可・条件付入学許可を受けた者	多摩グローバル担当（5月・12月）	

※2 L・Uキャリア・アップ奨励金は、2021年度より5万円の支給に変更予定です。

2. 学生教育研究災害傷害保険

本学では、正課・課外活動中や通学中などでの不慮の事故に備えて、学生教育研究災害傷害保険に加入しています。正課活動中の事故は学部事務課、体育実技・体育会活動中の事故は多摩体育課、課外活動中および通学中の事故は多摩学生生活課まで申し出てください。（病気はこの保険の適用外）。

なお、大学に届出のない団体の活動中のケガは保険適用外となる場合があります。新しい学生団体を設立する場合は速やかに「学生団体設立準備届」を提出してください。

3. EGG DOME の施設管理

バス停上に位置する EGG DOME には、ピアノ練習室、多目的練習室、多目的ホール、会議室等、課外活動に利用できる施設があります。これらの施設は学生証と引き換えに、貸し出しを行います。

4. スポーツフェスティバル（2020年11月11日（水）実施予定）

スポーツを通じて学生同士の交流や親睦を図ることを目的として、今年は秋に実施します。種目はフットサル、ソフトボール、バレーボール、バスケットボール、ドッジボール等（予定）。優勝チーム（者）には多摩キャンパス内でのみ使用できる「たまきゃんマネー」を贈呈します。（賞品は変更となる場合があります。）

5. 課外教養プログラム

正課授業だけでは補いきれない法大生の多様なニーズに応えるため、学生生活課で実施しているプロ

グラムです。「スキルアップ」、「芸術鑑賞」、「見学・体験ツアー」など幅広いテーマで実施しており、いつもの授業とは一味違った体験ができます。

6. 地域にスマイルを届けよう活動助成金制度（募集期間：4月～5月）

地域貢献となる活動で、優秀な企画と認められ、採用された場合は助成金を給付します（最大20万円）。募集時期や詳細は掲示にてお知らせします。

7. その他

アパート、アルバイトの紹介。遺失物の届け、その他サークル等の企画・催しに関する業務を行っています。

多摩情報センター（総合棟3階）TEL：042-783-2143

多摩情報センターは、情報カフェテリア等の情報教育施設やネットワーク環境の整備などを通して皆さんの教育研究活動をサポートしています。

【学内でパソコンを使うには】

学生が利用できるパソコンは以下の場所に設置されています。

- ・情報実習室（総合棟、経済学部棟、現代福祉学部棟、スポーツ健康学部棟）
- ・情報カフェテリア（総合棟、経済学部棟、スポーツ健康学部棟）
- ・学習室、自習室（図書館棟、社会学部棟）
- ・貸出ノートパソコン（総合棟3階 多摩情報センター）

【学内でインターネットに接続するには】

キャンパスのほぼ全域に設置されている無線LANのアクセスポイントを経由してインターネットに接続することができます。

使用方法は法政大学全学ネットワークシステムユーザ支援WEBサイト(<https://netsys.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。教育研究活動に関係のない利用は控えてください。

【学内のパソコン、プリンタの利用や貸出機器についての詳細情報は】

多摩情報センターWebサイト(<https://tedu.ws.hosei.ac.jp/>)をご覧ください。情報カフェテリアの利用時間や混雑状況、学内プリンタやパソコンの利用方法などを掲載しています。

CALL支援室（総合棟2階）・フリーラボルーム

CALL支援室では映画教材で外国語会話の自習ができるように外国映画約2,400本のDVDを所蔵しているほか、英語検定、TOEIC®、TOEFL®、IELTS®などの資格試験用教材も所蔵しています。英語以外にも、独語、仏語、中国語、スペイン語、イタリア語、ロシア語、韓国語の各会話教材や検定試験用教材を揃えており、自習用教材（テキスト、CD等）は貸出（1週間）も行っています。

フリーラボルームには語学支援用パソコンがあり、語学教材ソフトを使ってTOEIC®、中国語などの学習が可能です。

■開室時間

月～金曜日 9：00～16：30（11：30～12：30を除く）

多摩体育課（総合体育館：14号館1階）TEL：042-783-2732

- ・ 正課体育に関すること。
- ・ 体育会の活動に関すること。
- ・ 多摩体育施設の利用に関すること。

◆体育施設

多摩の体育施設は屋外（野球場、テニスコート等）と屋内（総合体育館）があり、主に正課体育授業・体育会活動・サークル活動で利用されています。

◆施設利用時間 *ただし、工事・行事・大学休業期間他による閉鎖・使用制限等があります。

- ・ 授業期間中（補講日・定期試験期間を含む）
月曜日～金曜日 15：30～21：00（21：30までに退構完了のこと）
土・日・休日 8：30～20：00（20：30までに退構完了のこと）
- ・ 授業期間外
月曜日～日曜日 8：30～20：00（20：30までに退構完了のこと）

◆手続き方法

体育施設の利用希望者（所定の団体登録必要）は、多摩体育課備え付けの所定用紙に記入のうえ、前月25日までに提出してください。詳細については多摩体育課にお問い合わせください。

窓口時間 月～金曜日 9：00～11：30 12：30～17：00

*土曜日、日曜日、祝祭日は窓口受付を行いません。

保健課「多摩診療所」（総合棟1階）TEL：042-783-2161

◆学生・教職員の診療に関すること

- ・ 診療内容：主として内科（ケガ等の応急処置も対応）
- ・ 診療受付時間（授業実施期間）：
月曜日～金曜日 10：00～11：15 12：30～15：45
（11：30～12：30を除く）

土曜日、日曜日 休診

- ・ 診療受付時間（夏季および春季休暇期間）：

月曜日～金曜日 12：30～15：45

土曜日、日曜日 休診

- * 水曜日のみ15：30迄
- * 受診に際しては必ず「健康保険証」を持参してください。

◆学生の健康管理に関すること

病気の早期発見や予防などのため、毎年4月上旬に定期健康診断を実施しています。この健康診断を実施しないと体育実技の登録に支障をきたすだけでなく、奨学金の申請や就職活動等に必要な「健康診断証明書」が発行できませんので十分注意してください。

◆健康診断証明書に関すること

健康診断証明書は、大学の健康診断を受診した場合にのみ発行できます。実習に関する健康診断証明書の

発行および学外指定用紙や追加検査項目がある場合は、学年に関わらず診療所の窓口申請してください。

◆発行および期間

・4年生：5月11日～2021年3月23日迄

証明書自動発行機（3キャンパス共通）にて発行

（発行されない場合は診療所窓口にお問い合わせください）

・1年生～3年生：5月中旬～ 多摩診療所窓口にて申請受付

* 診療所窓口での受付は即日発行できませんので余裕をもって申請してください。

* 就職のための健康診断証明書の発行対象は4年生で3年生には発行しません。

* 郵送による申請は受け付けません。

* 申請受付は2021年3月22日までです。

◆健康診断結果のお知らせに関すること

・6月15日～証明書自動発行機で受診者全員に1人1枚無料で発行

（2021年3月23日迄）

多摩学生相談室（総合棟2階） TEL：042-783-2158

大学生活で出会うさまざまな問題について、一緒に考え解決の糸口を探すなど、よりよい一歩を踏み出すお手伝いをしています。「誰に相談したらよいかわからない」「ちょっと話を聞いてほしい」時など、気軽にご利用ください。話すことで気持ちが楽になったり整理されたりします。臨床心理士等の専門の資格をもった心理カウンセラーが丁寧にお話を伺いますので、ひとりで悩む前にぜひお立ち寄りください。

<例えばこんなときに>

- ・人間関係がうまくいかない。
- ・自分が人と違う気がする。自分の性格を知りたい。
- ・大学になじめない、大学に行きたくない。
- ・気分が落ち込む、眠れない、不安が続く。
- ・自分の生き方や将来、就職などに不安がある。

◎秘密は守ります

相談内容はもちろん、来室していること自体も秘密として守られますので、安心して利用してください。（来室者ご本人、または他者の生命、身体に危険がおよぶ可能性がある場合などは、例外的にご家族や関係者の方にお知らせすることがあります。）

◆開室時間

月～金曜日 9：30～16：30（但し、11：30～12：30は昼休み）

障がい学生支援室（多摩）（総合棟2階） TEL：042-783-4038

E-mail：tmshien@hosei.ac.jp

大学には、様々な障がい（身体・発達）を持った学生が在籍しています。

他の学生と同レベルで講義を受けられるよう支援すること（講義保障）を中心に、学生が社会へ出るた

めの自立をサポートし、障がい学生と支援学生の双方が成長できるコミュニティ作りを目指しています。

支援室の活動の多くは、学生ボランティア（障がい学生サポートスタッフ）によって支えられています。サポートスタッフは、ノートテイク講座など必要な講習を受けて支援室登録し、サポートが必要な学生の講義へ派遣されています。なお、スタッフへは、活動に応じた謝礼が大学から支払われています。

◇支援室の主な活動

障がい学生との個別面談、各学生に合った講義保障の手配、定期試験や授業内試験時の配慮、教員への配慮事項の伝達、学生生活支援、進路・就職支援、各種講習会の実施など。

◇開室時間

月曜日～金曜日 9：00～17：00（昼休み 11：30～12：30）

多摩地域交流センター（総合棟2階）

座学だけでなく、実践を通じた学びもしたいと思う皆さん、お気軽に総合棟2階の多摩地域交流センターを訪ねてください。

多摩地域交流センターは、「開かれた知と学び - 地域まるごとキャンパス」をテーマに、学生の皆さんの主体的な地域における取り組みを通じて、皆さんの成長やキャリア形成、さらには大学の使命である社会貢献を図ってきています。

（当センターでできること）

- ・地域交流・地域連携に関する相談
 - ・町田市、八王子市、相模原市を中心とした多摩地域に関する情報提供
 - ・既存の「学生プロジェクト」への参加・運営に関する相談
- ※当センター独自の「学生プロジェクト助成金」もあります。
- ・新たなプロジェクト立ち上げ、運営に関する相談
 - ・センターが募集する各種イベントへの参加・相談
 - ・センター開講科目「多摩地域形成論」に関する相談
 - ・地域で「何がしたいのか、どうすれば良いのか」わからない時の相談

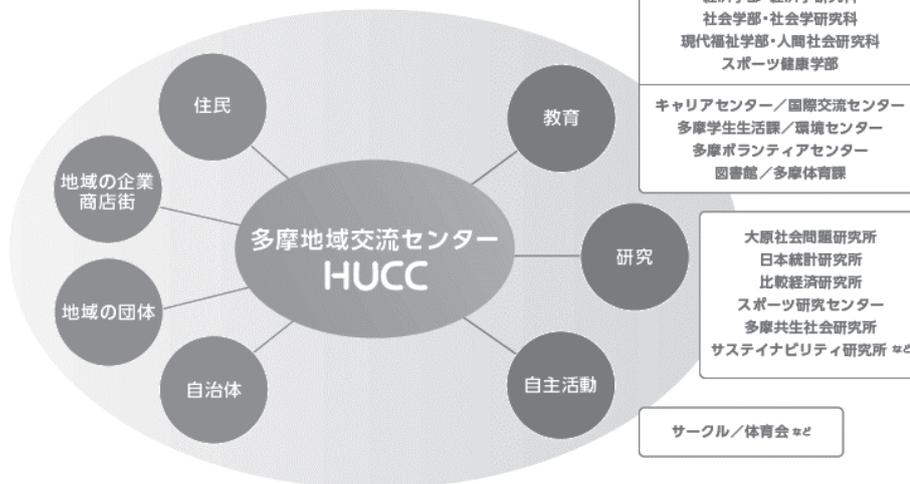
（活動事例）※過去の事例も含まれます。

- | | |
|-----------------------|----------------------|
| ・小学校での放課後活動のサポート | ・子ども食堂の企画運営 |
| ・カフェを通じた居場所づくり | ・団地のコミュニティ活性化の仕組みづくり |
| ・コミュニティペースを活用したイベント企画 | ・飲食を通じた交流の場づくり |
| ・高齢者支援センターと連携した見守り | ・農業を通じた地域交流 |
| ・新商品のマーケティング | ・地域の魅力発信、つながりづくり |
| ・祭りでの神輿担ぎや囃子演奏、運営 | ・城山湖周辺地域の観光振興 |
| ・伝統文化、伝統芸能の体験、継承 | ・里山の茶畑再生、景観整備 |
| ・景観保全・ホテル再生 | ・空き家を活用した居場所づくり |

※活動の詳細は HP <http://hucc.hosei.ac.jp> または当センターにおたずねください。

近隣地域

法政大学



■開室時間 月曜日～金曜日 9:00～17:00 (11:30～12:30 を除く)

■連絡先 (電話) 042-783-3014 (Eメール) chiiki-kouryu@ml.hosei.ac.jp

ボランティアセンター (EGG DOME 2階多摩学生生活課内)

多摩ボランティアセンターでは、学生の地域でのボランティア活動を促進するため下記のような支援業務を行っています。これからボランティアを始めたい方も気軽にお立ち寄りください。

◆ボランティア情報の発信

- ・ボランティア募集情報の掲示：法政大学全学ボランティアセンター以外には、各地の行政、団体から寄せられたボランティア情報は審査を経て、掲示板、ラックで公開します。分野は高齢者・児童・障がい者支援・被災地支援・地域支援（町おこし・近隣清掃など）があります。
- ・ボランティア登録：窓口で登録すると募集中のボランティア情報やセンターが主催するイベントなど学生の皆様のボランティア活動等の一助として活用いただける内容をお届けいたします。
- ・ボランティア関連紙：ボランティア募集のチラシの他、地域のボランティアセンター発行紙などもありますので活動の参考にしてください。

◆ボランティアのきっかけ作り・体験

ボランティアに参加するきっかけとなる企画を学生スタッフが実施し、学生から学生へとボランティア経験の輪を広げています。スタッフは学生の視点で発案し、参加を呼びかけ、地域と連携し、学びながら学生同士で考え、伝え合う機会を作っています。まずは一緒に参加してみましょう。

◆ボランティア相談

募集情報でわからないこと、活動上の相談には、個人、グループ、団体どなたでも担当職員が対応しています。

◆開室時間：月曜日～金曜日 9：00～11：30、12：30～17：00

TEL：042-783-2073

FAX：042-783-2074

ハラスメント相談室（市ヶ谷キャンパス）

「法政大学はハラスメントを禁止しています」

専門相談員がお話を伺い、解決に向けてサポートします。ハラスメントを受けていると感じたら、一人で悩まずにご連絡ください。あなたの名誉やプライバシーに配慮しますのでどうぞ安心してご相談ください。

◇開室時間

月曜日～金曜日 9：30～11：30、12：30～16：30（ただし、11：30～12：30は応相談）

※土日、祝日は閉室です。

◇場所

市ヶ谷キャンパス（必要な場合は他キャンパスへの出張相談も可能です。）

※ハラスメント相談室では、6月～1月（夏季、冬季休業期間を除く）の間、毎月1回、多摩キャンパスへの巡回相談を実施しています。日程については掲示や当室のホームページをご覧ください。相談室までお問い合わせください。

◇相談方法

相談は面談を基本としています。必ず電話またはメールにて、事前の予約をお願いします。

◇連絡方法

電話：03-3264-4409

FAX：03-3264-4410

E-mail：stopharass@hosei.ac.jp

※パソコンからの返信となりますので「@adm.hosei.ac.jp」ドメインからのメールを受信できるように設定してから送信してください。

◇公式 web サイト URL

http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/index_1.html

※詳細は公式 web サイトをご参照ください。

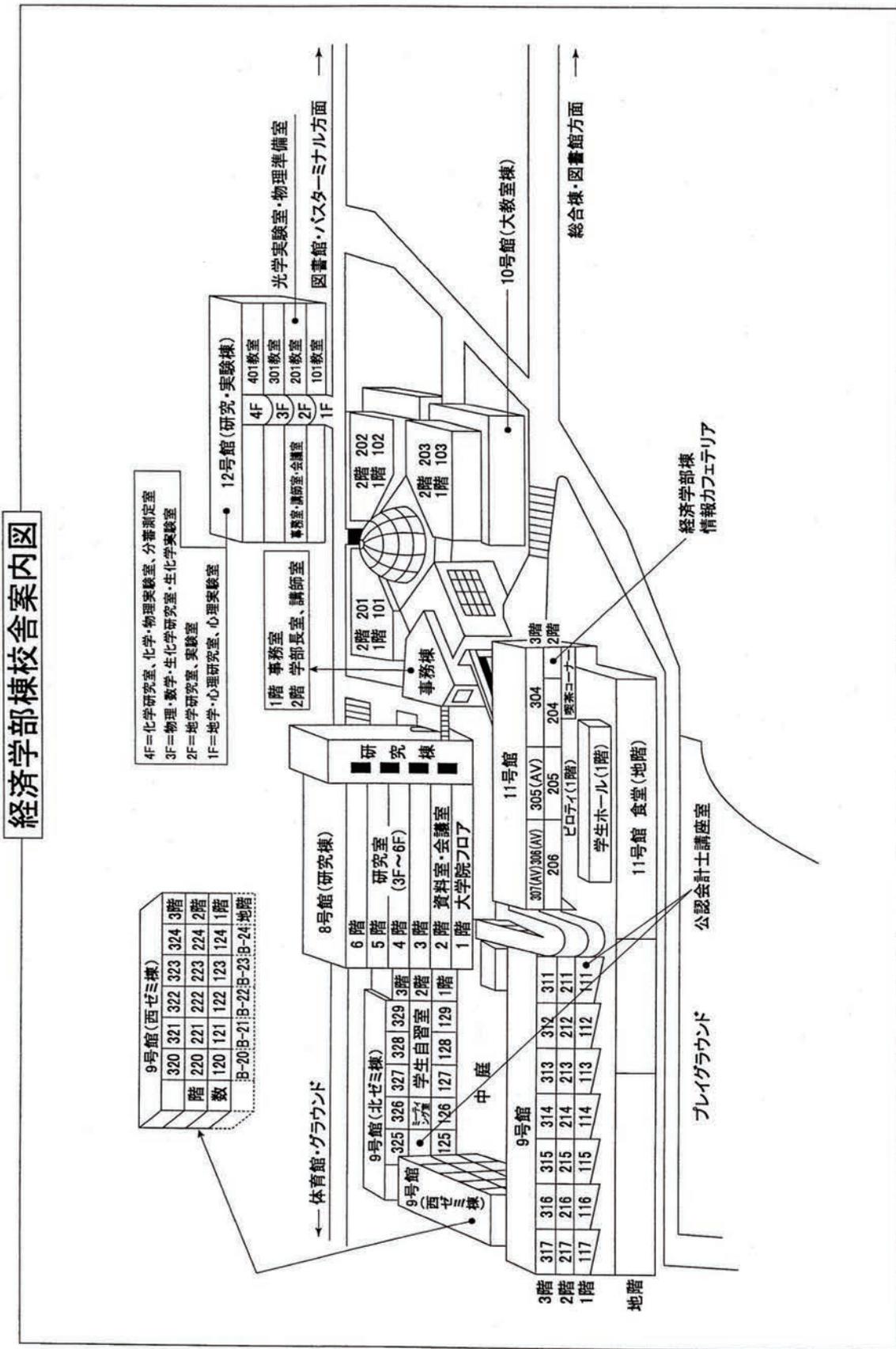
総務課（総合棟4階） TEL：042-783-2091

校内循環バスの臨時運行・百周年記念館の利用案内と利用料金の収納事務、学費振込用紙の再発行を行っています。

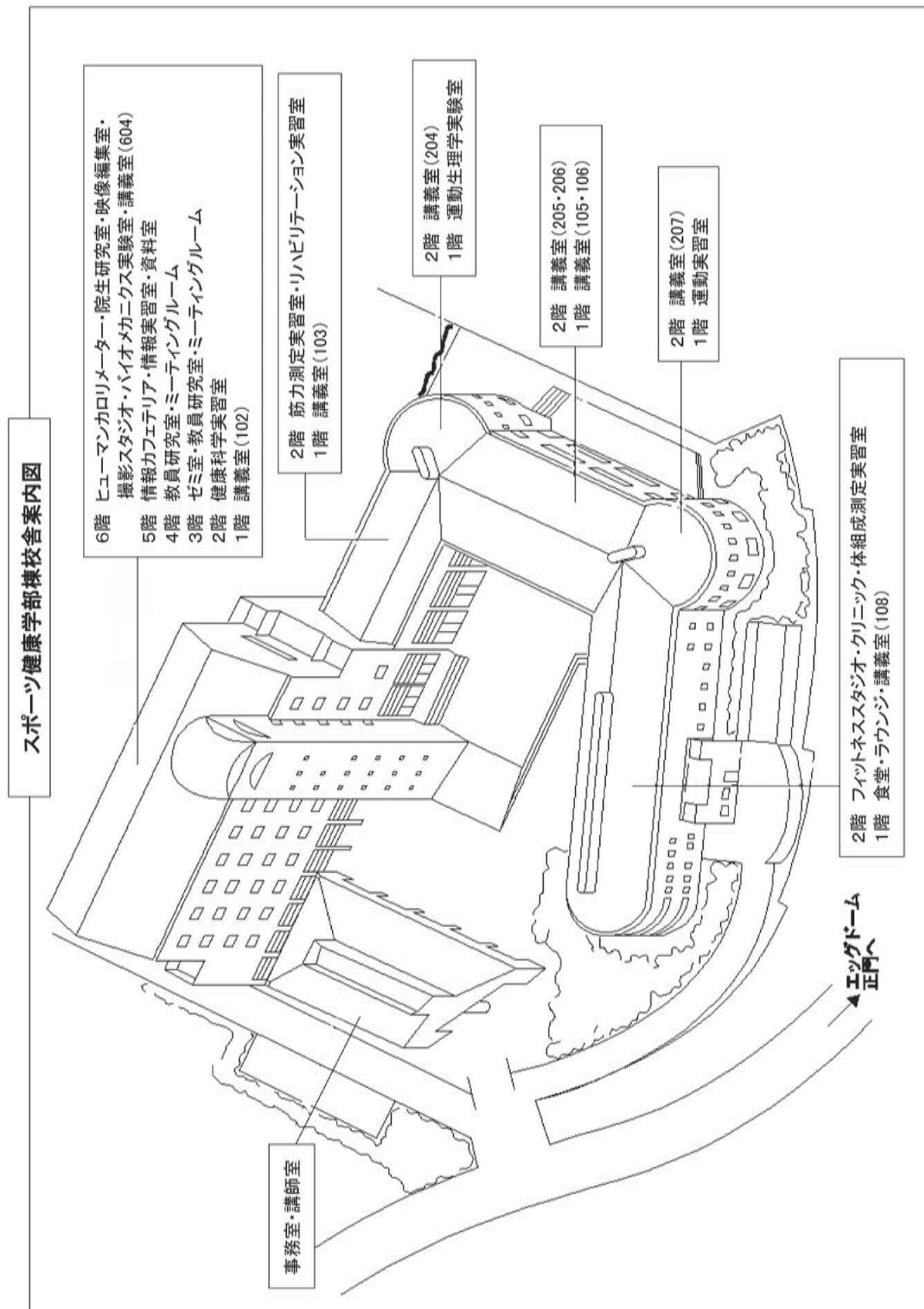
受付時間…（月～金）9：15～17：00（11：30～12：30は昼休み）

VII. 付 録

経済学部棟校舎案内図



スポーツ健康学部棟校舎案内図



法政大学 現代福祉学部
履修の手引き
【2014-2017年度入学者用】

〒194-0298 東京都町田市相原町4342

TEL 042-783-2806

社会の多様な課題に 3つの領域からアプローチします

臨床心理学科

心を支える

臨床心理

人生・暮らしを
支える

ソーシャルワーク

地域を支える

コミュニティ
マネジメント

福祉コミュニティ学科

